カトリック

平田司教認可
発行所 福岡市中央区浄水通 福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者・千内 松村 義雄

教区創立五十周年の年

福岡司教 ペトロ 平田 三郎

救主イエズス・キリストのご降誕、一九七七新年をむかえ、福岡教区の司祭・修道者・信徒のみなさまに、よろこびのご挨拶をおくります。

過去一年間の日本および世界の情勢は、恐ろしいほどに激動の様相を呈しました。予想だにできない異変の連続、心を不安におとし入れる暗い事件が去来するなかを、私たちは昨日も今日も耐えかねるかのような思いで生きています。どうしても避けることのできないこの現実におかれているからこそ、私たちは永遠に変ることのない神、私たちの唯一の希望、救い主であられるイエズス・キリストへの信仰をますます自分のものとしなければなりません。それは決して逃避ではなく、積極的な生の姿勢であります。天地は過ぎる、しかし神はいつも私たちと共におられます。

ことしはいよいよ福岡教区創立五十周年の記念すべき年です。過ぎ去った歳月を懐しくふり返える一方、将来にむけ長い旅路をたどってまいります、確固たる信仰を身につけた神の民私たちが荒れ野のようなこの世界で福音のくすしきみわざを示す者となるため、これまでにもまして霊的向上をはかり、使徒職に献身すべき責任を感じます。これまでにも教区はキリストと共にカルワリオの山を勇気をもってたどりました。これからの道はなお険しくなることは十分に覚悟しながらも、カルワリオの彼方に復活があることを確信して歩みを続けましょう。私は教区のみなさん全員が信仰と使命感においていっそう強く一致し、神のお導きのもと、ひとつの心で聖なる教会づくりに協力くださるよう念願してやみません。

みなさんの上に幼きイエズスの御祝福が豊かにありますようお祈り申しあげます。

一九七七年 元旦

新年おめでとうございます

福岡教区聖職者一同

平田三郎司教
深堀仙右衛門司教

福岡地区

司教館 平田惣五郎
大名町教会 川口 康頼、ガイヤール
浄水通 青木 保
西新 山田 成章
茶山 平田 勇
東田島 伊東 誠二
高宮 マホニー
美野島 ハトリック ルカ
大楠 伊藤 隆
吉塚 グローガン
箱崎 堤 要吉
老司 シュルツ
光ケ丘 平田 寛
古賀 カーテン
本郷 増田 道夫
久留米 ディキン
吉野 ハー
大牟田 乾 盛夫
二日市 山崎聡一郎
小郡 シモンズ
今村 浦口 均
平田 正喜
糸永 一
糸永 武男
牧山 重光
三村 邦朗
牧山 勝美
堤 敏雄
黒川 博
馬渡島 田川 清美
大神学院 山内 清海
ラブラント、ラベル、ツルデル
イエール、高木善行、中浜一男
高見三明
小神学校 畠山 七郎
泰星高校 山頭原太郎
聖パウロ修道院 永富 久雄
赤波江謙一
天津木 昇
黙想の家 パウロ
内山 恵介
日置孝三郎

北九州地区

門司港 ベルトラン
門司 ラバルタ
小倉 バスチ
浦俊雄、ベリヨン、西田邦洋
湯川 グロージャン
戸畑 平田 敬
若松 デシャンプ
ボネ
バイヨ
天神町 キニユー
八王寺 モーゼ
ドルエ、ボンヌカズ
黒崎 徳山 登
コッス
ベルトラン
水巻 直方 鵜野 泰年
ドレル
パスカレル
飯塚 牧山 藤房
田川 山川 辰幸
新田原 行橋 岩永 義人
天使の聖母修院 ラグレブ
新田原病院 ボア

佐賀地区

唐津 サルビ
呼子 サルデイ
武雄 マグリン
伊万里 ベンツオ
多久 アレグリニ
鹿島 ルッチ
佐賀 ガザルディ
ディベッロ
鳥栖 ピアッチニ
聖母騎士修院 オジョルニ
トラピスチヌ修院 ガブリエル
矢口 浩

熊本地区

荒尾 ドイル
玉名 グリーン
手取 コーフィールド
グリフィン、オブライエン
オッキャロル、P・コア
健軍 ノリス
フラハチー
深堀 敏
帯山 オサリバン
島崎 リンチ
菊池 オマホニ
八代 カロル
人吉 ホーガン
水俣 マッコネル
本渡 ケルソ
大江 マックナリ
崎津 S・コア
ベルトラン
マリスト高校 キルケニー
中川フランシス、泉 類治
熊本天使園 ベラス
琵琶崎修院 ディバイン
パチフィコ

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 521—5327 TEL 522—0988

土地と住いのコンサルタント

㈲若葉不動産

福岡県筑紫野市本町西鉄二日市駅前
代表者 アツシジ・フランシスコ
松本 友則 09292④5833夜②7476

〝私たちはみな宣教の人〟

佐賀地区で使徒職研修会

51年度佐賀地区信徒研修会は衆院選たけなわの去る11月22・23日の、両日佐賀郡富士町古湯温泉センターに於て行われた。指導司祭には佐世保市俵町の三末篤実神父を迎え、県内各地から約四十人が参加。

今回のテーマは「私たちは皆宣教の人」で、特に対話の重要性が強調された。またわれわれが日常生活の場に於て、どのような使徒職活動が出来るか――について、三末神父の軽妙な話術にしばしば爆笑しながら実践についての問題点などを聞いた。

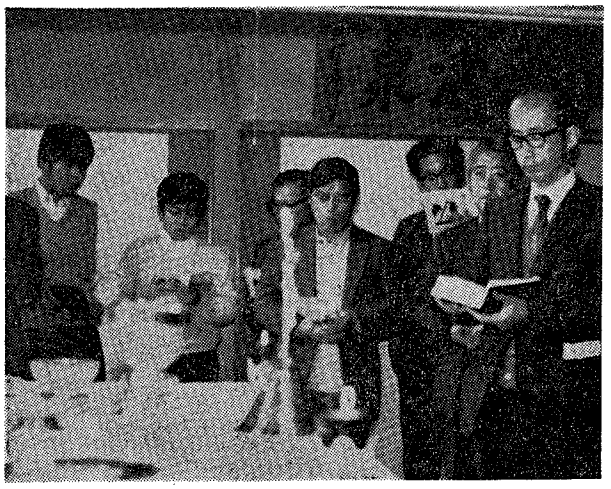
同神父は話の中で、〝守る信仰から顕わす信仰へ〟と訴え、基本的な心得として①祈りと秘蹟によって信心生活を深め②要理、読書によって教理に通じ③行動によって活動を起こす――ことを勧められた。

講話のあと各教会の布教情況について報告があり、懇親会では自己紹介などによって親睦を深めた。今回初めて参加した数人の主婦からは、布教について同じ悩みを持っている人たちの多いこと、信仰の連帯感が心強いと感想が述べられていた。また今回出席したことによって、二十年ぶりに再会を喜び合った人達もいて終始和やかなふんいきであった。

第二日目は六班に分かれて分科会が行われ、布教に関する障害や問題点について話しあった。例えば(イ)布教技術についての研究(ロ)受洗後の結婚問題(ハ)カトリック出版物の購読運動(ニ)他宗旨についての理解など。

三末神父講話要旨

宣教とは、清い心とよい良心と偽りのない信仰から生じる愛を広めることである。隣人が誰であろうと、どの様によいことをしようとしているか――それを伸ばしてやるための協力を惜しんではならない。与えられた役割の中で、自分には何ができるかを自問自答せねばならない。対話という恵みは時に神秘的でさえある。人の命と心を大切にし、自らの行動を聖化して生き生きとしたキリスト者になるよう努力しよう。　(M)



宣教への熱意を高めて下さい……

福岡・熊本市民クリスマス

福岡市民クリスマスは、12月13日午後6時30分から渡辺通りの電気ホールでひらかれた。讃美歌、祈禱、聖書朗読、説教のあとオペラ「アマールと三人の王」を上演平野七作牧師の祝禱で幕を閉じた。福岡市での市民クリスマスは企画の段階からカトリックとプロテスタントが合同で準備しているものでなく、その当日に招待をうけるだけ。教会一致の精神からこの状態が改善されることが望まれている。

熊本市民クリスマスは、12月20日午後6時から、鶴屋デパート七階ホールで開かれた。第七回を迎えた今年の行事はカトリックとプロテスタント双方から委員が出て準備を進めた。YMCA理事長山中大吉氏の挨拶のあと、熊本信愛女学院生徒のクリスマン・オペレッタ「大いなるよろこび」(演出・指揮シスター内田)、深堀神父のメッセージ、九州女学院生徒の合唱とつづき、作家の田中澄江さんが「クリスマスのこころ」と題して講演をした。終りに九州学院のブラスバンドの伴奏で全員〝もろびとこぞりて〟を斉唱した。参加者八百人。

教区青年連盟の今年の目標

去る12月12日、福岡市吉塚教会でカトリック青年連盟の各地区代表らが指導司祭西田邦洋神父をかこんで例会をひらき、過去一年間の反省と今年の計画を話し合った。昨年は連盟活動としては、いくつかの教会を巡回して例会を持ち、地元青年との出会いと親睦をふかめるようにつとめ、また大きな行事としては5月に教区青年大会、10月にスポーツ大会をひらいて一致と交わりの輪をひろげた。今年はこの実績を生かして各地区毎に運動や集会の持ち方、方向性を固める一方、それを育成していく考えである。その一つの具体的活動として1月中に各地区で青年集会をひらく。その連絡は各地区リーダーがおこなう。なおこの教区連盟事務局は佐賀市中央本町カトリック教会内。　(岡正子記)

勤労者のクリスマス

JOC北九州地連で

JOCカトリック青年勤労者連盟北九州地連主催の「JOC・クリスマス・パーティー」は、12月19日午後1時から北九州市小倉北区のカトリック幼稚園ホールでひらかれ、地元のほか下関・福岡からも約五十人の働く男女若人が集まった。歌やゲームそしてフォークダンスで親睦が深まり、勤労女性の日常生活と現場の実情、残業給料、人間関係などの発表とそれについての話し合いがあり、キャンドル・サービスでは聖書朗読、男女二人の新しいジョシストによる「クリスマスとは私にとって何か」の体験発表があって、4時半すぎ再会を期して散会した。西田浦、キニュー、コック神父も参加して青年らと交歓した。

◇　◇　◇

布教献金　(10月17日)

大名町	40,155	唐津	8,000
浄水通	23,980	門司	15,000
箱崎	5,000	門司港	7,030
東田島	11,600	小倉	62,172
西新	13,000	湯川	40,145
吉塚山	8,006	新田原	32,000
茶光ケ丘	17,407	戸畑	29,735
美野島	10,000	若松	9,500
高宮	30,000	天神町	8,000
老司	6,500	八王寺	11,700
古賀	6,238	黒崎	49,000
二日市	11,000	水巻	10,000
久留米	22,235	直方	3,630
吉野村	3,380	飯塚	6,000
今郡	65,000	田川	3,050
小郷	2,861	橋本	10,645
牟田島	10,810	取尾	44,900
渡島	8,600	吉軍	9,000
古子	5,165	侯健	6,300
万賀里	6,300	水江	15,000
雄栖	10,000	大崎	6,710
島久	4,000	島名	10,000
能呼	5,204	玉池	37,500
佐伊	4,652	菊津	6,000
武鳥	1,848	崎代	26,000
鹿多	2,350	八合	15,000
		計	12,000
			847,173

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092 (291) 3231番

片山無線
Francisco Katayama
TEL 781 — 2729

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

教区創立記念の年へ第一歩

今秋11月に式典挙行

福岡教区創立五十周年の年をむかえ、平田司教はこの年を教区の内的充実と向上、外的発展の時とするため昨年から司祭団、修道者信徒に呼びかけてきたが、去る11月16日の司祭評議会につづき、12月5日の修道女・信徒合同集会で、諸方面からの意見を聴取したあと、12月19日、司祭・修道女・信徒からなる同記念行事実行委員会（仮称）によって行事・運動等の大筋を決定した。

司祭評議会

11月16日の司祭評議会では、

①創立記念式典を昭和52年11月6日（日）に泰星高校々庭で、ミサ聖祭を中心におこなうことを決定。

②ミサ後の行事については希望意見にとどまり、たとえば、運動会、講演会、音楽会、バザー等があがった。

③また当日の行事とは別に、たとえば、広島のエリザベート音大を招いて一般公開の音楽会をひらき、教会外にもアッピールしてはどうかの意見もあった。

④さらにこの記念式典の11月6日を頂点とし、52年のはじめから年間を通じて教区民の霊的高揚をはかる何か具体的な目標をかかげたい。そのため、

(イ)宣教精神を高めることをめざし、各人がキリストを知り、キリストを知らせる運動の展開。まず各人がキリストを深く知る努力としてを聖書・要理を学ぶ。また外にむかってキリストを知らせる方法として、小教区および諸活動団体の宣教体制を整え、充実する。

(ロ)年間を通じ過去五十年の感謝と、将来への新しい恵みを求めて祈る運動。たとえば小教区、修道院での聖体礼拝実施。

以上の意見は福岡地区司祭会議にかけられたあと、さらに信徒と修道者にも意見が求められた。

修道者・信徒合同集会

司祭評議会の提案にたいする信徒および修道者の意見をきくための集会は、12月5日午後1時30分から司教館でひらかれた。司教から意見を求められたのは、四地区の信徒使徒職協議会の役員、同指導司祭、レジオ・青年会など活動団体の役員と修道女連盟。席上出された意見は次のとおり。

①11月6日の記念式典会場は市民会館のほうが望ましい。（同会館はすでに予約が一杯のため借用できないと判明）

②参加者が教区内のどこからでも洩れなく集合できることをめざし、開始時刻に注意する。

③兄弟的愛の実行の機会でもあるので、遠方から参加する人の貸切バス代はプール制などを採用してもらいたい。そのため抽せん券の発売はどうか。

④ミサ後の行事については、この日を、一年を通じて盛り上げてきた運動のしめくくりの日とし、信徒大会を開催したい。

⑤当日の式典以外の行事については意見なし。

⑥年間を通じての運動として

(イ)教区内の全活動団体の活動と組織を強化するため、教区レベルでの一致、横のつながりを緊密にする努力、さらに使徒職に献身する信徒と司祭とのつながりを深める。

(ロ)全教区の経済的自立をめざす一方、人的自立のため召命運動を促進する。

(ハ)記念行事の予算の決定。

実行委員会

平田司教はこのあと、実行委員会を結成するため次の諸氏を委員に任命した。

司祭団から、伊東誠二（委員長）、深堀敏、青木保、山田成章。

修道女連盟から会長と副会長。

信徒から松尾光敏、頭島勇（北九州地区）、坂田三郎、今村茂、山田耕三郎、青木繁利（福岡）、牧野利正、牧山満安（佐賀）、高木慶治、中野尚夫（熊本）。以上16人。

第一回実行委員会はクリスマスも目前にせまった12月19日午後1時から平田司教出席のもと、病気欠席の伊東神父に代わり深堀神父の司会でひらかれた。決定事項は次の諸点。

①創立記念式典は、昭和52年11月6日正午から泰星高校でおこなう。

②年間を通じて、教区全体の宣教・使徒職活動を向上させるため現在すでに活動している諸団体（レジオ、ビンセンシオ、JOC、青年会、高校生会、婦人会、CLC、共助組合、スカウト、その他）の教区レベルでの一致、横のつながりの緊密化をはかると同時に、それにいっそう献身する信徒リーダーの養成に力を入れる。

③教区司牧評議会の設立をめざす。その具体的課題は経済的自立と召命促進の検討。

④五十周年のスローガンは「キリストを知り、キリストを知らせよう」とする。

⑤記念アルバムを出版する。

以上の決定を直ちに具体化するための第一段階として、②の使徒職活動部門では青木神父と松尾光敏氏ら9人で専門委員会を、また③の司牧評議会の件では、山田神父と頭島勇氏ら7人で同じく専門委員会を結成する。なお広報部門は坂田、今村、山田の諸氏で担当。記念アルバムの編集方針の検討は2月はじめに行う。

次回実行委員会議は1月30日正午から司教館でひらき、使徒職および司牧の両部門の専門委員会も同時にひらく。

J・マグラー神父死去

熊本マリスト学園のJ・マグラー神父（聖コロンバン外国宣教会司祭）は、12月18日午前8時ごろ（推定時刻）手取教会司祭館の自室で、心不全のため死去した。五十二歳。19日午後8時同教会で通夜、20日午後1時から平田司教と約三十五人の司祭の共同司式ミサで葬儀が営まれ、遺体は火葬に付され菅田山納骨堂に納められた。

マグラー神父は一九二四年5月アイルランドの生まれ、48年12月21日司祭に叙階、翌年4月来日、和歌山県下の田辺、新宮、川上教会、神奈川県藤沢（旧称聖心愛子会修道院付）、熊本県では帯山教会などで司牧にあたり、三年前から熊本マリスト学園で英語を教えていた。大のスポーツマンで、特にサッカーはプロ級の腕前を持ち学園のほか一般社会人のチームのコーチも引き受けていた。数年前から心臓がよわり激しい運動ができなかったが、教室でもグラウンドでも常に生徒と交わり、よき指導者として敬慕されていた。

会合と催し

1月のスケジュール

◎平田司教
5日 カノッサ大牟田修道院でシスター・マリア奥園恵美子の永久誓願式、2時
11日 全教区司祭新年集会、11時から共同ミサ

◎黙想の家
3日―7日幼きイエズス修道女会シスター黙想会
14日―16日 九州地区聖母カテキスタ会員黙想会。大名町公民館主事研修会（バプチスト）
22日―23日 一般信徒の黙想会テーマ「生活の中の愛」（ウォード、内山両神父指導）

◎CLC（キリスト教生活共同体）熊本支部
1日―5日 フェルナンデス神父指導の黙想会、熊本市大江修道院内もと天使園で

◎聖心のウルスラ修道会
2日―5日 若い女性むけ召出しの黙想会、ペレッチ神父指導、福岡市大橋修道院で

◎教区創立記念行事実行委員会
30日正午から司教館で

湯川幼稚園園舎増築

北九州市小倉南区湯川カトリック教会（グロージャン神父）の附属幼稚園に2教室の増築を完成したので12月11日（土）平田司教を迎え祝別式を行った。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長 菅 種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四角 TEL 521―0568

佐賀藩のキリシタン

北島治慶

数年前、愛媛県今治市はドミニコ会のデルガート神父様から、佐賀藩に関する一六一四年のドミニコ会の記録史料を邦訳していただいた。また一方で一六〇九－一六一四年にかけての同じ佐賀藩に関するイエズス会の記録史料のスペイン語訳を長崎市のパチェコ神父様からいただいた。その史料の邦訳は多久市のアレグリーニ神父様におねがいした。

この二つの史料をみると、今日まで佐賀藩史の上でまったく空白であったキリシタン史の一端をうかがうことが出来ると同時に、また同藩は他の多くの藩とは違ったキリスト教導入をしていることに気づいた。私はこの史料を佐賀大学の名誉教授で、古文書の権威であられる三好不二雄先生のご指導のもとに検討し、その結果をさる十月十七日、九州大学の史学研究会で『江戸時代初期における佐賀藩のキリシタン』と題して学術発表した。その内容の概略を箇条的に述べることにする。

㈠　当時佐賀藩をのぞく多くの諸藩が、国益の増進を期する上から海外貿易に意を注ぐが、この貿易とイエズス会の布教を両者とも巧みに利用し合うことで、布教が承認されている。有馬や豊後、大村の諸藩はその顕著な例であるが一六〇七年ドミニコ会の佐賀入国やそれに伴う布教承認の背景には、このような現世目的を意図したものはなく、キリスト教それ自体の純粋な受け入れである。

㈡　またドミニコ会の佐賀入国は、当時徳川家康の側近で学僧でもある郷土出身者、三要元佶という禅僧の是認により可能になったもので、以後佐賀藩に関するかぎり、全国各地で見られるような教会と各僧侶間の争いなどは見当たらない。

㈢　一五八〇年前後、マニラのドミニコ会はイエズス会士による日本布教について激しい批判をつづけた。その一端は一六〇二年わが国内でもうかがわれているが、これに対しイエズス会の巡察使ワリニャーノ神父は、日本の布教をイエズス会の独占事業とすべく総長あて提言もし、教皇はそれにもとづきイエズス会以外の修道会による日本布教を勅書をもって禁止した。ところがこのように相対立していた二修道会のうちまずドミニコ会の佐賀入国が、前述のように一六〇七年に実現し、つづいて一六一〇年には鍋島勝茂の承認により、イエズス会による教会建設が許された。ではワリニャーノ神父が懸念したような不都合が、布教の場となった佐賀藩内に発生したかどうか。姉崎博士の指摘以外の点を注目する。

㈣　かってイエズス会宣教師らが、キリスト教に対する最大の敵とよんでいた竜造寺隆信が死んだあとは、その実子は勿論、親族ら（後に鍋島支藩の藩主となる）のほとんどは、ドミニコ会ならびにイエズス会の入国後には、教会の建設等に大いに尽力している。『異国往復書簡集』によれば、本藩の藩主鍋島勝茂のもとには、ドミニコ会士でルソンの大司教ソリヤをはじめスペイン総督からも丁重な謝意が表明されている。そして勝茂もこのような謝意に対し、一六一二年直接スペイン国王あてドミニコ会士のすぐれた業績を賞賛し、今後ともこれらドミニコ会士と親交を保ちたい旨の書簡すら送っている。

㈤　一六一二年キリシタン岡本大八によって起された佐賀藩所領の問題が解決はしたものの、これが導火線となって家康はきびしい禁教令を発した。このとき鍋島勝茂以下、各支藩の藩主や邑主はドミニコ会とイエズス会の宣教師らにふかい同情と好意を示した。先のドミニコ会の記録にはこのような藩主らの宣教師処遇に対する感謝のことが列んでおり、イエズス会の記録にもその一端がうかがわれる。

㈥　最後に禁教と伴天連追放が日増しに強化されるようになると佐賀藩からもドミニコ会士らの追放がさけられなくなり、しかも自発的に志願した十三人のキリシタンを追放せざるをえなくなった。そのうちの五人は殉教の栄誉をうける。ドミニコ会史料は佐賀藩領内のキリシタンらの雄々しい信仰の模範を激賞しており、同史料はこれら佐賀キリシタン賛美の記録ともなっている。

今日この二つの史料の出現により、佐賀県内で郷土史学に志す人をはじめ、三好不二雄先生や、近代史の権威、佐賀大の杉谷昭教授らが今まで以上に「佐賀藩とキリシタン」にふかい関心をよせておられる。

『志異』拾遺

保野衛

先月は、締切りに追われて、忽々に『聯斉志異漫談』を書きあげたが、そのあとで、久しぶりに、手もとの『志異』をひもといてみた。この本は戦前、昭和十五年ごろの版で、大分傷んでボロボロになっているが、ページを繰ってゆくうちに、前から気がついていたことではあるが、俗物蔑視の思想が、この本の中に強く根を張っていることを確認した。

『沂水の秀才』という短篇につぎのような話がある。

沂水の秀才某が、山の中で熱心に勉強していた。ある夜二人の美人が入ってきて長い袖でベッドのほこりを払って坐り込んだ。やがて一人が、テーブルの上に草書で文字をしたためた巾をひろげた。いま一人は、三、四両ぐらいの銀の固まりを置いた。秀才がその銀の固まりを、そっとたもとに入れると、二人は巾をとりあげ、手をつないで笑いながら部屋を出た。そして『俗物ね。たまらないわ！』と言った。あとで秀才がたもとをさぐると、銀はすでになかった。

作者はそのあとに『金を取ったのは乞食の相である。それでもなおがまんできようか！狐（二人の美人）のりこうな、みやびやかなようすを思うべしである』と書きそえている。

私自身老境に入って、なお俗物根性から、抜けだすことができずにいるので、こう正面切って皮肉られると、あらためて、己れの至らなさを恥じずにはおれないが、しかし考えてみると、現代では、すでに脱俗を志す人はいないのではないかと思われる。

いつだったか、ある高名な芸術家の葬儀につらなったことがあっだ。そのときもらった印刷物に、三十を超えると思われる名誉職の名が、いかにも麗々しく掲げてあるので、『この人にしてそうだったか』と驚き、『何という俗物！』と、自分のことは忘れて、強い軽蔑の念を押さえることができなかった。『あいつは俗物だ』という言葉は、時々耳にするが、それをいう人も実は俗物で、こん日では万人が一様に俗物なのであろう。

聖書には、金持ちの青年に、キリストが『往きて有てる物を売り、これを貧者に施せ』といわれたことが書いてあるが、そういうキリストの訓えも意識の中に持って、私は最近、俗物根性を捨てなければ、ほんとうの信仰には至り得ないのではないか、と思いはじめている。人間の罪は俗物根性に根ざすものであり、その俗物根性に汚染された目に、果たして神が見えるだろうか、という考え方である。

図書紹介

それでも聖母は信じた

マリ・テヤス著
山下房三郎訳

福音のみことばは、キリスト者にとって最高無二の黙想の材料である。私たちはそこに神の御子の生きたお姿を探し、少しずつそれに近づいて大きな喜びを味わう。だから福音書を取扱った黙想書はどれも霊的養分となりうる。本書もその種の黙想書の一つである。著者はルルドの司教で最近亡くなった人。当然のことながら聖母マリアを信仰の手本と仰ぎ、マリアの心と信仰をもって神の御子に近づくことを教えている。序の中で言っているように、この本は福音書のテキストの学問研究の本ではない。「この本は聖母とかかわりのある、神の奥義の〝観想〟の祈りへの招待です」黙想の実践に心をひかれながら実際にはどうしてよいか分からずにいる人にとって本書はいい手引き書になると思う。やさしい訳文のなかに信仰者マリアの姿が浮きぼりにされており、静かに読みつづけていくうちに心が熱してくる。

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52－3306
　　　52－8622

1976　カトリック
情報ハンドブック
カトリック広報委員会発行
聖パウロ書院にあります。　600円

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目｛外国産石材輸入加工販売
　　　　　大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2－21℡52-2417
工場熊本市花園町41　TEL56―0170
（夜間）64―6781

カトリック

平田司教認可
発行所 福岡市中央区浄水通39 福岡司教館
発行兼編集人 深堀敏
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者・参千円 名越美智子

『成人のキリスト教入信式』

新しい洗礼儀式の特徴は何か

新しい典礼儀式書「成人のキリスト教入信式」が日本司教典礼委員会から公刊されて、かれこれ一年になる。入信式とはまったく耳慣れない用語であるが、それは一口で言うと、おとなの洗礼式であり、それに堅信と聖体の二秘跡が加わって同じ聖式の中で授けられるものである。

この儀式書はもう数年前（一九七二年）にラテン語の規範版がローマから発行され、それを日本の教会および文化・社会状況に適応して「日本版」として作成したもの。この新儀式書はバチカン公会議の典礼刷新の線にそって作られている。その使用の如何はまだ各司牧者の裁量にゆだねられているが、ことしの四旬節から使用する教会も少なくないと思われる。入信式という用語もそうであるが、その内容（儀式の構成）も従来のものとは大いに違っているので、新儀式のおもな特徴をあげてみよう。くわしくは「キリスト教入信式のしおり」（あかし書房発行、三百二十円）を参照するとよい。

(1) 洗礼・堅信・聖体が同一儀式で

従来の洗礼式では、もしおとにミサがあれば聖体を拝領したが、洗礼と聖体は必ずしも一体になっていなかった。まして堅信はかなりの期間をおいて授けられた。これからは洗礼・堅信・聖体があたかも一体化した秘跡のように同じ儀式で授けられる。洗礼により神の子となった者が堅信によって聖霊の恵みと力に満たされ、救いの神秘を感謝奉賛する主の晩さん（ミサ）に参加し、神の食卓（聖体拝領）に招かれる。こうして神の子、教会共同体のメンバーの資格が正式に与えられる。これがキリスト教入信式である。

(2) 三段階で

これまで洗礼は一回の式で授けられた。入信式では三つの段階があり、それぞれにある期間がおかれてこれる。

(3) 四旬節を通して、信者全員とともに

洗礼の直接準備は原則として四旬節を通して行われる。四旬節は本来洗礼を望む人のため設けられており、キリストの死と復活にあずかろうとする者が、回心と再生清めと照らしを目指す時である。それは洗礼をうける者ばかりでなく、この人びとを見守る全信者も新たな回心を願いながら共に励み、共に祈らなければならない。

求道者となる第一段階。教会に来て信仰を学び始めた人が、キリストに従うことを決意したころ入門式があって、かれは求道者となる。求道期間の長さは人によって異る。

洗礼志願者となる第二段階。この求道者が洗礼の意志をはっきり持つようになると洗礼志願式をおこなう。ふつう四旬節を通して洗礼の直接準備をする。

三秘跡をうける第三段階。ふつう四旬節の終り復活徹夜祭の式の中に授けられて、一人前の信者が誕生する。あと五十日間聖霊降臨祭までは信仰教育を深めるのに当てられる。

こうして全教会は年毎に再生していくのである。

以上三点の特徴によって「入信式」という用語の意味がいくらか明瞭になる。

入信式（英語でイニシエーション）とは本来、少年期を脱した者がおとなの世界で共同体の責任ある役割を果せるよう、ある一定期間中、日常生活を離れて指導者のもとで一定の鍛練をうける一方、伝統的な知識を授かったあと生まれ変った人間としてもとの生活の場にもどり、皆と食事を共にするという宗教的な儀式のことである。

キリスト教入信式では洗礼志願者は、四旬節中、最後の信仰教育をうけ、キリストの死と復活にあずかって新しい人間となり、神の国すなわち教会で一人前の信者として献身することのできるメンバーとなるよう、洗礼・堅信・聖体の秘跡をうける。

幼児はまだ教会で一人前のメンバーとなりえないので、洗礼のみ授ける。それは入信式とは言えない。（広報室）

司祭叙階銀祝（コーフィルド深堀敏）神父

聖コロンバン会熊本地区長M・コーフィルド神父と帯山教会主任深堀敏神父は司祭叙階二十五年をむかえた。

コーフィルド神父は一九二六年アイルランド生まれ、51年12月21コロンバン会大神学院で司祭叙階53年2月来日、54年4月和歌山県新宮教会助任、57年4月同教会主任61年7月から五年間、神奈川県小田原市国府津教会主任、68年5月和歌山市西浜教会主任、73年2月熊本市島崎教会主任、75年6月熊本地区長に就任して現在に至る。

深堀敏神父は一九二四年長崎市の生まれ、37年福岡小神学校（旧制泰星中学）入学、福岡大神学院をへて49年カナダ・モントリオール大学神学部に留学、51年12月22日同市で司祭に叙階、54年9月福岡司教館付、70年7月泰星高校付74年3月浄水通教会主任、75年7月熊本市帯山教会主任。

教区創立記念出版に着手

教区創立50周年の記念出版「福岡教区50年のあゆみ」編集委員会の初会合は1月11日午後5時からひらかれた。委員は伊東誠二、深堀敏両師、俣野衛、森山敏三、河井田研朗氏らの五人。決定した事項は左のとおり。

(1) 「福岡教区50年のあゆみ」の出版のめどを、記念式典のおこなわれる今秋11月6日よりも、できるだけ早い時期として準備する。

(2) 各小教区や修道院等の過去現在の姿の紹介を中心とせずに、教区の全体像を叙述することをめざす。

(3) それに必要な資料を集めるため、小教区・修道院・アクション団体等の歴史を年表様式で提出してもらう。これはあくまで参考資料であってそのまま掲載するものではない。

(4) 年表と共に過去現在の姿を示す写真を集める。写真は出版後に返還するが、できれば司教館に保存するものとしたい。

(5) 編集事務局は福岡市大名町教会内とする。締め切りは4月10日。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 521—5327 TEL 522—0988

土地と住いのコンサルタント
㈲若葉不動産
福岡県筑紫野市本町西鉄二日市駅前
代表者 アッシジ・フランシスコ
松本友則 09292④5833夜②7476

教会学校への両親の要望

昨年末の本紙のこのページで「要理教師の課題と悩み」(11月)と「現場 カテキスタは訴える」(12月)の標題で、信者の子どもの教会学校についての意見を求めて紹介した。今秋は「現代におけるカテキズモ、とくに子どもと若者のためのカテキズモ」をテーマにローマで世界代表司教会議が開かれる。次の世代の信者の信仰の養成はつねに教会の最大関心事であり、また両親にとって重大な責任である。この観点から今月は教会学校にたいする両親の要望、期待また改善したい点など思いつくことを率直に伝えてもらったので、それをまとめて見よう。立場の違う多くの人の意見を羅列したので、対立する考えもあるが諒承されたい。

一、遠慮せずきびしく

マスコミは最近の子どもの学習態度の基本的欠陥を指摘する。集中力の持続ができず十五分が限度であるとか、テレビや○×式テストなどの影響で物を考える力を失っているとか、学校が終ると塾に通うのでのびのび遊ぶひまがなく欲求不満になっているなど。こういう情報をいつも耳にしていると要理教師たるもの子どもを前に口を開くときに、自然子どもに同情して手加減をしたり、みなの気に入る話題に偏るようにならないだろうか。むつかしいことは出来るだけ取り上げないようにするかも知れない。だからこそと両親は言う。信ずべきことは遠慮せず妥協せずきびしく子どもの心にたたきこんでもらいたい。目に見えないものへのあこがれ、信仰の基本をこの時こそ教えていただきたい。

幼い子らは神さまの教えにあこがえる

二、テキストを持たせて

じつに多くの両親たちは、子どもが正確な信仰を身につけるためにぜひテキスト(要理教科書)を使用して欲しいと希望している。あの公教要理で育った古い時代の信者は、聖書中心の新しい教え方は何とも心もたないと感じる。昔のように明文化した教えの条項を暗記させるやり方は、ただそれだけではいけないだろうが、原則的には正しいし望ましい。そのためにも年齢に応じた系統的な指導要項、しかも全国共通のものを作成してもらいたい。それがあると子どもの学んでいることが親にも分るし、カテキスタも教え易くなる。先生や教会でまちまちな内容の不統一も解消するだろう。教える側も基本線がきまっていないので大変苦労しておられるようだ。

三、典礼・聖書をもつと

学校の道徳の授業で学べないこと、聖書の内容、教会の祝日の意味、ミサ、告解、祈りなどを年齢に応じてだんだんくわしく教えてもらいたい。ミサについては小学校六年生でもなかなかつかめないが、中学生には説明の仕方でよくよく理解できると思う。また中学生には必ず聖書を持参させ、言われた箇所を自分で開いて探す練習をさせよう。今のおとなは聖書のあけ方も知らない。

四、信仰を考える力を

小学七級生には信仰を自分で考え、自分のことばで話し、友だちと意見を交わす場を持たせたい。要理の本や説教できく出来合いの解答だけを押しつけて済まそうとすると、信仰への興味はなくなる。間違ったことをのべても斬り捨て御免にしないように。

五、友だちが欲しい

子どもが教会学校に行きたがらないのは両親の悩みだ。その一つの原因は子ども同志の親しみがないからだ。クラスが終るとみんなパッと帰ってしまう所がある。先生も忙しいと「ハイさようなら」と姿を消すこともある。勉強だけで遊びがないのが子どもの不満。じつは子ども同志、そして先生を交えて遊びの習慣こそ将来の教会共同体づくりの第一歩になるのだが…。

六、親の信仰再教育

親こそ子どもの信仰教育の第一責任者である。しかしどう教え導くか、信仰を話し合うコツを知らない。質問に答える自信もない。こういう親は予想以上に多い。だから親の信仰再教育の機会が欲しい。初聖体前後の子どもには何とか話せるが、五六年生の子どもにはどう話してやるのか分らない。司祭・先生・両親合同の勉強会はぜひ必要だ。以上両親の側からの意見要望を六点にまとめたが、そのすべてが正しいとは言えないだろう。ただ現場で苦労している先生達の参考になれば幸いである。

(教区広報室)

永久誓願式

カノッサ修道女会のシスター・マリア奥園恵美子の終生誓願式は1月5日午後2時、大牟田市倉永の明光学園聖堂において平田司教司式で行われた。荒尾市出身。

川口アヤノさん

(川口康頼神父の母)

マリア・アヤノさんは12月29日午前1時、熊本県天草郡天草町大江の自宅で老衰のため死去、八十一歳。葬儀は平田司教はじめ熊本地区の司祭十二人で行われた。

先月号「布教献金表」で大楠教会(九十八百六十五円)と帯山教会(二万円)が掲載もれでした。

邦人司祭養成献金(12月5日)

大名町	57,130	小倉	61,975
浄水通	10,821	湯川	35,084
箱崎	5,000	新田原	40,000
東田	32,600	戸畑	47,972
西新	17,000	若松	11,000
吉塚	19,670	天神町	8,000
大楠	10,415	八王寺	13,100
茶山	9,300	黒崎	24,800
光ケ丘	22,232	水巻	9,000
美野島	10,000	直方	3,980
高宮	30,000	飯塚	10,590
老司	13,300	田川	5,220
古賀	12,145	行橋	10,355
二日市	21,000	手取	51,000
久留米	20,913	荒尾	6,800
吉野	3,580	人吉	9,500
今村	50,020	健軍	15,000
小郡	4,950	本帯	2,950
本郷	33,370	渡山	20,000
大牟田	8,000	水俣	7,050
馬渡	9,000	大島	12,500
呼子	5,300	玉名	24,000
佐賀	12,000	菊池	7,000
伊万里		津崎	22,000
武雄	3,100	八代	11,500
鳥栖	5,000	崎修道院	19,100
鹿島		愛修道院	10,000
多久	3,255		10,000
唐津	5,000	母〃	20,000
門司	18,000	合計	992,227
門司港	10,650		

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話㈹代表 092 (291) 3231番

片山無線
Francisco Katayama
TEL 781 — 2729

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

助け合い街頭募金に協力

総額は三百九十五万円余

歳末たすけ合いの街頭募金は福岡・北九州・熊本の各地区で行われた。寒風の中で信者たちが愛のわざに励み、また不景気といわれながら善意の人々の小さな拠金がつもって、予想を上廻る成果をあげた。

福岡地区は、12月6日から24日まで大名町など十九教会と福岡海星、久留米信愛、大牟田明光など三学園が運動に参加した結果、募金額百八十七万四千四百五十八円に達した。うち二十八万八千四百四十六円は小教区の貧困者に分配され、残金を左の通り諸施設に贈った。

北九州地区では12月1日から23日までほとんど全小教区が運動に加わり、八十七万九千八百六十六円集めた。

熊本地区は12月4、5、11、12の四日間募金にあたり百十九万九千八百一円の好成績をあげ、半分はNHKたすけ合い運動に、残りをカリタス・ジャパンに献金した。(諸経費は七万五千六百四円)

以上三地区の総計は三百九十五万四千百二十五円。

配合先団体名	金額
①福岡地区	円
原病院	100,000
屋形原養護学校	50,000
古処学園	150,000
今村聖母園	150,000
聖心慈愛園	140,000
聖ヨゼフ園	14,000
北野学園	168,837
久留米天使園	100,000
螢光園	30,000
吉野老人ホーム	100,000
小浜町母子寮	60,000
あけぼの学園	56,000
りんどう学園	50,000
聖家族会	80,000
キリスト教々誨師会	85,000
	1,539,602
②北九州地区	
カリタス・ジャパン	339,866
聖小崎育児園	60,000
天使育児園	60,000
聖ヨゼフの園	60,000
ひびき学園	50,000
暁の鐘学園	40,000
あすなろ学園	60,000
光の子学園	60,000
聖家族園	60,000
あますみ学園	30,000
土呂久公害被害者を守る会	60,000
	540,000
③熊本地区	
NHK	562,201
カリタス・ジャパン	562,000
	1,124,201

司祭異動

天神町教会主任バイヨ神父、同助任キニュー神父は黒崎教会主任助任に。黒崎教会主任徳山登神父は天神町主任。

司祭団と信徒の懇談会

北九州地区の司祭団と信徒代表(各教会から二人)の親睦懇談会は、四十五人が参加して1月23日午後零時30分から八幡区の八王寺教会であった。同地区の信徒使徒職協議会のさも入りで集まったもので、平田司教も顔を見せ新年の喜びの中で抱負を語りあった。松尾会長、浦指導神父のあいさつ、各教会の信者状況や活動などを順に紹介、平田司教も教区創立記念の年の意義、その五十年の歴史を述べた。終りに全員手をつなぎ輪をつくって「また会う日まで」をうたって三時すぎ散会した。

熊本使徒職協理事会

熊本地区の信徒使徒職協議会理事会は、1月23日正午から熊本市島崎教会であった。ミサで使徒職活動の恵みを祈り、故マグラー神父のため黙禱のあと中食をとりながら協議した。

①51年度のおもな行事、とくに市民クリスマスの報告。52年度の行事の検討、夏期少年少女練成会は8月中旬に男女合同で行うようにする。

②3月21日大江教会での竹森勇師の司祭叙階式を地区全体で援助し、各教会から出来るかぎりの拠金をする。

③教区創立記念行事についての教区の実行委員会の意向にそうため、とくに宣教活動団体の強化、組織の向上を地区レベルではどのようにはかるかを討議、直ちに着手できる具体的結論を出すことはできなかったが、「日本二十六聖殉教者」の映画上映会、壮年男子信徒の黙想会、献血運動の展開を準備することで意見が一致した。

④次会理事会は6月19日八代教会で。

詩集「独活の泪」を出版した

健軍教会の 関 忠夫さん

「この中には今の私をピッタリと映した詩はありません。それはみんな過去の私の姿です。私にそのつもりはなかったのに、周りの人が出版してくれました。」

ちょうど一年前、高瀬三郎のペンネームで出版された詩集「独活の泪(うどのなみだ)」の関忠夫(ただお)さんは、出版の感想を求められていささか自嘲的にこう語る。昭和9年生まれの42歳である。十歳のときちょっとした交通事故がもとで重度の難聴にかかり商業学校二年で勉学を中止、さらに歩行困難等の症状も加わった。

二十歳で受洗したが、今でも求道の苦しみと自己内部の葛藤(かっとう)から脱け出ることはないという。信仰に忠実であるために、あらゆる偽善をいみ嫌う、自分にも他人にも容赦しない激しさ。そのはけ口が詩作になったが、今の自分の姿はもうそこに見出すことはできないと、関さんは強調する。

「調和ある宇宙の姿を見ると、神の存在は自明のことです。でもなぜ自分が苦しまねばならないのか、その謎の前で私はたじろぐ」

生来の一徹さも加わってかれの心は時として平衡を失うが、いつも新しい広い世界を求めて歩く。頑固なほどの仏教者だった両親を受洗させるため十年かけて祈りつづけた。熊大病院に入院中、同室の盲人に一年間「キリストに倣いて」を読んできかせ、それを盗み聞きしていた別の病人ともども信仰に導いたこともある。「自分の不幸にだけ目をとめていては不平以外に何も出てこない。他人のことに心が向き始めたときから私は少しずつ変った」と告白する。

受洗後しばらくは神学や哲学にこったし、文学書も乱読したが、今は聖フランシスコ伝記のようなものに心が引かれるそうだ。関さんは四、五年前から目の不自由な人のために宗教書をタイプ点訳している。点字は通信教育でマスター、県の点字図書館に送った本はもう三十冊をこえる。「宗教書に飢えている人は多いですよ。旅する人という護教書にはかなり反響がありました。」

関さんには戦士の構えがうかがわれる。かれはポツリとこう洩らした。「身体の障害こそ私にとって救いの保証ですよ。」

会合と催し

2月のスケジュール

◎黙想の家
5日―6日 西南学院大学聖書研究会
8日 福岡外人宣教師の集会
9日―10日 西南学院大学生の集い
10日―11日 福岡市長住パプテスト教会信徒の祈りの集い
11日―13日 信者のための四旬節黙想会、テーマ「苦しみの意味 十字架の黙想」指導ウォード、内山神父、
21日―23日 アウグスチノ会司祭研修会
◎結婚講座
2月24日―3月12日福岡市大名町教会、毎週木・金午後7時から9時まで

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長 菅 種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四角 TEL 521―0568

独活の泪

高瀬三郎

たった一人の友だちでもいてくれたら——

たった一人の友だちでもいてくれたら——
ああそしたら僕は
どんなにか　幸せになれるんだがなあ
だれもが　友だちを必要としてるんだよ
だれかが僕にこう言った
それは君が良くないんだよ
けど　みんな　相手の人が恐いんだ
何をもちだすやらわからない人が恐いんだ
何んであるかも　わからない人が恐いんだ
神様はお互いに愛しなさい　とおっしゃるけど
自分が幸福になりたい　私たちは
どうしたらよいのか　こうしたらよいのか
右と左と前と後ろを　一時にしようと
不可能な事を　夢見ているのだ
昔から　言われてきた「二兎を追う者は一兎を得ず」だよ

たった一人の友だちでもいてくれたら——
ああそうしたら僕は
どんなにか　強く勇敢になれるんだがなあ
だれかが　僕にこういった
どうしても　いやな人ってあるもんだ
そうした　心の微妙さも　理解してあげなさい
けど　それ　食わず嫌いというんじゃないかな？
自分勝手な　先入観にしばられて
愛に向って　伸びる心を抑えられているんじゃないか？
神様は　お互いに愛しなさいとおっしゃるのに
自分が幸福になりたい　私たちは
彼は　自分を幸福にする　人ではないと
ああ　とんでもない　考え違い
彼をこそ　私は幸せにしてあげねば　ならないと
そう　思い　愛してあげねばならなかったのに
でなかったから　互いに気まずく別れたんだ

たった一人の友だちでもいてくれたら——
ああ　そしたら僕は
どんなことでも　悲しみも苦しみもしたい
だれかが　僕にこういった
君のは　不治の病気だよ
仕方がないよ　神様は愛だからねと
そして彼は遠くに行って　手紙もくれない
何が愛なもんか！一人だけ　僕を放っておいて
あまりにも　解法のない　勝手な宣言
神様はお互いに愛し合いなさいと　おっしゃるのに
自分が幸福になりたがる　私たちは
他人の悲嘆や苦悶には　みむきをつぶやいている　という
太陽の光も　木影の中のそよ風も　知らないのに心も向けない
だれしも恋しく　慕い　慕ってよいものだろう
盲目の人にも　足なえの人にも
神の慰みを求めるなんなら
だれかが　そうしてあげてこそ
その喜び大きいんじゃない。
たった一人の友だちでもいてくれたら——
ああ　そしたら僕は
どんな不幸も　泣かずに耐えられるんだ
だれかが　僕にこういって欲しい
わたしが　君の友だちになるよ
そしたら僕は　君の心を悲しませないけんかはしても　決して裏切りなんかはしない
君が　泣くなら　僕も泣き
喜ぶときは　僕も心から喜ぶんだ
神様はお互いに愛しなさいとおっしゃるんだ
自分が幸福になりたい　私たちは
そうすることで　幸福になれるんだ
君の満足の中に　僕は幸福なんだ
君の喜びは　僕の願う喜びだとも
僕の求めているのは　僕の真心を受けてくれる人なんだ
僕の　存在の全体をあげる人なんだ

（カット・三牧和子）

連載随筆　『紫烟荘雑記』

石川淳氏『ラゲエ神父』について

俣野衛

先日、たまたま足をとどめた路傍の書店で、文庫本の棚を覗いているうちに、石川淳氏の『文学大概』という本に目を引かれた。石川淳という名は、随分昔から知っているが、むずかしい小説や評論を書く人という先入観があって、今日まで、まだ二篇の小説も読んだことはない。だからこのときも、どんな内容の本か、目次だけを見るつもりであったが、目次を見ているうちに、『江戸人の発想法について』など、むずかしそうな表題にまじって、『ラゲエ神父』という一項目のあることを発見した。

この『ラゲエ神父』は、『震災の直後二年ほど、わたしは福岡の町に住んでいたことがある。』という書きだしに始まっている。石川氏は東京浅草の出身で、大正九年、東京外語学校を卒業、十三年福岡高等学校に講師として赴任している。十五年、同校を辞して帰京しているので、福岡にいたのは僅々二年に過ぎないが、『ラゲエ神父』に書かれている福岡の印象には、つぎのような、興味深い記述を見ることができる。

『福岡の町に沿った海岸にはとくに褒めるところはない。波に元気がなく、潮に香がなく、水の色は濁り、砂浜は狭くささくれて、坂東の九十九里はおろか、可憐なる江の島の海にも及ばず、バッテン、ヨカタイの豪傑には憚りながら、たいへん不景気な海岸である。』

『わたしが驚嘆した唯一のことは、そこでときどきイルカが捕れて、福岡市民が平然とこの怪物を食用に供するということであった。』

石川氏がラゲエ神父とはじめて会ったのは『西公園よりも数町東寄りに、海岸と呼ぶにも値いしないところの小さい砂地があり—』と書かれていることから、多分百道の海岸と推測されるが、そこで当時の大名町教会の司祭、ジョリー神父に紹介されたもののようである。

もとよりこれは、教会側から言えば、第三者である石川氏の思い出であって、信徒としての私たちには、多少もの足りないでもないが、『わたしがうっかりフランス小説の話などをすると、師は空耳をつかって聞かざるがごとく、数珠を爪ぐりながら天の一方を仰いでゐた。その代り天草の古い殉教者のことに談が及ぶと、師は瞼にいっぱい涙をたたへてヘトレ、フィデエル、トレ、フィデエル〳〵（信仰深き、はなはだ信仰深き）と繰りかへしてためいきをついた。』というところなど、千言に勝って、ラゲエ神父の面目を伝えるものと思われる。

石川氏は、ラゲエ神父が長崎に帰る夜、教会の食卓に招かれ、大鯛の塩焼にレモン汁をかけて供され、食事のあと、神父が、番茶に葡萄酒と砂糖を入れた飲みものを飲みながら、『わらじ酒でございますね』と言ったことを記し、『その後、わたしが東京にかへってから間もなく、ラゲエ師の訃が伝へられた』と、この文章を結んでいる。

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52—3306
　　52—8622

聖地巡礼の旅
団長：平田司教
期間：昭和52年7月23日～8月6日
参加費用：¥498,000（但し35名以上の場合。アシジとリジュはオプション）
コース：福岡（エールフランス）—エルザレム（4日間）—フランス（5日間）—ローマ（4日間）—福岡
詳しい資料ご希望の方、お申込み、お問い合せは　福岡市中央区浄水通39司教館
川口神父へ　〒810　TEL522—5138～9

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目　外国産石材輸入加工販売／大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21　TEL52-2417
工場熊本市花園町41　TEL56—0170
（夜間）64—6781

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部

四旬節司教教書
経済的・人的自立をめざす時
福音に生き、キリストを知らせよう

平田司教は四旬節にあたり「教区の金祝を迎えて」と題する教書を教区民に送った。

教書はまず創立以来の歴代の司教、チリー、プルトン、深堀の三司教の業績をふり返るとともに、とくに戦後の教会復興、外国宣教会および諸修道会の活動を紹介している。

次に教書は、このような教区発展のうらには外国からの経済的・人的援助が莫大なものであったことを想起している。しかし今経済大国として成長した日本の教会は、いつまでも外国からの援助に甘えてはならず、むしろ「人の面でも財政の面でも人頼りだった私たちは、〝私たちの教会・教区は私たちの力で〟維持発展させる時代になったこと悟らなければならない」。召命の面では外国の宣教師、修道者の来日にもう期待をかける時ではなく、「司祭・修道者は私たちのもとから」生み出すよう祈り、努力しなければならないと強調している。

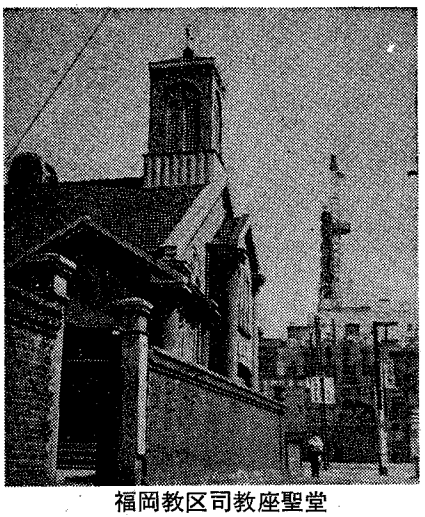
他方私たちは外国からの援助を受けないばかりか、進んで貧しい宣教国を助けるよう要請されている。

「ローマの布教聖省から、(私たちは)これまで多くの経済的援助を受けてきましたが、昨年、同聖省は日本の司教団に対し、教会・教区の収入の一パーセントを貧しい宣教国に捧げてくれるよう要請してきています。日本の教会はすでに受ける時代から与える時代に入ったことを示すものでありましょう」と教書はのべている。

平田司教はその教書の第三部で現代教会の信仰の低下、権威に対する不従順の風潮を指摘して、教会の一致と信仰の刷新を努めるように訴えている。生活の物質的ゆたかさに由来する価値の秩序の混乱が、教会内にも悪影響を及ぼして、教会を信仰の目で見ることを忘れ、こうして教会の世俗化、信仰の危機を生じてきた。

こういう時期に教区は創立五十周年を迎えようとしている。この時を信仰の刷新、真のキリスト者の自覚、魅力的信仰生活をうち立てる好機にしなければならない。

信仰を守ってそれを生きるばかりでなく、私たちは一歩進んで信仰の喜び「自分の幸福を人々にも分ち与えようとの熱意に燃えて」福音宣教の使命を果たすことを忘れてはならない。「キリストを知り、キリストを知らせよう」を教区設立五十周年の霊的運動の目標とし、共にその実行に熱意をかたむけるように努めましょう、と教書は結んでいる。



福岡教区司教座聖堂

カリタス・ジャパン 四旬節・愛の運動

一、国内の心身障害者の援助のため
一、目標額 五千万円
一、募金期間 四旬節を中心に2月23日から4月末日まで
四旬節中は祈りと犠牲、とくに隣人愛の実行をもって主のご受難にあずかり、復活を準備するときです。この精神で献金をいたしましょう。

教区創立記念行事
第二回実行委員会

福岡教区創立記念行事を推進する第二回実行委員会が1月30日司教館で開かれた。平田司教、委員伊東神父ら実行委員のほか、使徒職および司牧の専門委員ら二十一人が出席。

伊東神父から信徒使徒職協議会と教区司牧評議会の性格について明確な説明があり、それをふまえて両専門委が分かれて会合を持った。

使徒職専門委では地区レベルでの全アクション団体の一致の必要が望まれ、そのためリーダーの養成、活動の充実を図る方法を検討した。それに基き3月6日にリーダー養成の黙想会の推進を検討する。

司牧専門委では❶司牧評議会の設立を司教に要望する。❷信者が負担する維持費の収入に対する割合を定め、教会維持への意欲・責任感を改善したい。❸各小教区は経済的に自立できるよう最善の努力をすると共に、余裕のある小教区が他を援助する態勢にしたい。❹教区全体の経常費を全信者で負担したい。そのため経常費を公開してもらいたい。

3月6日に大会予算委員会をひらく。

クリシリヨ（信徒練成会）開催

第16回福岡教区男女合同クルシリヨ（信徒練成会）を、左のとおり開催します。

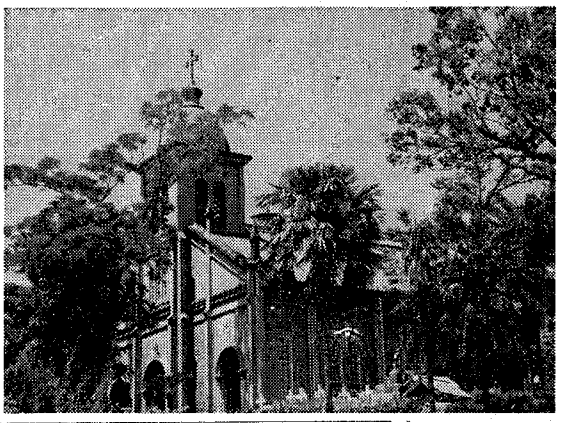
日時 5月2日午後7時から5日午後5時まで（三泊四日）
会場 福岡黙想の家
会費 六千円（宿泊その他一切をふくむ）
申込 〒818 筑紫野市大字二日市二五六ノ三 米澤潔あて 申込み書は小教区・修道院にあります。
資格 神学生、修道者、男女信徒

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長 菅 種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四角 TEL 521—0568

栄光と忍従の歴史

天草（大江・崎津）の教会

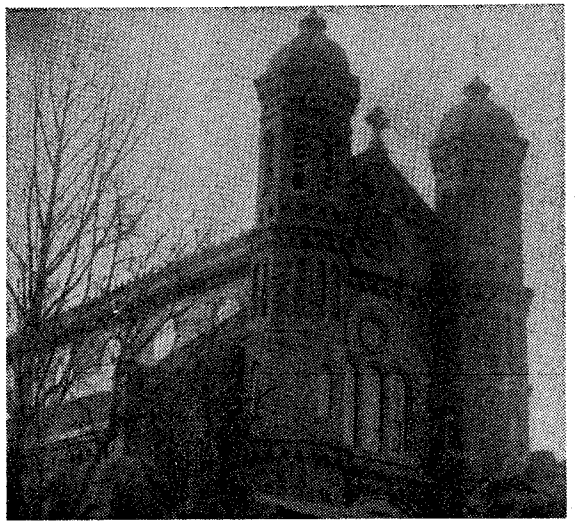


天草島にはじめて福音の種子がまかれたのは一五六六年、アルメイダが志岐に上陸した時である。かれは三年後に河内浦に本拠をもつ天草氏の請を入れ、この地方に宣教を開始した。天草の教会は歴史にもその名をとどめる大きな役割を果したが、禁教そして島原の乱以後はひとりの信者も残っていないかのようであったが、ここにもまた信仰を生き抜いた信者の一団がいた。

明治六年キリシタン禁教の高札が撤廃された直後、長崎港外神の島の漁師たちが大江に旧キリシタンの子孫を探す目的でやってきた。かれらはフランスから神父たちが来て長崎にりっぱな教会が出来たことを告げた。道田徳松夫婦は長崎に行ってロカインヌ神父から教理を学び、洗礼をうけて大江に帰った。弟の嘉吉やその他数人も中瀬弥市という伝道士に教えをきいて信者になった。かれらは自費で小聖堂を建てた。これをきっかけに大江、崎津、今富で洗礼をうける人が増えたが、天草地方に始めて姿を見せた司祭はコール神父で明治12年。その翌年ボン神父（後の東京大司教）が主任司祭になり、15年にはフェリエ神父が着任して大江の野中に教会を建てた。

当時この地方で漢学者としてもまた人格者としても知られていた久保山了という人が、教理を学んで洗礼をうけた。それで同じ部落の人はみな残らず集団改宗をするに至った。一方崎津にも明治19年（？）聖堂が出来、ミサが献げられるようになったが、26年フェリエ神父は奄美大島に転任、後任としてガルニエ神父が来た。大江に住み、崎津は巡回教会であった。

ガルニエ神父は昭和16年1月死去するまでの四十八年間天草で働いた。かれは貧しい島民にすべてを献げ孤児を育てた。昭和7年現在の大江天主堂を新築した。崎津教会が独立したのは昭和3年12月、ハルブ神父が崎津に常駐するようになってからである。ハルブ神父は昭和8年現在の崎津天主堂を建てた。そこは吉田という旧庄屋屋敷で明治4年まで絵踏みが行われていたところである。ハルブ神父は昭和20年1月14日崎津で死んだ。八十歳であった。ガルニエ神父の後任はベニエ神父、同神父はハルブ神父の死後は大江と崎津両教会を司牧した。牧山藤房神父も崎津で働いたが、昭和25年以後はコロンバン会の司祭が教会指導にあたっている。



天草出身の司祭として知られているのは崎津出身の大崎八重神父（明治32年2月5日に叙階、昭和のはじめに長崎市鉈の浦教会に在任中死去、道田高吉神父は大江出身、明治33年2月11日叙階、わずか四年半後に死去。そのあとは大江出身の川口清神父（大分教区鶴崎主任）、川口康頼神父（福岡司教館）、竹森道神父（日向主任）、井上茂神父（中津市古城主任）。そしてこの3月には竹森勇新司祭が誕生する。

（写真上は大江教会）

慶応3年信者発見

殉教者の墓に立つ今村教会

筑後今村（現在の福岡県三井郡大刀洗町今）にキリシタンの集団が生まれたのはいつごろであろうか。今村のキリシタン集団の始まりは一五八七年から一六一三年（天正15年から慶長18年）の間に当るという説があり、また豊後の領主大友宗麟が筑後にしばし出陣して古処山の秋月氏や肥前勝尾城主筑紫氏と、また佐嘉城の龍造寺隆信と争っていた時代、一五七〇年前後までさか上るだろうとする説もある。

関原の合戦後はこの地方がすべて柳河の田中吉政の手に帰しその保護をうけたので、住民の信仰も強まったが、島原の乱をへたあとで潜伏状態に入り、告発されることもあったが信仰を隠し通してきた。今村のキリシタンが教会との交わりを回復したのは、長崎大浦天主堂における浦上キリシタン発見の二年後、慶応3年（一八六七年）のことである。

浦上の青年信者・深堀徳三郎ら四人は今村に信者がいることを聞いて、神父の再来をかれらにも告げようと部落に近づいた。はじめは信仰をひた隠しにしていた今村の信者も、四人が怪しい者でないと分って祖先伝来の信仰を打ち明けるに至った。当時ここにはキリシタン約百世帯、そして付近にもほぼ同数のキリシタンがいた。

長崎地方の迫害が終って神父たちがやっと今村を訪問したのは明治12年で、コール神父は青木才八宅の土蔵でミサをした。翌年ソーレ神父が今村に定住し、14年8月に六十坪の教会を建設、プチジャン司教が祝別した。これはやがて手狭になり20年拡張工事を行った。22年2月高木源太郎神父が着任、25年12月にはルッセル神父が、さらに29年9月から本田保神父が今村の司牧に当った。

本田神父は新聖堂の建築を明治41年から計画し、フランスを中心に外国からの寄付、地元信者の拠金を集め、労働奉仕の協力もあって、着工以来2年後の大正2年12月9日に、二つの塔のついたロマネスク式赤レンガ造りの現聖堂が完成した。建坪百七十二坪。設計施工は鉄川与助。コンバス長崎司教が祝別した。聖堂の建っている敷地は「ジョアン様のお墓」と古くから呼ばれている。ジョアン又右衛門がどこの人で、いつ殉教したのか何も分らないが、殉教者として尊敬されている。

三十二年間在職した本田神父は昭和3年長崎に移り、代ってボネ神父が着任した。そして太平洋戦争前夜から終戦後にかけて糸永、伊東、平田勇神父が司牧にあたり、22年から再び糸永神父が在任している。今村教会出身の司祭は十四人。故青木義雄、平田善次（長崎）、平田惣五郎、故平田好、故棚町正刀、平田勇、故平田忠雄、平田三郎司教、平田義雄（名古屋）、青木保、平田正喜、故青木功、平田敬、平田寛。今村教会から独立して本郷教会が生まれたのは昭和30年、また小郡教会も38年独立した。

（写真は今村教会）

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52—3306
　　52—8622

四旬節黙想に参加しましょう
3月12日（土）午後6時から、
13日午後4時まで
テーマ「苦難と復活」
パウロ、リチャード、内山神父指導
男女を問わず一般信徒むけとくに若い人たちの参加をおすすめします
福岡黙想の家

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目　外国産石材輸入加工販売
　　大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21℡52-2417
工場熊本市花園町41　TEL56—0170
（夜間）64—6781

九年ぶりの教区司祭叙階式

創立50周年の教区に最大の贈物

3月21日春分の日に熊本県天草の大江教会で、竹森勇さんが司祭に叙階される。出身教会にとってばかりでなく、待望久しかった新司祭の誕生は今年創立五十周年を迎える教区にとって、何物にもまさる神の贈物といえよう。福岡教区の邦人司祭の叙階式は、昭和43年9月の西田邦洋神父の叙階以来で、実に九年ぶりである。

この機会にバチカン公会議の新典礼による「司祭叙階の儀」について一べつしよう。

儀式は司教と司祭がささげる共同ミサの福音朗読につづいて行われる。位をうける者が名前をよばれて司教の前に立つと、司教は司祭の務めについて訓戒する。司祭は司教団の協力者であり神の民に奉仕する者、福音をのべ伝え、神の民を牧し、特に神に礼拝のいけにえを献げる者であることが強調される。司教への尊敬と従順を約束したあと連願（諸聖人の連祷）をとなえて聖人の加護を祈る。司教は位をうける者の頭に手をおき他の司祭も同じようにする。司教は手をひろげて聖別の祈りをとなえる。この部分が叙階式のもっとも本質的な祈りで「全能の父よ、あなたのしもべを聖霊によって新たにし、イエス・キリストの司祭にしてください。神よ、この兄弟が司教の祭司職にあずかり、日々の生活によって、人々によい行ないの模範を示しますように…」ととなえる。司祭となった者は両手に聖香油を注がれる、洗礼・堅信の秘跡で額に聖香油が塗られた者はいま完全にキリストの代理者となる、新司祭は司祭団に加えられて初ミサを献げる。

神学講座

講義内容きまる

福岡教区の神学講座の昭和52年度第一学期のプログラムは次のとおり。

講義期間　4月19日―6月28日まで毎週火曜日

会場および時間　大名町教会旧聖堂　午後3時30分―6時20分

受講料　三千八百五十円

講義科目と講師

4月19日、26日エキュメニズムへの比較教理（内山神父）、5月3日歴史のイエスと信仰のキリスト（高見神父）、5月10日、17日、24日、31日詩篇を祈る（高木神父）、4月7日、14日、21日マタイ福音書の読み方、6月25日共観福音問題（平田司教）

申込みは福岡市中央区浄水通38山田成章神父あて。

なお神学講座事務局からの報告によると、昨年度（一学期と二学期）の受講者延数は総計六千二人、うち修道女は四十一人、信徒は二十一人であった。

北九州社研の活動

カトリック社会問題研究会北九州支部（北九州市天神町教会）では、今年度の活動および学習プログラムとして、次の三つを重点的に実践していくことになった。

❶土呂久・松尾の鉱害被害者を守る会の北九州支部が結成されたので、これを積極的に支援する。

❷今夏の全国社研セミナーのテーマ「産業社会と神」を、毎月第三木曜の定例会において学習する。

❸毎月第一木曜日に一般信者にも呼びかけて、福音の立場から社会問題を考える聖書研究会をひらく、2月にその第一回を行った。

CBSリーダー黙想

昨月11月末発足したカトリックボーイスカウト熊本第十三団の初のリーダー黙想会は、2月5日夜から翌6日午後4時まで鳥崎教会信徒会館でひらかれた。地元リーダー七人に行橋と高宮のリーダー三人が加わり、伊藤隆神父が指導にあたった。伊藤神父はとくにスカウト一人ひとりに明確な信仰を持たせる重大な責任を果たすため、リーダー自身がまず強い信仰を身につける必要があることを強調した。今後この種のリーダー研修会をたびたび教区内で開くことが要望されたが、来る6月初旬に高宮教会でCBS指導者協議会主催で行われる予定。

会合と催し

3月のスケジュール

◎平田司教

6日　福岡サンモール修道院で永久誓願式

16日　福岡大神学院で叙階式

21日　竹森勇助祭の司祭叙階式

23日　呼子殿の浦愛児園新築園舎と修道院祝別式

◎黙想の家

5日―7日　福大学生聖書研究会

7日　福岡地区外人宣教師集会

12日―13日　信徒むけ黙想会。テーマ「苦難と復活」、指導パウロ、リチャード、内山神父

19日―20日　新田原教会青年黙想会

21日―23日　YMCA九州地区大会

25日―27日　福岡市内カトリック高校生黙想会、伊藤神父指導

29日　西南学院大学及び高校教職員の聖書研修会

◎典礼聖歌の集い

13日　午後1時30分、福岡市大濠聖母訪問修道院、典礼聖歌の精神の理解を深め正しく歌うための集い、信徒・修道女だれでも参加できる。連絡先き、深堀純（801・5351番）

電話番号変更＝高宮教会　531・6494

地の塩

郷里の大江教会で司祭叙階

福岡大神の　竹森勇さん

「小神学校を卒業して大神学校での八年間の生活はたしかに長かったですけれど、いま司祭叙階を目前にして、この間私は一体何をしてきたのだろうと考えこんでしまいます。」

竹森勇さん、3月21日に出身地の熊本県天草の大江教会で司祭の聖位をうける。昭和25年4月生まれ、やがて27歳。この教会での叙階式は昭和33年以来の盛事。「大神の最初の四年間がラテン語と哲学、それに慶応大学の通信教育をうける時期ですが、これを終えて神学科に進む時点で決断をせまられます。」

それまでは司祭職という目標も遠くにかすんでしか見えなかったが、それが急に目の前にそびえ立つように見えてきた。登る自信はあるのか。進むべきか引き返すべきか、司祭職か世間か。「私は司祭職に賭けました。」この決断はそれまでのどんな祈りにもまして真剣な長い祈りのなかで下されたものであった。

「もちろん恐れと不安を払いのけることはできません。自分の無能をイヤという程知っていますから。」

決断はした。しかし下級の聖位を一つずつ受けていくにつれて司祭職の重みがますますのしかかってくるのを感じる。「同じ釜の飯を食った仲の先輩神学生が卒業して叙階され、初ミサを立てるのに列席する時は、よわい私の身内に戦慄のようなものが走るのを憶えました。よし私も頑張ろうと。」

「司祭になりたいと子ども心にも私をかり立てたものはいろいろあります。一番身近かで司祭職を分らせてくれたのは、私の育った教会の神父たちでした。生涯を田舎の信者たちのために献げて生きる宣教師の姿の中に、私は生きているキリストを見たのです。」

「私としては情にあつい、太っ腹な神父になりたいですね。私は義理人情型の人間に魅力を感じますから」と笑う。

両親は猛さんとたづのさん、男三人、女二人の三男である。

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092 (291) 3231番

片山無線
Francisco Katayama
TEL 781 — 2729

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

博多近郊山歩き

岩井正二

昭和四九年二月泰星高校が勤物園西口の新校舎に移転し、新しい道を進み初めたその春、私はこちらに奉職し、やがて三年になろうとしています。この間忙しい仕事のあい間を利用して近郊の山々を歩いて来ましたが、博多の山々は本当にすばらしいと思います。

第一が油山です。市街地に囲まれながらよく自然を保存し、適当に手入も行届いて心憎いばかりです。市民の森には二つの展望台と吊り橋があり、林間には歩道が縦横に通じています。ここの駐車場から油山頂上まで一時間位で往復できますが少し物足らない。せめて油山観音の下に車を止めて片江展望台に上り、尾根筋を縦走して頂上から市民の森に下ると大分充実して来ます。車までの帰り道も含めて約二時間のコースです。

金山縦走にはバスを利用します。福大前から野芥の方へ一停留所で倉瀬戸に下車します。更に一〇〇mばかり西へ進んでから左折し、高圧送電線の鉄塔の立っている台地へ急な石段を上るともうすばらしい眺めです。ここから尾根にそい上って行くと次第に眼界が開けてきます。何度でも立止まって振り返って下さい。博多湾、能古の島、志賀島、玄海島、すべて一眺です。大神学校や黙想の家は赤屋根で本当に美しい。泰星高校も南公園の森をバックにクリーム色の校舎がよく見えます。体育館の屋根が赤かったらもっと映えるのにと残念です。

ゆっくり歩いて約四〇分で、片江展望台のすぐ上の西油山駐車場に出ます。ここから車道は妙見口の方へ下りていますが、少し歩いたらすぐ左上の尾根道に上って下さい。草が繁って歩き難いですが、ほんの僅かで間もなく片江展望台からの道に合流します。それから尾根筋を約三〇分で標高五六九mの三角点につきます。ここは西方及び西南方の眺望がすぐれています。更に尾根道を一〇分も進むと標高五九二mの油山頂上ですが、眺望が全くないので割愛して、途中から市民の森へ下山するのもよいでしょう。市民の森から新しい水源地を通って駄ケ原バス停まで約四〇分、全部で二時間半位のコースです。

第二は脊振山系です。福岡佐賀の県境にそい東から脊振山一〇五五m、鬼ケ鼻岩八六〇m、金山九六七m、三瀬峠五八三m、井原山九八三m、雷山九五五m、羽金山九〇〇m、浮岳八〇五m、十防山五三五m、と延々三〇Km以上に亘りつらなっています。脊振山はアプローチが長過ぎて、歩いて上るにはあまりおすすめできません。

一番よいのが金山から鬼ケ鼻岩への縦走です。金山に登るには、上石釜バス停から花乱の滝を経て谷添いに上る道と、国民宿舎千石荘から主として尾根を上る道があります。約二時間半の道程で、後者の方が多少楽でしょう。金山頂上の三六〇度にわたる眺望は実にすばらしいものです。一息入れたら縦走です。尾根にそいゆるやかに三分位も下ると案内板があり、脊振山から三瀬峠に行く自然歩道に出ます。自然歩道はよく整備されて居り、所々に案内板もあって迷うこともなく快適な縦走です。

私はこのような道をひとり歩いていると一抹の淋しさと共に何ともいえない平安と充足を感じます。古い古い讃美歌の一節「山路越えて、ひとり行けど、主の手にすがれる身は安けし……日も暮れなば、石の枕、旅寝の夢にも、み国偲ばん」が心に浮んで来ます。

二時間足らずも歩いたら案内板に従って自然歩道から少し外れて鬼ケ鼻岩の上に出ます。ここの眺望も又すばらしいものです。ゆっくり楽しんだら急な坂を用心しながら三〇分も下ると、谷添いの道に出、更に三〇分で車道に出ます。椎原川の清流にそい林道を四〇分も下ると椎原のバス停に出ます。バスは回数が少いので事前によく調べて置くこと。足馴らしと食料防寒具の用意と充分な時間の余裕が必要です。季節は冬を除きいつでもよいが石南花の頃が最高でしょう。皆様のよき山行をお祈り申し上げます。

（福岡泰星高校教諭）

連載随筆『紫畑荘雑記』

二月の雪

俣野衛

二月に入って寒い日が続いた。雪も何度か降った。行きつけの喫茶店で、女の子が『忘れ雪でしょうか』と言うのを聞いたが、忘れ雪どころではなく、新聞やテレビが、相ついで北海道と東北の雪害を報道した。とくにテレビのニュースは、何メートルか積った屋根の雪を、スコップのようなもので かき落している状景を映しだして、台湾育ちで深雪を知らない山妻を驚かしたが、二月十一日の朝日新聞の解説は、

『九州・山口地方をはじめ日本列島の太平洋側に十日降った雪は、早春を告げる〝春の雪〟大寒波がゆるむ兆しとも見られる。だがアメリカの気象衛星「ノア」の観測によると、北太平洋のほぼ全域に冷水域が広がっており、「その影響でもうしばらくは寒波が続くのではないか」という専門家もいる。』

『今回の場合、〝足〟は二本ある。つまり寒さの〝出店〟は二カ所できており、一カ所は北米大陸の五大湖地方の、カナダ中央部から東部にかけた地域、もう一つはシベリアのバイカル湖附近だ。いずれもその上空五千メートル附近に零下四、五〇度の寒気が居すわった。だから北米各地を襲った寒波は東北、北海道をすっぽり包み込んだシベリアからの寒波と無縁ではなく、もとを正せば親類同志ということになる。』

と書いている。

雪と言えば思い出すことがある。高等小学校に通っていたころだから、四十年近い昔の話である。先生に引率されて天皇陛下を迎えに行ったときのことで、その日は朝から二十センチあまりの雪が積っていた。目ぬき通りの商店の前に並び、陛下の車を待っている間に、私は下駄の緒を切って裸足になってしまった。解けかかった雪の中に踝まで浸して立っていると、後ろで女の声がした。『まあこの人は裸足よ。』

それから私はその人にみちびかれて家の中に入り、乾いた布で足を拭いてもらった。そして下駄の緒をすげなおしてくれるその人の器用な手もとを見ながら、私はいつかぼろぼろ涙をこぼしていた。見知らぬ人の親切が嬉しかったので、少年の感傷ではなかったと、いまも思っている。それだけのことで、いまの私はその人の名も顔も覚えていないが、それは私の長い人生の中に一点明りのように灯って、折にふれ善意の有難さを教えてくれるのである。

敗戦後の日本人は精神の状態まで変って、他人に対する思いやりがなくなってしまった。それは激しくなった生存競争から、自分を守ろうとする利己心の現れかも知れない。しかし世の中が悪くなったというのは、そんな所からも観うことができるのであって、いまは目の前で人が殺されていても、平然と通り過ぎるような時代である。

いつだったか、太宰府の梅園で雪を被っている紅梅を見て、〝美しい〟と思ったことがあった。先日、雪の積った朝、通い路の雛に雪に包まれた山茶花を見た。白雪にじんでいるような花の紅には、繊びた風情が感取され、また紅梅とは違った美しさがあった。

熊本朝鶴会 五百回集会

キリスト教諸教派の有志による朝食祈禱会は全国各地で推進されて、教会一致の地味な運動として着実な歩みをつづけているが、熊本市の朝祷会も来る3月21日で第五百回を迎える。この日は手取カトリック教会の信徒会館で朝7時から祈祷と朝食の会があるが、日基日川教会の宮原牧夫牧師が奨励を受けもつ。

聖地巡礼の旅

◇期間　52年7月23日―8月6日
◇コース　福岡発―パレスチナ聖地（4日間）―ルルドを中心にフランスの聖地（5日間）―ローマを中心にイタリアの聖地（4日間）―福岡着
◇定員　四十人
◇総費用　四十九万八千円（但し三十五人参加の場合は、アシジとリジューはオプション）
◇団長　平田三郎司教
◇共賛　近畿ツーリスト
◇申込　福岡司教館川口康頼神父
TEL　092・522・5139

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

福岡市南区大楠2丁目23―15（西田ビル2F）
TEL　521―5327　　TEL　522―0988

土地と住いのコンサルタント

㈲若葉不動産

福岡県筑紫野市本町西鉄二日市駅前
代表者　アツシジ・フランシスコ
松本友則　09292④5833夜②7476

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部

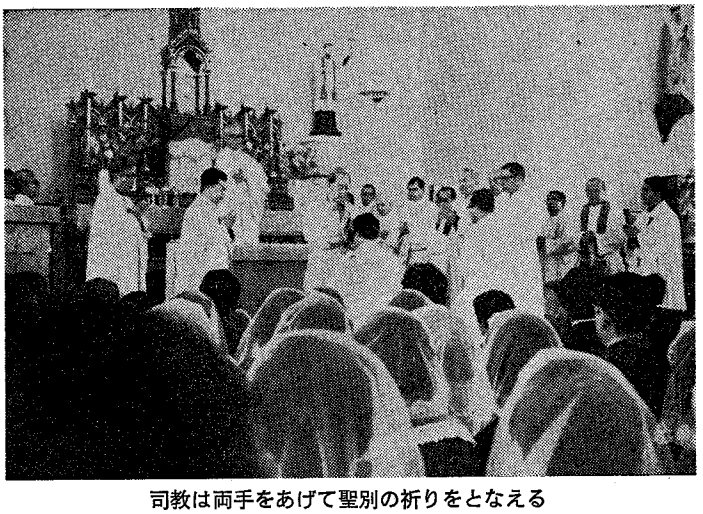
竹森勇新司祭が誕生
天草大江教会で晴れの叙階式

ヨゼフ竹森勇助祭の司祭叙階式は、教区あげての待望と喜びの中で3月21日春分の日、出身地の熊本県天草郡天草町の大江教会で挙行された。

定刻11時、十字架を先頭に受階者、五十人の司祭、深堀司教、平田司教が入堂、九年ぶりの教区司祭誕生をこの目で見たいと参集した五百の信者が堂内にあふれた。地元先輩の竹森道神父がヘブレオ書を、また井上茂神父（サレジオ会）がヨハネ福音書を朗読、平田司教が司祭の苦しみと慰めについて説教、つづいて叙階の儀が始まった。

満場の視線を浴びて受階者は司祭の任務と責任について述べる司教の訓戒に耳をかたむける。神の選びに答える旨承諾を表明した受階者は、諸聖人の取次ぎを求めて祭壇の前に平伏す。司教につづいて司祭たちは一人ずつかれの頭上に按手、全員が手をあげてその周りをかこむうちに、司教は声を高めてうこんに聖別の祈りをとなえた。こうして神の民の導き手、キリストの代理者が誕生。

祭服をまとい両手に聖香油がそそがれ、ミサ施行の権利を授与された新司祭は、司教と並び兄弟である司祭団にかこまれて初のミサ聖祭を献げた。両親の猛さんたづのさんに祝福を与え、12時30分、「あなたは永遠にメルキセデクのような司祭」が高らかに歌われる中で、一時間半にわたる息づまるような叙階の全儀式は終了した。竹森神父は七人目の天草島出身の司祭。



司教は両手をあげて聖別の祈りをとなえる

山田神父司祭銀祝

福岡市浄水通教会主任山田成章神父は、去る3月19日で司祭叙階二十五周年を迎えた。

山田神父は長崎市上野町の出身大正14年3月28日生まれ、昭和12年泰星中学入学、23年福岡大神学院神学科に進み、27年3月19日浄水通教会で司祭叙階。はじめ健康がすぐれず静養のあと30年2月から呼子教会主任、37年5月本郷主任、45年4月健軍主任、50年7月浄水通主任に着任して現在に至る。なお浄水通教会も創立二十五周年を迎える。

渡辺神学生は助祭位を

3月16日、福岡大神学院において平田司教司式により叙階式があり、福岡教区の渡辺隆義、長崎教区の山内実の両氏が助祭に挙げられたほか、道岡初幸（長崎）沢野耕司（広島）の両氏が教会奉仕者、山元眞（福岡）大井明（大分）の両氏が宣教奉仕者に選任された。

教区創立記念行事
第3回実行委員会

教区創立五十周年行事実行委員会の第三回会議は、3月6日司教館でひらかれ予算を中心に審議したあと、使徒職専門委で信徒の養成の件を話し合った。平田司教、伊東委員長、山田神父のほか九人が出席。

❶記念誌「教区五十年の歩み」は原則として全世帯（推定六千五百）に無料配布したい。必要経費は八百四十万円。

❷佐賀、北九州、熊本地区からもできるだけ多くの信者が参加できるため貸切バスを出す。その費用二百六十万円は信徒の一致と共助精神に基き、プール制とする。

❸招待者は教皇大使、九州・沖縄の全司教、関係修道会の管区長・院長、福岡県知事・市長。

❹大会費（招待費、事務費、仮設費等）は二百十万円。

❺大会行事会経費千三百十万円は各地区で負担する。北九州五百五十万円、福岡五百万円、佐賀六十万円、熊本二百万円。

つづいて使徒職への信徒の養成の具体的方法をとり上げ、CLC（キリスト教生活共同体運動）による月一回七カ月コースの黙想会に話し合いが集中した。また信徒の養成ではリーダーの特別養成ばかりでなく、一般信徒の霊的向上もめざすことを確認した。

終生誓願式

福岡サンモール修道院のシスター内谷（福島県郡山教会出身）とシスター宮川（福岡市東田島教会出身）の終生誓願式は、3月6日午前11時から平田司教司式により浄水通教会でおこなわれた。

聖週間三日間の式

大名町司教座聖堂での聖週間最後の三日間の聖式は、午後7時から行われる。聖香油ミサは4月7日午前11時から浄水通教会で。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

土地と住いのコンサルタント
㈲若葉不動産
福岡県筑紫野市本町西鉄二日市駅前
代表者 アッシジ・フランシスコ
松本 友則 09292④5833夜②7476

明治20年創立、九十年の年輪を刻む
大名町司教座聖堂

宣教開始のころ

福岡市のカトリック宣教は一八八七（明治20）年、エミール・ラゲ神父によって開始された。神父はそのちょうど十年前に来日、長崎県の伊王島と平戸で旧信者の司牧にあたった。神父は最初、現在の中央郵便局のある橋口町の民家をかりて活動を始めた。当時ひとりの信者もいなかったが、日本語に堪能で雄弁家でもあった神父は、よく夕方になると方町、通町、唐人町の民家の部屋をかりて講演会をひらき、市民と交わるようつとめた。その在福三年間に三十六人に洗礼を授けている。橋口町の仮教会はあとで方町へ、さらに鍛治町に移っている。

神父は22年11月大分に転出し後任にルッセル神父が来た。神父はまる二年間福岡にいたが、現在の大名町教会の敷地の西側半分はこの神父が購入した。坪二円だったという。第三代主任ベレール神父は明治25年10月から大正8年7月までの二十七年間福岡で働いた。この地方の布教効果がかんばしくないのを見て、人目を引く美しい聖堂の建立を思い立った。神父は幼いころアルザスからパリに移住、勝利の聖母教会という小教区に所属した。神学生のころから信者のあいだで評判がよく皆に愛された。神父が福岡に聖堂を建てる計画をパリの友人たちに知らせ援助を乞うと、主任司祭や信者たちが喜んで寄付金を送ってくれた。こうして出来上った福岡の教会は勝利の聖母（被昇天の大祝日に祝われる）に奉献され、また今も本祭壇の上におかれている聖母像はこの時贈られたもので、パリのものと同型である。

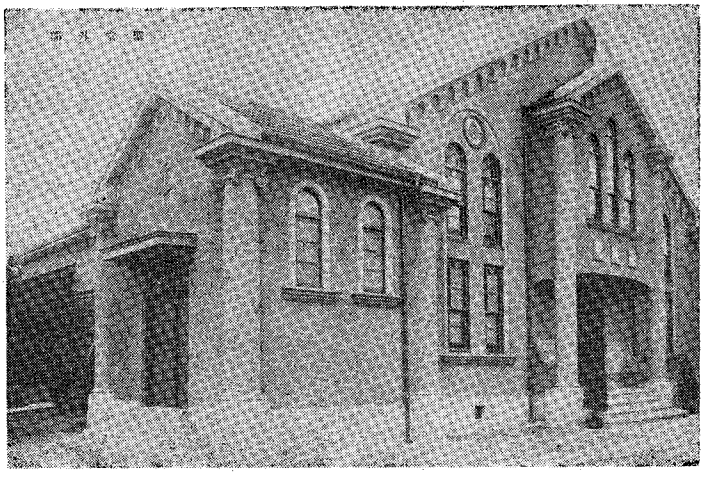
赤練瓦の聖堂

この聖堂が完成したのは明治29年、当時としてはまったく珍らしい赤レンガの洋式建築（司祭館はフランス式木造）であるが、施工者が誰であったかはっきりしない。マルタン神父によると、大正初期に今村教会を造った鉄川与助その人ではないかと言っている。なお建築費は五千円前後だったろうと同神父は算定している。

この聖堂で最初に受洗したのは東京出身の榎本キミという福岡のある病院の医者の夫人である。聖堂の献堂式に始めて教会に来て、要理の勉強をはじめ30年6月に息子と一緒に受洗した。主人もその二カ月後に受洗、模範的な信仰の家庭を作ったと年報は報じている。ベレール神父は31年に東側の隣接地を購入した（現在の教会が建っている個所）。

こうして教会敷地は全部で百六十四・四坪になった。ところが教会の前の通り（市電はまだ通っていない）は狭かったのでこれを広げる計画が発表された。もしそのようになると教会敷地の一部はとられ、聖堂そのものさえ少し削られることになる。成りゆきを心配したベレール神父は、当時の内務大臣原敬に善処を相談した。原敬は若いころエブラルという神父のおかげで法律学校に通い、洗礼もうけていたので、フランス人宣教師には好意を示していた。（原敬は東京駅で暗殺されたが、司祭から最後の秘跡はうけたという）。結局教会は何の損害もこうむらず、都市計画は沙汰止みになった。現在でも大名から天神への通りは曲っている。ベレール神父はこの曲り道を指して笑いながら「原敬のS」と呼んでいたそうである。

その一方で神父はこの土地があまり気に入らず、そこを売却してもっと海岸に近いどこかに新しい場所を見つけ移転したいと考えていた。この案はコンバス司教に受け入れられなかったが、神父がそう考えたのはやはり布教上の効果を見てのことだったようである。



昭和13年献堂当時の大名町教会

神父は勤脈硬化を病み、大正8年7月帰国して療養したが、同年11月29日パリで死去した。

大正から昭和へ

ベレール神父のあとちょうど一年間ベルトラン神父が、またそのあと一年間ドマンゼル神父が大名町に着任したが、大正10年2月ジョリ神父が主任司祭になった。神父はその十年間の活動でとくに市内のインテリと交際を深め、九州大学、福高、医師、弁護士のあいだでよく知られた。福岡教区が長崎から独立し、チリ初代司教は昭和3年1月この大名町教会で着座式を行った。大名町教会が司教座聖堂（カテドラル）になったのはこの時である。司教館は西公園の入口、荒戸町におかれた。

ジョリ神父の後任ドルエ神父（在任6年3月―9年7月）は長く長崎小神学校長をつとめて福岡に着任、また福岡のあとは北九州市の八幡、小倉で活躍、ことし九十歳を迎え健在である。6年10月18日ブルトン司教がここで着座式を行い、その翌年、福岡小神学校（のちの平尾学院―泰星中学―同高校）が大名町教会内の伝道館を使って創立された。この神学校は市内御所ケ谷（現聖粟学園）から平尾（もと泰星学園）に移ったが、神学校の設置と神学生の養成こそは教区創建の諸課題のなかで最大のものであった。

ドルエ神父のあとを継いだのは将来の大神学校設置までの構想を抱いてカナダから来日したレゼ神父（のちのモントリオール大司教・枢機卿）である。神父（在任9年8月―10年7月）が当時中神学校と呼ばれていた大神予科の学生指導のため市内大濠に移ったあと、ベノア神父が12年2月まで主任をつとめた。そのころ新聖堂の建築が検討され、同神父が設計を担当した。

福岡小神学校長であったボア神父は、この年フランスに帰って寄付を集め、帰朝と同時に大名町主任となり、工事に着工、翌13年聖霊降臨の大祝日に献堂式が行われた。司祭館を含めその総工費は一万八千円だったと聞く。すでに日中戦争が始まっていたので教会設計も規制され、高い塔をつけることも遠慮され、設計者としてはかなり不本意なものになった。

深堀司教が教区長として着座式を行ったのは16年3月16日、その式に先立ってブルトン司教はこの聖堂で木村義已神父（故人）の司祭叙階式を司式した。また深堀司教の司教叙階式は19年5月27日ここで挙行された。ボア神父は戦中から戦後にかけての最難事のさ中に教会と信者を死守した。20年6月の福岡大空襲で市の大半が灰塵に帰した時、ふしぎに大名町教会だけは不死鳥のように立ちつづけた。ボア神父はパリ外国宣教会が北九州地区を担当することにきまった23年8月、伊東誠一神父に後をゆずって八幡に去った。伊東神父のあとは平田正喜神父（在任34年12月―50年3月）そして現主任青木保神父とつづく。

昭和45年1月22日平田司教は着座式を行った。戦後三十年間に大名町教会から独立した市内の小教区は、その数十一に達する。大名町教会出身の教区司祭は皇山七郎神父（福岡小神学校長）。

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092 (291) 3231番

片山無線
Francisco Katayama
TEL 781 — 2729

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

福岡教区教勢発表

（1976年12月31日現在）

一九七六年12月31日現在の福岡教区教勢によると、

㈠信者総数（司祭、修道者、神学生、居所不明を含む）は、二万六千五百九十八人。但し信徒のみの実数は二万四千二百八十六人。

小教区数は五十七。

子供と大人の受洗者数（臨終洗礼を除く）は五百八十六人。

他教区からの転入者は千五百十三人。

死亡者数は百四十七人。他教区への転出は千三百十人。

居所不明は千六百三十九人。

㈡聖職者および神学生

司教二人。邦人教区司祭は三十一人。同修道司祭は十五人。外人司祭は六十七人。

教区小神学生は十七人に対し大神学生は九人。

㈢修道者

男子修道者は6人。修道女は邦人が四百五十一人、外人は二十五人、志願者は四十八人。

㈣カテキスタ

男子十五人、女子四十一人。

㈤教育施設

短大一、高校四、中学六、小学校三、各種学校三、幼稚園・保育園五十八、日曜学校五十三。日曜学校を除く教育施設に通う生徒数は二万一千六百六人。

㈥社会施設

病院四（ベッド数三百十一）養老院五（老人数二百八十三人）養護施設十（児童数四百九十一人）

㈦活動団体

レジオ（十二プレシンクト、七十八人）、CLC（五支部、五十五人）、ボーイスカウト（二分団百九十二人）、婦人会（二十支部千二十七人）、青年会（十五支部二百三人）、学生会（九支部、百四人）。

		洗礼 子供	洗礼 大人	洗礼 臨終	求道者	世帯数	婚姻 信徒間	婚姻 混宗	信徒数1976年	実名簿上の信徒数
福岡地区	山町市崎島丘郷村通賀米島島新郡楠田司宮野塚	7	1	0	2	95	2	1	413	425
	茶大二箱東光本今浄古久馬美西小大大老高吉吉	21	14	1	25	266	5	18	1,145	1,336
	名日田ケ水留渡野牟	1	0	1	3	60	0	3	275	275
		0	3	0	2	20	0	0	83	83
		5	4	0	0	10	85	0	0	1	359	380
		18	4	0	0	4	192	0	8	0	612	612
		4	0	0	0	4	131	3	0	5	633	657
		12	8	0	0	4	0	214	4	5	1,222	1,222
		6	5	0	0	56	69	1	5	206	206
		6	1	0	0	1	130	0	2	6	339	339
		17	4	6	0	8	275	2	6	0	887	929
		10	6	2	0	0	95	2	2	0	492	495
		7	2	0	0	3	52	3	6	1	205	247
		2	6	0	0	9	168	2	0	1	379	656
		3	2	0	1	2	72	0	1	2	224	234
		2	0	1	3	2	7	65	0	1	2	159	231
		0	7	1	3	0	9	82	1	2	0	218	260
		7	1	8	0	0	11	76	0	0	5	201	201
		6	0	8	0	1	7	68	1	5	433	433
		0	9	4	0	0	4	11	0	1	35	45
		9	4	0	0	4	120	1	8	396	396
	計	143	75	5	169	2,346	27	75	8,916	9,662
佐賀地区	里津島賀雄久栖子	4	0	0	0	52	0	0	125	149
	万唐鹿佐武多島呼	7	0	3	0	7	68	0	5	288	291
		0	0	0	0	0	31	0	0	84	84
		12	14	41	20	284	0	2	538	595
		1	1	1	3	42	0	0	90	122
		2	2	1	5	37	0	2	107	111
		3	5	0	6	40	2	2	162	194
		5	2	0	1	96	3	1	436	436
	計	34	28	46	42	650	5	12	1,830	1,982
北九州地区	寺塚倉崎巻司港方原川町畑松川橋	1	4	0	4	54	0	2	241	241
	王八飯小黒水門門直新田天戸若湯行	1	1	0	1	42	0	1	190	190
		20	39	0	104	698	7	21	2,068	2,353
		13	15	0	5	263	4	11	1,001	1,039
		6	1	0	13	157	0	3	554	554
		10	1	0	15	175	0	1	433	437
		0	1	0	3	71	0	3	162	173
		3	0	7	32	0	0	114	114
		22	0	7	3	367	10	8	1,559	1,594
		1	0	0	1	63	0	0	169	175
		3	2	0	5	157	0	2	363	372
		18	9	0	57	459	1	9	1,094	1,208
		6	9	0	6	104	1	4	362	632
		26	2	0	8	246	3	3	776	776
		8	3	0	4	126	3	2	437	508
	計	138	85	7	236	3,014	29	70	9,523	10,085
熊本地区	尾吉渡軍池俣山江津崎名取代	2	2	0	5	20	0	0	75	75
	荒人本健菊水帯大崎島玉手八	3	2	0	2	3	87	0	2	207	207
		3	1	1	3	113	0	5	197	197
		3	1	1	3	138	1	4	371	371
		2	1	3	2	14	61	0	0	276	335
		1	3	0	2	0	60	0	0	144	147
		8	0	2	0	4	115	2	3	328	328
		3	3	1	0	1	120	3	2	445	500
		3	3	0	3	0	110	0	4	324	330
		10	10	11	4	0	132	0	6	407	407
		3	3	0	0	3	22	0	1	85	94
		8	3	8	0	1	58	438	3	9	917	948
		3	3	0	1	4	91	0	2	241	246
	計	52	31	17	108	1,507	9	38	4,017	4,185
合計		367	219	74	555	7,647	70	195	24,286	25,925

（註）　司祭、修道士、修道女、神学生は含まれていない。

L・ベリボー神父（箱崎主任）死去

福岡市箱崎教会主任ルイ・ベリボー神父（ドミニコ会員）は、3月16日午前4時50分療養先のカナダ・モントリオールで心臓マヒのため死去した。五十九歳。追悼ミサは3月24日午後2時、同教会において平田司教ほか多数司祭の共同執行でおこなわれた。

ベリボー神父は一九一八年2月モントリオールで生まれ、38年ドミニコ修道院で初誓願、43年6月司祭叙階、47年来日、49年11月から福島県会津若松教会主任をつとめたあと、55年九州大学文学部哲学科講師として当時の箱崎のカトリック学生センター付に就任。このセンターが57年11月箱崎教会として独立すると主任司祭に任命され、以来ずっと九大講師として学内に大きな影響を与える一方、信徒の司牧にあたった。なお68年ドミニコ会からマジステール（神学博士）を受けた。

会合と催し

4月のスケジュール

◎平田司教
3日　泰星高校入学式
5日―6日　聖書週間委員会
7日　聖香油のミサ（11時）
10日　復活祭ミサ（大名町）
17日　本渡教会堅信
24日　光ケ丘教会堅信
29日　教区創立記念行事実行委員会
◎默想の家
2日―3日　海星女子学院生徒研修会
12日　外人宣教師集会
13―14日　福大学生集会
28―29日　聖母訪問会修道女研修会
◎加賀山マリア殉教祭
3日午前11時、熊本市花岡山同墓前で、除幕式と顕彰ミサ

男女合同クルシリヨ

日時5月2日午後7時から5日午後5時まで、三泊四日　会場福岡默想の家
会費六千円（宿泊費その他）申込818筑紫野市大字二日市二五六ノ三米濱潔あて4月25日まで。申込書は小教区・修道院にあります
参加者司祭、神学生、男女修道者、男女信徒

聖地巡礼の旅

◇期間　52年7月23日―8月6日
◇コース　福岡発―パレスチナ聖地（4日間）―ルルドを中心にフランスの聖地（5日間）―ローマを中心にイタリアの聖地（4日間）―福岡着
◇定員　四十人
◇総費用　四十九万八千円（但し三十五人参加の場合は、アシジリジョーはオプション）
◇団長　平田三郎司教
◇共賛　近畿ツーリスト
◇申込　福岡司教館川口康頼神父
TEL 092・522・5139

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52―3306
　　52―8622

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目　外国産石材輸入加工販売
　　大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21TEL52-2417
工場熊本市花園町41　TEL56―0170
（夜間）64―6781

教区広報の日テーマ

『聖書を通してキリストを知り キリストを知らせよう』

ことしの世界広報の日は、5月22日主の昇天の祭日におこなわれる。教皇庁広報委員会から出されたテーマは「マスメディアによる広告」であるが、日本の広報委員会はそれを具体化して「広告と子ども」としている。しかし福岡教区では教区創立五十周年にあたり、教区として「キリストを知り、キリストを知らせよう」を打出しているし、また秋には全国的に「聖書週間」も行われる予定であるので、教区広報室は「聖書を通してキリストを知り、キリストを知らせよう」というテーマを掲げることを決定した。

このテーマにそうため、聖書を中心とした出版物を信徒に紹介し、購読注文できるようチラシを広く配布する。この運動には福岡の女子聖パウロ修道会が協力する。

五百回記念朝禱会

熊本朝祷会では五百回集会を記念して、3月21日午前7時から市内手取カトリック教会では特別祈祷会をひらいた。参加者五十六人で、同会全国連合会の木本郁会長、カトリックからは中野尚夫氏ら五人が出席した。

ミニ文化講座

佐賀教会

佐賀教会では、このところ信徒の間に「やる気」のムードが力強く盛り上がっている。去る2月27日、信徒会主催でことし第一回のミニ文化講座が開かれた。

今回のテーマは「家庭に於ける子供の教育」。講師陣は小中高大学の各先生方八人、いずれも所属信徒でその道のベテラン。

わが子の教育や躾で日ごろ頭を痛めているママさんはじめ父兄約二十人が参加して熱心な質疑応答が行われた。しらけ時代と云われ無気力化、非行化の中でいかに子供を守ってゆくか。とりわけ「宗教的ふんいきの中で確信とよろこび」を持たせ、親は「どこへ子供を連れてゆくべきなのか」を絶えず祈りながら自問自答してゆくことの必要性をお互いに確かめあった。

連載随筆『紫烟荘雑記』

春信(しゅんしん)

─三月から四月へ─

俣野　衛

時間の足どりは早く、寒かった二月は終りをつけ、早くも春が目前に迫った感じである。ついこの間、雪の中を震えて歩いたことが嘘のように思われるが、私は今ごろの、やや春めいた暖かさの中に、まだどこかに寒さの残っている季候が好きである。

二、三日前、柳川に仕事に行って、久しぶりでクリークのほとりを歩いてみた。岸に枝垂(しだ)れた数本の柳の、僅かに芽を伸ばした淡い緑が、水に影を落して艶に美しく、北原白秋の

春日向(はるひなた)町の汲水場(くみば)の片寄りを柳しだれてとみに萌えつつ

という歌を思い出したりした。

芽立ちの頃の柳の緑は美しいものであるが、柳の緑といえば、私は漢口(ハンカオ)で見た揚柳の緑を思い出さずにはおられない。

大東亜戦争の末期、私は徴用されて、漢口の第一海軍施設部にいた。宿舎の裏に小高い、丘のような山があって、全山が揚柳で蔽われていた。その揚柳は、群らがっている白鷺の白い糞で汚れていたが、二月の半ばごろになると、全山の揚柳が一斉に芽を吹いて、外出するとき門の前で振り返ると、緑の靄が棚引いているようで、それはすばらしい眺めであった。芽吹きはじめた揚柳の美しさは格別で、とても日本の柳の比ではなかった。

この頃は既に、日本軍敗戦の報が、海軍の兵隊によって日毎にもたらされていたので、半ば絶望した私たちの精神(こころ)は、ささらのように荒(すさ)んでいた。私はある雨の降る日、陸軍病院に軍医の弟を訪ねての帰り、途中の坂道で、中国の死んだ兵隊たちが、影のように起ちあがってくる幻を見たが、そんな私たちを、何よりも慰めてくれたのは、中国の自然ではなかったろうか。

漢口では、柳が芽吹くと間もなく桃が咲きはじめる。郊外には桃の畑があって、そこへ行くと、白い花の群落を見ることができた。この頃になると内地の四月の陽気で、毎日胸のときめくような天気が続く。

いつか施設部の職員と、郊外までサイクリングをしたことがある。長江堤に立って、目路の限り開けた平野の、その遥かに遠くの涯に、ポツリと小さく、碗を伏せたように霞んでいる山を見たときは、そのスケールの大きさに驚き、さすがに中国だと思った。

四月に入ると間もなく桜の花が咲く。戦後は「桜前線」などという言葉が出来て、それは暖い南から、遂次春の遅い北の方へ移って行き、テレビでもその状況を放映することがある。本居宣長の歌の中に「朝日に匂ふ山桜花」という表現があるが、私は桜の、何かごみごみとした感じを好まない。桜の下で、花を見ることも忘れて、飲んだり歌ったりしている人達を見ることは、私をいっそう憂鬱にする。

しかし一度だけ、桜の花の美しさを感じたことがある。十四、五年も前であろうか。英彦山(ひこさん)で短歌会があって、山の宿に泊った時のことである。夜の明けきらぬうちに起きて、山道を歩いていると、すぐ目の下に一本の桜を発見した。そのときの桜は、朝の闇が満開の花に滲んで、えもいえぬ美しさであった。

児童福祉献金　（1月30日）

大名町	38,350
浄水通	25,281
東田島	23,200
箱崎	7,000
西新	12,800
吉塚	31,410
大楠	5,880
茶山	8,100
光ケ丘	19,756
美野島	
高宮	32,500
老司	10,000
古賀	5,736
二日市	10,000
久留米	14,750
吉野	2,480
今村	51,500
小郡	3,519
本郷	8,252
大牟田	15,615
馬渡島	17,700
唐津	
呼子	
佐賀	20,000
伊万里	
武雄	15,400
鳥栖	8,450
鹿島	
多久	7,459
門司	17,273
門司港	
小倉	66,932
湯川	30,479
戸畑	28,000
新田原	36,200
若松	11,100
天神町	
八王寺	22,900
黒崎	67,000
水巻	
直方	2,000
飯塚	7,520
田川	6,880
行橋	10,579
手取	39,500
荒尾	4,000
人吉	6,500
健軍	70,000
本渡	9,000
帯山	20,000
水俣	8,000
大江	13,800
島崎	28,500
玉名	9,800
菊池	30,000
崎津	30,000
八代	7,557
熊本信愛修道院	10,000
〃　幼稚園	28,452
久留米信愛高校	10,000
八代白百合学園	30,737
明光学園	30,495
菊池幼稚園	30,000
水俣信愛幼稚園	23,002
高宮カトリック幼	80,080
唐津〃	24,558
二日市〃	47,740
行橋〃	52,724
西新〃	100,200
宮ノ尾〃	13,263
小倉〃	184,578
田川〃	77,493
大橋〃	90,000
若松天使園	144,079
聖クララ幼	80,440
直方平和幼	15,000
門司聖母幼	56,517
本渡みこころ幼	14,229
雙葉幼	235,000
人吉幼	50,000
光カ丘幼	20,000
大濠幼	60,476
大濠聖母愛児園	10,000
水巻聖母幼	30,000
戸畑天使園	68,3000
久留米聖母幼	68,700
熊本聖母愛児園	58,308
熊本信愛幼	28,450
熊本信愛修道院	10,000
合計	2,761,481

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長菅　種雄
福岡市中央区警固3─11─14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長吉川東陽
福岡市中央区平尾四角　TEL　521─0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部

みんなで召し出しを育てよう

後援会のいっそうの充実を

福岡司教 平田三郎

パウロ教皇様は、毎年復活第三の主日を「世界召し出しの日」と定め、司祭・修道者の召し出しについてみなで考え祈るよう、強く私たちに勧めておられます。ことしは十四回目にあたり、この文がみなさまのお目にとまる時はそれはもう終っているでしょうが、大切な事柄ですので、私からも改めて呼びかけをいたしたいと思います。

召し出しはみなの責任

司祭・修道者の召し出しは最近著るしく減少しています。経済の繁栄と物質的な生活の向上の中で神への信仰が弱まり、価値秩序が乱れた結果、神と人への献身のカトリック的伝統がくずれ始めたためと考えられますが、この現象は欧米のキリスト教諸国でも、また宣教国日本でも同様であります。私たちは将来に対しまったく悲観的になっているわけではありませんが、教会の運命がかかっている問題であるだけに、神の民全員で真剣に取組まなければなりません。

公会議の「司祭の養成に関する教令」によりますと、「召し出しを育成する義務は全キリスト教共同体に課せられたものであり、この共同体が深い信仰生活を実践するのが、召し出しを生み出す畑になる」と教えています。従って召し出しを生み育てるのは司教や司祭または修道者だけでなく、教会の中で生きている信者全員なのです。言い換えるならば、信仰と愛と敬神の精神がみなぎった家庭、またそのような精神が具体的に強く発揮される小教区やアクション団体であります。さらに青少年は、けんそんで活動的で、喜びにあふれた生活を送っている司祭・修道者の姿を実際に目のあたりにすることで、心に召し出しを感じその芽を伸ばしていくのです。

もちろん神学校そのものが召し出しを育成する特別の場であることに、昔もいまも変りはありません。司教は神学校とそこで学ぶ学生に暖かい目を注ぎ、祈りと聖徳を身につけ、学問を深めるよう指導します。

いっそうのご協力を

去る三月二十一日福岡教区にも待望久しかった新司祭を神から贈られました。喜びと感謝でいっぱいです。また新学年に入った四月現在で、教区大神学生は八人、また小神学生は二十人を数えています。この人たちが神の祭壇に向って一歩一歩上っていくことを祈ってやみません。

これら神学生の純な献身と努力を出身家族、小教区の信者、全教区民が支えて下さるようお願いいたします。祈りと犠牲を惜しまないで下さい。神学生育成に必要な経済的援助にもいっそうご協力下さい。現在教区は神学生育成に毎年一千万円以上を支出していますがそのうちみなさんから昨年は約三百八十万円、今年は別表の通り四百五十三万円を献げて頂きました。みなさまのご熱意に対し心からお礼申し上げるとともに、これからも後援会を充実し、召し出しへの関心を高めて下さるように切にお願いいたします。

神学校後援会費報告

昭和51年度の後援費の報告をいたします。
みなさまのご協力ありがとうございます。

福岡司教 平田 三郎

大名町	409,595	田川	31,225
浄水通	130,300	新田原	180,000
美野島	26,150	行橋	40,000
高宮	168,200	佐賀	80,000
老司	20,000	武雄	10,250
箱崎	46,100	多久	10,000
大日	38,200	唐津	22,950
二日市	120,000	伊万里	16,200
小郡	46,800	玉名	32,000
久留米	165,000	菊池	40,000
今林	339,788	手取	100,000
本郷	137,450	崎戸	203,760
吉野島	61,300	軍山	40,000
馬渡島	16,500	代	84,000
八王寺	31,000	吉井	71,000
天神町	48,000	侯	73,700
黒崎	120,000	渡江	44,500
小倉	240,000	津名	50,000
門司港	15,000	八人	48,000
門司	80,500	水本	210,000
戸畑	450,150	大崎	300,000
若松	80,000	匿	
水巻	59,500	計	4,537,118

福岡小神学校に新人生六人

今春福岡小神学校（校長畠山七郎神父）の新入生は六人。いずれも中学生で、近くの公立尾中学に通う。氏名・出身教会は左のとおり。

中島清隆（小郡）中2年編入。小原良徳、大水幸一、北川純二、葛島久（以上新田原）中1年、片岡愛徳（坂出）高松教区所属、中1年。なお福岡大神学院への入学生は田川三千男君（吉塚教会出身）ひとり。

司祭異動

大名町助任竹森勇神父(新司祭)
菊池助任オッファレル神父（和歌山県橋本主任）神奈川県二宮主任ベラス神父（熊本天使園付）神奈川県小田原主任リンチ神父（菊池主任）休暇帰国、熊本地区長コーフィルド神父、手取助任オブライエン神父、本渡主任ケルソ神父・本渡主任フラハティ神父（健軍助任）

明治学園新校長

明治学園（北九州市戸畑区）校長シスター澤妙の辞任により、同学園高校教諭シスター中山真喜子が新校長に就任。

二司祭金祝

ミラノ外国宣教会佐賀地区のルッチ神父（鹿島教会）とビオ神父（佐賀ロザリオの園）の司祭金祝は、来る6月12日に行われる。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

土地と住いのコンサルタント
㈲若葉不動産
福岡県筑紫野市本町西鉄二日市駅前
代表者 アツシジ・フランシスコ
松本 友則 09292④5833夜②7476

明治31年に福音宣教開始
人吉教会八十年の姿

明治29年12月4日、熊本市手取教会のコール神父（パリ外国宣教会）が有安秀之進、深堀詮郎両邦人司祭を伴って人吉に姿を現わした。有安師は明治15年、深堀師は27年に叙階した神父である。九州本線と言った鉄道はやっと八代まで開通、そのさきは渡海船で佐敷へ、それから馬車で人吉に上るという不便な路を通っての旅であった。カトリック宣教師の訪問はこの山奥の別天地の人びとには、目を円くするような出来事だったらしく、球磨郡誌にもそのことが明記されている。

有安・深堀両神父は、現在の教会のある寺町から少し離れた南町の渋谷シン宅に仮住いしながら教会敷地の買取に努めた。地元の誰が斡旋したかは不明であるが、いまの教会・修道院敷地の大半をつらねる武家の数屋敷を手に入れることができた。登記は明治30年10月7日付、買受人は、土地台帖謄本によると長崎県西彼杵郡浦上山里村六二九番地深堀詮郎となっている。

人吉教会の発足

この人吉教会に初代主任司祭として赴任したのはブレンゲ神父（27年来日）であった。31年12月22日人吉に到着、ただちに寺町五・六番地の整地および教会堂建設に取りかかり、五年後に出来上った。工事を受持ったのは熊本の信者で池永清八郎という棟梁、豊富な木材を意のままに使って木造二階建の建物を入念に造作した。階下南側の部屋が聖堂にあてられ、これはじつに五十三年間使用され、現在でも司祭館および集会所となっている。

ブレンゲ神父の布教振りは非常に庶民的で、地方の人びととの親和を第一に計ったようで、いろいろの逸話も残っている。神父は親しい人たちとよく狩猟に出かけたが、特に近くの旧家田代敏彦とは親しく、共に山野を駆けめぐった後は里に出て、いわしのおびきを肴にして名産球磨焼酎を酌み交わした。十三年間の在任中（明治44年まで）には旧家の人がかなり洗礼をうけている。洗礼台帳の第一欄を占めているのは34年4月1日付丸尾和市という人で、二十二歳、父は辰造、母はスエ、代父は伝道士の末吉藤平となっている。

明治44年から大正7年までブレンゲ神父のあとを受けて人吉を司牧したロー神父は、よく幻灯を利用して教理を説明したり、欧州の大聖堂の建物などを見せていた。また伝道士を伴って免田町にも出張布教した。日本語の諺や格言に造詣が深く、在任中に「仏訳日本諺集」を出版したほどである。またそのかたわら蜜蜂を飼い、ぶどうの棚栽培を楽しんでいた。

脇田神父

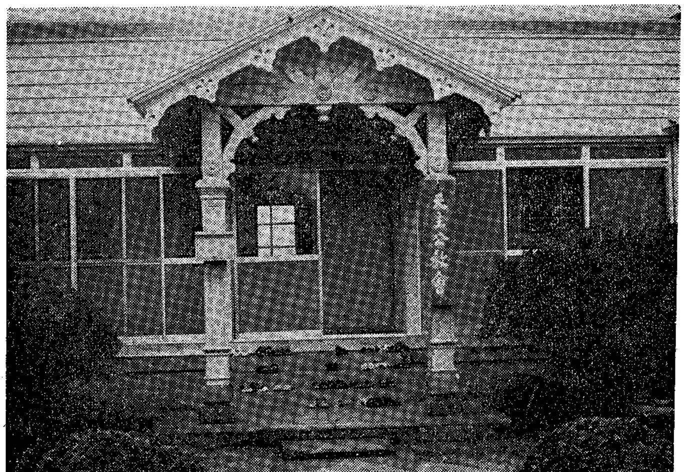
脇田登摩神父が人吉に着任したのは大正7年、その積極的な布教活動によって教会の面目は一新した。10年以降カトリック青年会、同婦人会が発足、たびたびの講演会開催、東欧のアルメニア地方の饑民児童のための街頭募金、布教用機関紙「オトヅレ」の発行、音楽博士チマッチ神父を招いての慈善音楽会などで求道者、受洗者が増えていった。また「仏教概論」を執筆、出版もした。脇田神父は昭和3年、福岡教区の独立により、あとを再びパリ外国宣教会に託して長崎に去った。なお昭和22年横浜司教に叙せられ、26年辞任した。

後任のヴィオン神父は十八年間も中国奥地で宣教した経験を持っていたので、漢文は白文のまま流ちょうに中国語で読んでいた。日本語は余り楽ではなかったが、その説教は内容が深く信徒によろこばれた。

人吉第五代主任ボンカズ神父（大正9年来日、現在北九州市八幡のパリ外宣会本部に引退）は、昭和5年着任、その風貌からセラシエ・エチオピア皇帝の綽名で親しまれた。盛んに布教活動をおこない、人吉駅通りにカトリック研究館を設けて子供達を集めたり、チマッチ神父の慈善音楽会、九大教授大沢章法学部教授の講演会を催すなどし、カトリックの精神の普及に努めた。

昭和7年から8年にかけて三カ月間レウトル神父が在任。つづいてロー神父が8年から16年まで再度この地方の司牧に当ったが、太平洋戦争前のことで、布教活動は窮屈になるばかりであった。

最後のフランス人J・ボア神父は、太平洋戦争勃発の年に着任、終戦にかけての七年間、ある時は日曜ミサの最中に警戒警報が鳴って、自警団員に「何をしとるか」と怒鳴り込まれたり、遂には阿蘇の外人収容所に入れられるなど、最も心労多い時代を過した。



明治36年建築された人吉教会（現在は信徒集会所）

新しい発足

パリ外国宣教会が北九州地区を担当することになって、23年ボア神父は人吉を離任、そのあと二カ月聖母の騎士修道会のヤノー神父が信者の面倒を見た。つづいてオーストラリアのシドニー教区から、福岡教区の司牧応援に派遣されていたウィルキンソン神父が、23年から25年まで在任した。神父は人吉で初めての英語系の宣教師で、日本語を学ぶいとまもなく、通訳をつれてどこにでも出かけては講演をし、キリスト教を大いに宣伝した。

このころ聖コロンバン外国宣教会が熊本県下の司牧を受持つことになった。25年人吉に任命された最初のコロンバン会司祭はノーリス神父（現在健軍主任）で、その約五年間の活動中、レジオマリエが発足、受洗者もふえて賑やかな雰囲気がつづいた。その中で神父は新聖堂建設を思い立ち、進駐軍関係を中心に韓国にまで足を伸ばして募金をした。

30年着任のグローガン神父は前任者の意志をついで聖堂建設に着手、31年1月18日完成、祝別式を行った。また球磨郡上村にも巡回教会を設けた。ケーリー神父（33－34年）の後任ディバイン神父は34－35年、また43年－49年に人吉を司牧、よく信者との親和を図った。35年から43年まではハンター神父が活動、長身の元気な司祭であったが突如病を得て、故国オーストラリアで保養のため離任した。

現主任ホーガン神父は49年に着任、教会創立以来十七番目の司牧者である。国際的な会合にも出向くなど活動範囲が広い。（人吉教会の歴史については長浜庄吉氏より資料をいただきました。文責は編集部）

心身障害者のため街頭募金

佐賀教会

佐賀教会では、カリタス・ジャパンの呼びかけにこたえて、去る3月20日と4月3日の二回にわたり、信徒有志三十人が市内繁華街にくり出し、心身障害者救援の街頭募金を行った。これに信徒の献金を加え、合計十五万三千百十一円を、4月15日カリタス・ジャパン日本事務局に送金した。

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092 (291) 3231番

片山無線
Francisco Katayama
TEL 781—2729

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

『聖書を通してキリストを知りキリストを知らせよう』

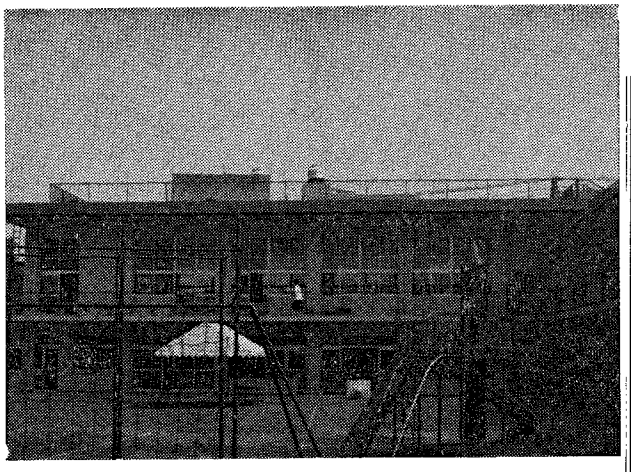
5月22日は世界広報の日

第十一回「世界広報の日」は、ことし5月22日主の昇天の祭日に行われる。主キリストから救いの福音を全世界にのべ伝える使命をうけた教会は、マスメディアのあらゆる手段を使ってこれを広くふかく大衆の耳と目に、そして心に伝える。

またラジオ、テレビ、新聞、出版事業に信者がつよい関心を持ち、それを大いに活用し援助する一方、しっかりした批判精神を養うことを目指す。

このような一般的な目標に加えて、ことし教皇庁広報委員会が出したテーマは、「マスメディアによる広告」であるが、日本の広報委員会はそれを具体化して「広告をうけた教会は、マスメディアのあらゆる手段を使ってこれを広く深く大衆の耳と目に、そして心に伝える。とくに子ども向けの有害無益なテレビ・コマーシャルからわれらを守るばかりでなく、批判的な目を養ってやる必要がある。

福岡教区では、ことしが教区創立五十周年にあたり、「キリストを知り、キリストを知らせよう」をテーマとして打出しており、また秋には全国的に「聖書週間」も予定されているので、広報のテーマとして「聖書を通してキリストを知り、キリストを知らせよう」をかかげる。その聖書普及をスムーズにするため、聖書を中心とした出版物を信徒に紹介し購読註文できるようなチラシを配布する



久留米聖母幼稚園落成

熊本のマリア幼稚園も完成

久留米聖母幼稚園（六ッ門町、三村邦明神父園長）の新園舎祝福落成式は、復活祭明けの4月11日11時から行われた。平田司教による祝福のあと、落成式では福岡県知事、久留米市長、同教育長が祝辞をのべた。

新園舎は塔屋付鉄筋コンクリート二階建、総面積千三百九十三平カメートル強。保育室十、遊戯室職員室各一、菅建築設計と松尾建設株式会社の手になったもので、総工費一億一千六百万円。園児数四百、教諭十七人。

学校法人マリア学園（石井礼次郎理事長）のマリア幼稚園（熊本市水前寺四丁目、石井ヤス園長）でも念願の園舎が落成、4月10日復活祭当日午前11時半から祝福と落成式があり、星子市長ら多数来賓が祝辞をのべた。

総面積六百六平方メートル、鉄筋コンクリート二階建、東京の小宮山雅夫氏の設計を地元の立吉組が施工。見事なステンドクラスをつけた「祈りの部屋」もある。

同園は故石井辰雄氏（弁護士、熊本市議）が、幼児教育に対する信念によって十五年前に開設したもので、同じ場所で保育園も経営している。

会合と催し

5月のスケジュール

◎平田司教
1日 美野島教会堅信
3日 幼きイエス修道会来日百周年記念式（大阪）
5日 クルシリヨ参加者のためのミサ。
12日 八代ナザレ園（養護）園舎落成式
15日 佐賀教会堅信
22日 老司教会マリア像祝別
24日―28日 日本司教協議会定例会議
29日 浄水通教会創立二十五周年式

◎黙想の家
2日―5日 教区男女合同クルシリヨ
28日―29日 善きサマリア人修道会シスター黙想会

◎熊本合同運動会
8日 西合志町熊本天使園グラウンドで、午前8時30分

◎バザー
8日 老司教会

地の塩

葉隠の里のサトばあちゃんのこと

佐賀教会 陣内サトさん

「喜寿の峰 登りてみれば枯の原 我を笑いて涙こぼるる」 埋木書斎兼八畳の寝室に流麗な直筆の額がかかっている。エリザベト陣内（じんのうち）サトさん。明治29年6月3日生まれ、81歳。

小学四年のとき兄の勧めで山口宅助神父から受洗。その後両親を信仰へと導いた。サトばあちゃんは漢学や詩歌を学び、文人であるとともに交友関係も幅広い。

サトばあちゃんが有名なのは、教会に対する大口の協力者というだけでなく、幼稚園の広さほどもある庭にルルドのマリア像を安置しているからという訳でもない。

一徹な処世道と達観した死生観にあるようだ。

「私が死んだらうさんたぁ、用意しとる棺桶に入れて、交通事故に遇わんこと、教会の墓地までリヤカーで運んでくんさいのー」

身近かな人達に引かれて、思い出深いふるさとにゆっくり別れを告げ旅立ちたいのであろう。数知れぬ人達が使い古した霊柩車の使用など、かたくなまでに拒むのである。

まくら元には既に何通かの遺言状と、息を引きとってからの手配や後始末が、まさに葉隠の教訓に則して書き置きされている。

「これは香典をお返しするための袋ばんたー」開いた文箱にはなんと会葬者一人一人に、毛筆でお礼をしたための手製の封筒が束ねられていた。

「六人の住職さんとも縁がありましてねー」と仰言るように、宗教的死の道行きに寸分の手落ちもない。死がもはや対決の相手でなくなったとき、これを悟りというのであろうか。質実剛健な葉隠の土壌で、明治の気骨と信仰の純粋さがかもし出した、美しくも厳しい、老婦人の生きざまをかいま見た思いがしたのである。

「貧しくとも清美、互角を失せず報恩の念に生きたいと祈る。去る者追わず、招かれざる客にならずー」。ロザリオの祈りに明け暮れるサトばあちゃんが、いつまでもお元気であるよう念願してやまない。

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52―3306
52―8622

聖地巡礼の旅
◇期間 52年7月23日―8月6日
◇コース 福岡発―パレスチナ聖地（4日間）―ルルドを中心にフランスの聖地（5日間）―ローマを中心にイタリアの聖地（4日間）―福岡着
◇定員 四十人
◇総費用 四十九万八千円（但し三十五人参加の場合は、アシジとリジューはオプション）
◇団長 平田三郎司教
◇共賛 近畿ツーリスト
◇申込 福岡司教館川口康頼神父 TEL 092・522・5139

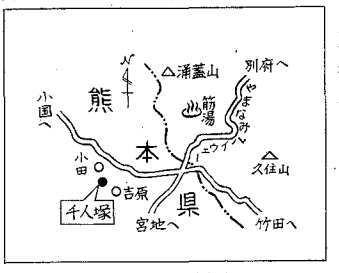
石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目 外国産石材輸入加工販売 大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21TEL52-2417
工場熊本市花園町41 TEL56―0170
（夜間）64―6781

臼根切千人塚訪問記

長濱無袋

阿蘇南小国町区内の臼根切千人塚は地元では「うすまいぎり」とも言っているが、それは嘉永六年細川藩によって決行されたキリシタン大惨殺の遺跡である。昭和四十九年九月七日付西日本新聞に、東洋英和女学院短大学長石井次郎氏が発表された記述のコピーを、佐賀教会の牧山満安氏から送られて始めて知った次第であった。その末尾に記してある地元の郷土史家長谷部保正氏との約束にもとづいて、野焼きもすんだであろう去る三月二十一日春分の日を期して、千人塚訪問に出向いた。

一ノ宮町から道を北へとり、南小国教育町高橋国男氏宅に辿りつき、しばらく説明を伺った上、小田部落の中村忠氏のご案内を頂くこととなった。川沿いの同部落を北へ半回転して南を向う広い砂利道で車を停め、同行の孫と三人で道とてもない急坂の野原を西南に向って登った。キリシタンの墓地だったという所は、現在は部落民が七分林として桧の植林をしているが、ここらあたり十数基の墓があったという範囲を見れば、畳二十枚敷きに足るまいと思われた。そこを少し捜すうちに、石井氏が書いておられる「俗名亀吉」の墓碑が、文に記された模様よりさらに崩れて、年号も殆んど判らぬ程になり、しかも二つに割れているのを見出した。



永い間に樹の葉が落ちもって土となり墓地を埋めているので、それを掘り除けば十数基が発見でき、年代氏名等も判るだろうと思った。墓地をあとに少し進むと左側に、昔キリシタン達が住んだ所へ下って行く道の岐れ目が、荒れてはいるがなおそれと認められた。さらに二百メートルも西進した所が千人塚の野原である。そこに入ってすぐ左側に二本の枝ぶりのよい松の大木が立っている。

七間真方の竹矢来の刑場とは、恐らくこの辺りに設けたものであろう。殉教者たちの遺体を蹴り込んだという十二の塚のある所は、ここに続く西南へ十五度乃至二十度ばかりも傾斜した屋根の荒野で、さだかではないが、一、二メートルの間隔をおいて並んでいた。塚はいずれも野焼きしたあとでなければ、はっきりしない程度のものであった。私は塚と知れた七、八基から少しずつの土と、地に着いている笹草と枯芒の茎葉を記念に頂き、同行の三人で祈りを唱えた。

思うに、この荒野に家族毎に引出され、自分の墓穴を掘らされた上、老人から幼児までの六、七十人が、暗から暗に葬むられることを考えながら斬首されていったのであるが、人間としての心淋しさはいかほどであったろうか。「幼児たちは泣き叫んだが、大人たちは顔色こそ青ざめていたが少しも取乱した様子はなく、男たちは祈りを唱えた」と記された最後のさまが、まざまざと心に迫るのを覚えてならなかった。殊に理由もわからないで殺された幼児たちの叫びは、昔キリストに殉じたベトレヘムの幼児たちの叫びにも似て、さらに可憐でならない。

残念に思ったのは、墓地を大切にする日本の風習に従って、せめてわずかの地積の墓地は残して植林できなかったものかということである。因みに、案内して下さった中村氏は、若いころから正夢を見ることで有名な人だそうであるが、数日前二夜つづいて夢を見た。それは墓が暗いという抗議であった由。

南小国町当局では記念碑建設の計画があると、長谷部氏よりの便りに伺っていたが、県内の信者がたの積極的関心と世論によって、その一日も早い実現と、さらに詳しい関係歴史の解明を願って止まない。

連載随筆『紫烟荘雑記』

五月の風

俣野衛

俳句に『惜春』という季語があって、手許の歳時記には、『過ぎゆく春を惜むこころである。暮春・行春と大差はないが、詠嘆的なこころが言葉自体に強くこもっていて明瞭だし、一種物淋しい惇むような情を含んでいる。』と、解説されている。

藤、つつじは、人の心にちょうど憤春の情の動きはじめるとき、つまり、四月のはじめから終りごろに咲く花である。つつじには『つつじ燃ゆ』という言葉が、ぴったり当てはまるような明かるさがあるが、藤の花の濃艶な染には、過ぎてゆく季節の、溜息のようなものが感じられる。

むかし読んだ詩集に、

春の別れは藤つつじ
人の別れはただ涙

という短唱があった。たぶん佐藤春夫氏の作で、藤の咲くころになると、私はきまってこの二行を思いだす。この短唱は、春の別れを藤つつじ、人の別れを涙に託し、二つを対置することによって、別離の本質を端的に把握した佳作である。

趣きは全く違うが、正岡子規の有名な短歌に、

瓶にさす藤の花ぶさみじかければたたみの上にとどかざりけり

という作がある。私なども子どもあがりのころから、折りに触れて愛唱してきたが、さてこの歌のどこがよいかと聞かれると、その説明はなかなかむずかしい。山本健吉氏は、『子規の短歌三首』の中で、釈超空氏の

『畳と藤の花ぶさの距離に注意が集って、そこに瞬間の驚異に似て、もっと安らかな気分に誘う発見感があったのである。これを淡い哀愁などと言う語で表すことは出来ない。常臥しの身の、臥しながら見る幽かな境地である。』

という批評をあげて、『これ以上の評語は、ちょっと見出だすことはできない。』と言っている。私にはむずかしいことは解らないが、子規の前にも後にも、こういう歌は例がない（山本氏）ということと、ながい間多くの人の鑑賞に堪えてきたという点からも、やはり立派な歌に違いないと思っている。

前にあげた短唱のとおり、まことに『春の別れ』は藤つつじであって、藤つつじの時期が過ぎるとやがて初夏――五月である。歳時記には、五月を

『好晴の日が多い。芍薬、薔薇が開き、河鹿が鳴き、釣やピクニックの好季節となる。薫風に泳ぐ鯉のぼりも見られ、蝿や蚊が出てくると、あたりは夏らしくなってくる。五月の尽きることを五月尽という。』

と、書いている。

五月生まれということもあって、私は一年十二カ月のうちでも、五月はとくに好きである。五月には、待ち兼ねたように花々の咲きはじめる四月より、むしろ、もっとぱっとした明かるさがある。それに快晴の日が多いことと、薫風という言葉そのままに、青葉を渡ってくる風の爽やかな感触がいい。五月になるといつも思うことではあるが、ことしの誕生日には、会社を休んでも旅に出て、一人で、思いっきり薫風の中を歩きたいと考えている。

新刊紹介

「日本キリシタン史料集」全六冊

このほど地方史研究家の手によって、キリシタン史料の復刻版が刊行された。発行者は福岡県三潴郡に住む農業鶴久二郎さん（七五）同氏は農業のかたわら、かねてキリシタン史に関心を寄せ、江戸時代の古文書や明治初年のキリスト教関係の書籍など多数蒐集している。この度の復刻版は、それらの中から主として明治の初めに使用された聖書や要理など得難い史料が収められ、キリシタン史研究上貴重な資料である。同氏の自費出版による労苦と、採算を度外視した思い立ちを高く評価したい。同史料の内容は、第一巻が「教の鑑」信・望・愛の徳について論述。二巻「真理易知」は聖書の解説。三巻「聖教要理」、四巻「切支丹の聖教」。五巻「弥撒拝礼式」。六巻「南蛮寺興廃記」。定価一万五千円。連絡先は福岡県三潴郡三潴町西牟田、鶴久二郎（つるく・じろう）氏宛。（キリシタン文研会員、佐賀教会・牧山満安）

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長菅　種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方 法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部

教区創立記念行事実行委員会
使徒活動の促進を具体化
予算の確認、共同の祈りも制定

教区創立記念行事の準備・推進をはかる第四回実行委員会は、4月26日正午から、平田司教、伊東同委員長のほか司祭三人、信徒委員十四人出席して開かれた。

❶予算については前回の委員会の決定を再確認し、なお時間をかけて各小教区よりの協力を要請する。分担額は北九州地区五十五万円、福岡地区五百万円、熊本地区二百万円、佐賀地区六十万円、計千三百十万円。

教区五十年の歩み記念誌は、七千部印刷、単価約千四百円の予定。

❷創立記念にあたり霊的恵みを祈るとともに、意識の高揚と趣旨の徹底のため、

(イ)ミサや家庭でとなえる祈りを制定し、印刷して分配する。またミサの共同祈願でも意向に加えるため、その例文を示す。

(ロ)記念標語「キリストを知り、キリストを知らせよう」をテーマに、各小教区でポスターを作成して展示する。

❸年間を通しての使徒活動の促進のために、

(イ)クルシリョ（5月上旬）、CLC＝キリスト教生活共同体（6月27日から通勤黙想会、その他）、夫婦練成会（今秋）を実施する。

(ロ)教区レベルの婦人会の結成をめざし、その前段階として地区婦人の連合をはかる。

(ハ)信者各自による布教の実行にとくにこの一年間努力する。未信者への直接の働きかけなどで。

(ニ)全国「カトリック新聞」、教区報「カトリック」の購読をひろげ、活用する。

❹司牧活動の面では、

(イ)教区司牧評議会の発足を司教に要請する。とくに信徒の参加する財務委員会の設置のため。

(ロ)司教と司祭団・信徒との交流一致を深めるため、対話の機会をふやしてもらいたい。

(ハ)要理教育の充実と、司祭・修道者の召命推進をはかるため、専任司祭を任命してもらいたい。

オジョニ ルッチ 両神父 司祭生活50年
6月12日佐賀で感謝ミサ

佐賀県ではたらくミラノ外国宣教会のピオ・オジョニ、ミカエル・ルッチ両神父がそろって司祭叙階五十年をむかえ、6月12日佐賀教会で感謝ミサをささげる。二人は同年生まれ、神学校の同級生、一九二七年6月11日ミラノで司祭になり、一諸に中国で宣教して苦労した仲。

オジョニ神父（写真上）は一九〇二年7月31日ミラノ市の生まれ20年ミラノ会に入り、27年中国河南省南陽で司牧、29年—49年同地の神学校長、その間化学の教師もつとめ、戦後の49年共産軍に追われて帰国、51年来日、10年間山梨県甲府教会主任、61年から64年までミラノ会本部院長、64年—68年は同総長秘書を果たし、68年再来日して佐賀県大和町の聖母の騎士修道院の指導にあたっている。

ルッチ神父（写真下）は一九〇二年8月20日イタリヤ南端の町ボズオリ（聖パウロがローマに向う途中立ちよったレジウム）の生まれ、28年中国河南省衛輝で司牧、49年イタリアに帰り、52年来日、57年まで佐賀教会主任、二年間伊万里教会主任、59年鹿島教会主任、67年同地に聖堂と司祭館を新築した。数年前腹部の大手術をうけたが元気で司牧にあたっている。

R・ハー神父銀祝

福岡市光ケ丘教会主任R・ハー神父（オブレート会）は司祭銀祝をむかえ、5月15日同教会で祝賀会があった。なお今年12月まで休暇でアメリカに滞在する。ハー神父は一九二六年1月アメリカ・ネブラスカ生まれ、52年6月2日ワシントンで司祭叙階、同年10月来日、53年10月光ケ丘助任、55年から八年間古賀主任、63年徳島主任、65年光ケ丘主任、今日に至る。

信徒リーダー養成めざしてクルシリョ

信徒リーダーの養成をめざす第十六回男女合同クルシリョ（信徒練成会）は、5月2日午後7時から5日午後4時まで福岡黙想の家でおこなわれた。新参加者三十七人（男子二十三人、女子十四人）。教会別参加者の内訳は次のとおり。

大神学生五、久留米四、光ケ丘二、新田原十一、行橋二、戸畑五、今村五、鳥栖一、嶺崎一、女子パウロ会一。

田村修道士が助祭叙階

福岡市高宮教会出身の田村寛修道士（フランシスコ会）は、去る3月25日東京の聖アントニオ大神学校で助祭に叙階されたが、今年12月ごろに司祭に挙げられる予定。田村助祭は44年福岡泰星高校卒業後フランシスコ会に入り、47年初誓願、49年名古屋南山大学卒業と同時に聖アントニオ大神学校に入学、50年3月荘厳誓願を立てた。父の祝郎さんとその家族は現在、西区金山団地内に居住している。

明光学園創立者の追悼ミサ

去る3月14日東京で死去した大牟田明光学園の創立者、カノッサ修道会日本初代管区長シスター・ピッコリ・ローザの追悼ミサは、5月14日午前10時半から同学園でおこなわれた。教職員と同窓生の代表がそれぞれ故人の生前を偲んで追悼のことばを述べたあと、平田司教、深堀司教ほか四人の司祭でミサをささげ、在校生一同参列した。

シスター・ローザは昭和26年来日、明光学園の創立準備に着手、32年同園第二代校長、41年鹿児島県大口明光学園の理事長兼校長、44年カノッサ会日本初代管区長、昨年10月以来東京で療養につとめたが、聖母病院で死去。65歳。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

社長 カシミロ・塩田五郎

福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）

TEL 代表 092 (521)—8266—7

土地と住いのコンサルタント

㈲若葉不動産

福岡県筑紫野市本町西鉄二日市駅前

代表者 アッシジ・フランシスコ

松本 友則 09292④5833夜②7476

F・ベルトラン神父と小倉・門司の教会

守山寛一(遺稿)

明治末期の小倉教会

門司教会は、大正10年(一九二一)マルタン神父が正式に主任司祭としておいでになるまでは、小倉教会の出張所みたようなものでした。それで門司教会の歴史を語るには順序として小倉教会のことから述べなければなりません。

私が郷里長崎から小倉に参りましたのは明治43年(一九一〇)で当時北九州には教会は小倉にただ一つあるきりで、北九州五市はもちろん筑豊方面、行橋宇島までが全部小倉の係りであったのです。また当時は全九州と台湾全島が長崎教区に属し、その司牧者はコンバス司教様でした。

小倉教会は現在と同じ香春口にあり、只今の聖堂の所は畑で、門を入って右側に広い日本建の平家があり、志村伝道士さん一家の住居兼集会場、教理研究所になっていました。それに長い廊下に続いて木造二階建の建物がありました。下が聖堂、二階が司祭館で、主任のベルトラン神父が住んでおられました。その前代はフェラン神父で、この方は小倉から朝鮮の釜山に移り、明治44年ごろ大邱の日本人信者の係りになり翌年亡くなられました。とても快活な子供好きな、日本語の上手な方でした。

小倉には陸軍第十二師団がありベルトラン神父は週二回将校連に仏語を教えに北方の偕行社に通っておられました。通勤は往復ともフランス製の自転車でしたが、これは旧式の婦人用のものでした。あとで私がもらい、タイヤをよく調べてみますと、空気を入れない式のもので走るとガタゴト音がします。内部は針金のラセンになっていました。仏語教師としての毎月の給料三十円を貯めて、そのお金で門司の広石の土地四百八十坪(竹ヤブと雑草の荒地)を買取り、家を建てたのが門司教会のそもそもの始まりで、たしか明治40年(一九〇七)だったと思います。こうして月に一回は小倉からおいでになってミサをあげておられましたが、他の日曜・祝日には門司の信者は皆小倉に出かけました。この状態は大正10年マルタン神父が門司に着任なさるまで続きました。

門司教会を兼任

当時出来たばかりの電車は門司から八幡までで、大門から戸畑までは通っておらず、戸畑、若松の信者は小倉に行くのに相当苦労しました。門司の私どもは魚町で下りて香春口まで歩きましたが、旦過橋から教会までの道路の悪いことは話しにならず、雨の日などはまるでタンボの中を歩くようでまったく閉口しました。

当時の香春口は小倉市の最南端で、あれから先は見渡す限りの田んぼ、その中に製紙会社の赤レンガの徳利型の煙突が見えただけでした。何しろ日豊線を走る汽車が教会から見えていたのですから、その広莫たる様も想像がつくでしょう。そして教会前から北方兵営まで、小倉軌道鉄道株式会社の鉄道馬車が一本通っていました。鉄道馬車というのはトロッコ用のレールの上を十人ぐらい乗れる車を馬に引かせたもので、ガッタンゴットンと人の歩くより少し早く、お客はほとんど兵隊さんでした。

ベルトラン神父は門司教会の創立者で、バトンをマルタン神父にゆずられるまで十五年間、小倉と兼務しておられました。その後マルタン神父が熊本へ転任なさったのち、今度は小倉をヒューゼ神父に渡して門司だけの主任として四年間(昭和7－11年)在任なさいました。そして病気のため現役を去り、司祭叙階五十年目の昭和15年2月22日八代で帰天なさいました。

とても優しい方で、私も三十年間とてもかわいがられましたが、ただの一度もご機嫌の悪いお顔を見たことはありませんでした。日本語は外人離れがして発音にナマりがなく、また歌が得意で声量も大きく、司祭叙階式などの儀式では必ず聖歌隊の先あげをしておられました。また一方とても器用で、小倉の司祭館の横手に二坪ほどの仕事場を造り、足踏式の糸のこぎりをすえ付け、木で花筒や燭台など祭壇用具は自分で作っておられました。現在私の家の小香台も神父様のお手製です。楽器にも造詣が深く、よく廃物のオルガンを貰ってきては立派なものに作り変えて売っておられました。

神父と猫

ベルトラン神父といえば、すぐ猫を思い出すぐらい非常な猫好きで、五・六匹はいつも手許に飼ってあり、食事の時はベルを鳴らすと四方からニャンニャン集まって来て食卓の上にとびのり、大皿に口を入れて神父と一緒に食べています。

あとの話しになりますが、いよいよ小倉を引揚げて門司に移るとき、私共が荷造り運搬等に手伝いに参りますと、お部屋のすみずみに猫の毛がほんとうにウズ高くホコリと一緒にたまっていて、ベッドもふとんも毛布も、毛だらけだったのにはびっくりしました。ところがその内の一匹だけ門司につれていかれ、残りは注射で殺してしまわれ、涙と共に葬られました。

(この遺稿は故守山寛一氏が、昭和29年ごろ「門司教会(現在の門司港教会)の歩み」と題してまとめておかれたもの。編集部で一部加筆、削除しました。)

典礼聖歌で黙想会

まだ問題の多い小教区の実情

ミサをはじめ毎日の生活の中で「典礼聖歌」を信仰の心で味わいながら美しくうたうための「典礼聖歌黙想会」が、4月28日から29日にかけて、福岡黙想の家でひらかれた。企画したのは福岡市の典礼聖歌研究グループの信者たちで、このはじめての試みに司祭修道女、男女信徒ら二十六人が参加した。

内山恵介神父が三回にわたって「祈りとしての詩篇」について講演、全員でその内容を深めながら聖歌を練習していくという方式がとられた。終りに約一時間、参加者の所属教会で典礼聖歌をどのように使用しているかの現状報告を交換し合った。その発言の要約はつぎのとおり。

典礼聖歌の第一集が公けになって満五年にならぬ今、修道院や神学校はともかく、これが典礼の中で理想的に用いられている所はまれである。この状況をどう打解し、これからどう向上させていくかが焦点になる。

まず典礼聖歌は十分に歌われていないという実情。これには実は二つの事情がある。ひとつは全八集のうち、まだ二、三集しか備えていないか、全部をそろえているにしてもその中の数曲しか歌っていない。もうひとつは、一応八集の中からあれこれ選んで歌い、レパートリーもかなり広いが、それがいわゆる典礼の一部としての役割を果たすまでにはなっていないしまた漫然と歌っているにすぎない。

そこで聖歌の練習をめぐって問題が出てくる。第一は、会衆に練習させるのがなかなかむずかしいという点。それでもある所では日曜ミサの前に、その日歌うものを練習している。ただミサ後となると多くの人が帰ってしまい練習にならない。第二に、練習方法がわからないという点。これに関連して、練習をさせる指導者がいないという問題がある。やりたい気はあっても誰が指導するかとなると行きづまる。

典礼聖歌は、これまでのカトリック聖歌集に比べて高度のテクニックを要するので、指導者の養成と訓練が必要である。このことはまた神のみことばを会衆に歌ってきかせる詩篇歌唱者についても、また典礼の一端をにない、会衆の歌をリードし、それに奉仕する聖歌隊についても、同じように言える。

そこで具体的提案として、教区報に詩篇解説を連載してもらってはどうか、三年前に開かれた典礼聖歌研修会(高田先生の指導で)をなおまた開けないか、といった要望があった。また幾つかの小教区合同で研究会ないし交流会のようなものを定期的に持ち、徐々に普及、定着させていきたい、などの声もあった。

今回の黙想会で詩篇を自分の祈りとして歌うことを学んだ参加者からは、この体験をぜひ自分の小教区の典礼の中に生かしたいとの前向きの声が多くきかれた。

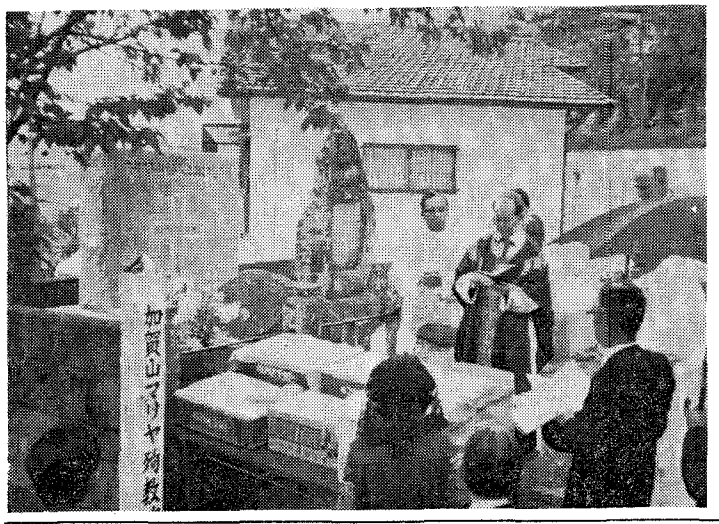
信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092 (291) 3231番

片山無線
Francisco Katayama
TEL 781－2729

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL 771－3657

加賀山みやら殉教記銘碑建立

熊本市花岡山で除幕と顕彰ミサ



熊本市花岡山で信仰のため生命を捨てた加賀山マリアら小笠原一族十五人の殉教記銘碑が、同賛仰会によって完成、4月17日午前11時から除幕式と共同ミサが行われた。

加賀山マリア（みや）は、細川忠興の重臣・加賀山隼人正の長女で、小笠原玄也の妻。寛永12年（一六三五）12月23日、城外高麗門禅定等で玄也、みや以下九人の息子と娘、侍女四人が処刑された。昭和11年3月、花岡山中腹の宮軍墓地前に手取教会の信者ら有志により顕彰碑が建てられ、ブルトン福岡司教の司式で殉教三百年記念慰霊祭を執行した。碑は徳富蘇峰題、米原鶴太撰、菊池真人書によるもので今日に残っている。

今回の記銘碑はこの碑に並んで建てたもので、タテ一・二㍍、ヨコ一・五㍍、奥行き三十㌢の白みかげ石に「キリストの証人ここに眠る」の文字と大きな十字架をあしらい、下に殉教者十五人の名前が金文字で彫り込んである。

除幕式には熊本市内の信者、修道女ら約二百人が集まり、加賀山マリアの子孫に当たる宇土市在住の加賀山興定さん（八三）が除幕した。このあと深堀司教とコーフィールド、オサリバン、深堀神父ら四人で共同ミサがささげられた。

（写真は記銘碑の祝別式）

健軍レジオ千回記念集会

熊本市健軍教会（ノーリス神父主任）のレジオ・マリエ（絶えざる御扶助の聖母プレシデウム）の千回集会の記念の行事が、5月22日午後1時からあった。熊本クリアの徳永八郎会長はじめ、手取、島崎、八代、八吉の会員と賛助会員ら約四十人が集まって共祝した。健軍のレジオは昭和31年3月11日第一回集会を開き、現在吉崎美智子会長以下正会員八人、賛助会員二十七人が毎週忠実に集会を開き活発に活動している。

カルメル福岡修道院全面改築

昭和25年創立のカルメル福岡修道院（西区片江神松寺）では、老朽した木造建物に替えて鉄筋コンクリート建修道院（一〇五二平方㍍）を昨年秋から着工、このほど完成したので、4月26日午前10時半から祝別と竣工式を行なった。平田司教が聖堂をはじめ全修院を祝別、末永建築設計事務所長、竹中工務店会長、同作業所長にカルメル会日本管区長マテオ・アダミニ神父の名で感謝状が授与された。

会合と催し

6月のスケジュール

◎平田司教
1日 大神学院で司祭候補者認可式
3日 高宮ボーイスカウト分団に挨拶
5日 水巻教会堅信
7日 福岡地区司祭集会
12日 オジョニ、ルッチ両神父司祭金祝（佐賀教会）
19日 福岡教区修道女連盟総会
29日 全教区司祭集会（司教霊名ペトロのお祝い）

◎黙想の家
4日―5日 カテキスタ黙想会
11日―12日 明治学園高校生黙想会
14日 外人宣教師集会
16日 福岡地区カトリック婦人の集い
25日―26日 福岡地区青年黙想会

◎全国カトリック収容施設連盟
2日―3日 福岡市博多駅前日本食堂で

◎聖体行列
12日 熊本市島崎教会から琵琶崎修道院まで、午後2時、教区創立五十周年の恵みを求めるため。

◎北九州女子中学生黙想会
4日―5日、八幡西区黒崎援助修道院で

◎CLC通勤黙想会
26日から10日間熊本大江修道院で

勲七等瑞宝章をうけた

熊本天使園の嘉松朝子さん

5月7日に熊本県庁で勲章伝達式、11日皇居宮明殿で天皇陛下に拝謁。「ほんとうは皇后さまにお目にかかりたかった。東京からの帰りに京都に寄って七母のお墓詣りもできて、うれしかった。」思っていることをポンポン話し、明るく笑う。

「じつは勲章をいただくなんて…びっくりして、絶対いりませんと申しましたが、主人がありがたく貰っておけと言うものですから…主人のほうがずっと苦労したのです。

中国青島育ち、五十七歳。終戦直前に北京大使館員だった長崎出身の清市さんと結婚、引揚げ後は教育畑に移ったご主人と東京、愛知そして26年佐賀県馬渡島の「海の星学園」に木村神父からせがまれて勤務。生まれて始めての仕事にも精出すなかで、じっくり勉強して受洗。

29年5月熊本県西合志にコロンバン会が計画した養護施設「少年の町」（現熊本天使園）の設立準備に、清市さんがとりかかることになり一家をあげて熊本へ。翌年4月なんとか開園したものの樹一本もない原野の真中。保母の資格を持った人もいず、それではと朝子さんが猛勉強の末資格をとり、32年4月から事務の清市さんと一緒に子どもの世界に入った。自分たちの子ども四男一女を育てながら…。

「最初に入園してきた小学一年生二十二人の腕白ぶりが忘れられません。米軍払い下げの雑のうをカバン代りに背負って泣きじゃくるかと思うと、毎日のように登校下校の道で畑にいたずらをし、持主は私どもの家にドナリにくる、こちらはひたすら頭を下げて詫びるばかり。でもそんな野性的な子どもが一番かわいいですね。」

無から生まれた施設で園長も保母さんも口に出せない苦労をなめた。今回の叙勲はこんなかくれた奉仕に対するいささかのねぎらいともなるだろうか。

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52―3306
52―8622

保険に加入して車の運転を致しましょう。
大石保険事務所
大石真澄
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）
AIU㈱福岡支店内
〒810 TEL771―4761

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目 外国産石材輸入加工販売／大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21℡52-2417
工場熊本市花園町41 TEL56―0170
（夜間）64―6781

親として考える

木藤幸子

五月はマリア様の月。そして第二日曜日母の日には、カーネーションが母親への贈物としてすっかり習慣化しました。六月には父の日があります。子どもからの贈物を受けるだけでなく、父親、母親のあり方を考えるにはよい機会だと思います。

私が今の施設につとめて、二十七年間にすっかり家族関係は変ってきました。昭和二十五年から三十年までは戦災孤児、引揚孤児の収容施設でしたが、だんだんと入園理由も、家庭環境不遇児という事で入園して来る子どもが増えてはきましたが、まだまだ貧困や母親の病気等で、これでは家族分散も無理ないと思われるものばかりでした。しかし神武景気といわれた高度成長時代をむかえた頃から入所理由が全く変ってまいりました。入園原因別（但し主として家族調査）

左の表に現在の私の施設の子どもの家族環境をあげてみましたがたしかに問題児も多くなっています。問題の子どもには問題の親がある、といわれます。家庭は、人間として生きていくため最低限の基盤です。人間の赤ん坊ほど弱いものはありません。寝転がされたらそのまま動く事は出来ないのです。生きていくため、いや生かされるためには両親の力が絶対に必要です。それだけに両親の子どもに与える影響は、子どもが幼ければ幼いほど大きいのです。

原因	人数
両親死亡	2
置去り	1
両親入院	5
母親入院	3
父子家庭（母死亡）	5
父不詳 母精薄	5
離婚　父親権	14
離婚　母親権	1
両親家出	6
母の家出	5
父の家出	2

乳幼児期につくられた人間としての判断力、行動の仕方はそのまま性格の基盤になっています。ある程度成長して社会で生活する事によって、変っていく面もあるでしょうが、人生のはじめに受けた家庭環境は消し去る事は出来ません。「三つ子の魂百まで」といわれますし、また今は亡きカンドウ神父も「子どもの養育はその子が生まれる二十年前の教育にはじまる」といわれましたが、両親がどのように生きて来たか、そして、自分の生活基準をどこにおいているか、特に内面的な精神生活の基準のおき方で、子育ての基準は変って来ます。親が意識的に子どもに対して教えようとしてる事柄より、無意識的な事柄の方がかえって子どもに意識されてる方が多いのです。

子どもは親の鏡といわれますが親の姿が子どもです。まだ物心つかない乳児に母親が授乳しながら、笑顔で語りかけ子どもの表情に応答する時、子どもの心は安定しています。父親も、子どもの繰り返し繰り返しの問いかけに根気強く応答してやる時、探究心も深まり父への信頼度も強くなるでしょう。何も分らないからと笑顔一つ見せず、補乳びんをあてがってテレビに無中になる親だったら、情緒面では欲求不満の人間を作り出してしまいます。

両親の役割としての第一は、子どもの発育段階に応じた欲求を充し、人格形成の基盤を与え、方向づけをしてやる事。第二は、社会人として生活出来る基本的慣習や価値、社会に適応する仕方等を、親の生活によって学ばせてゆく事です。養育するとは単に身体的栄養を与える事でなく、また知識を学ばせる事でもなく、情緒面の欲求をも満足させ、愛情豊な人間として育てる事だと思います。

現在私の施設にも過保護が原因の登校拒否児童や放任が原因の情緒障害児も多く、また私ども施設職員間では学校捨子、共稼孤児等とよぶ子どもの入所も多くあります。大人でさえ他人に認められたい願望は持っています。まして子どもは親に愛されたい願望は強いのです。親の態度が、子どもの中で内面的欲求に耐える力や、不安に対処する仕方、喜怒哀楽に対する取り組み等に大きな影響を与えています。小学生の自殺や殺人等、十年前までは考えられもしなかった事が起きている昨今です。親達が生活態度をもう一度考える時期ではないでしょうか。

子どもから父親のような人格者になりたい、母親のような豊さをもちたいと尊敬の目でみられ、子どもの人生の目標となる人間像を両親は持ちたいものです。（聖小崎育児園長）

青梅雨

連載随筆『紫烟荘雑記』

保野衛

暦の上では六月十一日を入梅とするが、この日から梅雨がはじまる訳ではない。俳句の歳時記は『梅の熟する頃の雨、またその頃、黴が生えるので梅雨とも黴雨とも書く。気象の上ではオホーツク海気団と、小笠原気団によって形成される停滞前線性の降雨が梅雨で、北海道を例外として全国に見られる。大体六月上旬に九州から始まり北上、七月中に終るのが普通……』と記している。

梅雨の時期になると、梅雨に降り込められ、遊び場所を失った幼年の日を思いだす。そんなとき私は、仕事をしている父のそばにうずくまったり、母の腰にまつわりついたりして、そのつど父と母にひどく叱られたものであった。貧しかった父と母が、病弱の私を抱えていちばん困っていたころで、難破船のように暗かった家の印象と、湿った空気の肌ざわりは、いまも総毛だつような感じで、私の頭に残っている。

人が生命を大切にしなくなったものか、一家心中の記事を新聞で見ることが多くなった。梅雨のじめじめした空気の中でそんな記事を読むのは、嫌というより、むしろ顔をそむけたい思いが強い。

十年余り前のことになるが、永井龍男という作家の短篇で、老人の一家心中を描いた『青梅雨（あおつゆ）』という小説を読んだことがある。

最近出版された永井氏の随筆集『ネクタイの幅』の中には、この作品が、新聞に掲載された、一家心中の記事をもとに書かれたことが記されている。それによると心中をしたのは太田千之（七七）妻ひで（六七）、養女春枝（五二）ひでの実姉林ゆき（七二）、という老人の家族で、警察の調べでは、『太田さんは以前会社員だったが、きちょうめんな性格で、昨年四月堀江商店から借りた五十万円の利息を、毎月二万二千五百円ずつきちんと支払っていた。その上、自宅と宅地、家財道具などが借金の抵当にはいっていて、生活はかなり苦しかった。』といわれ、高齢者ばかりであることから、前途を悲観して心中したものと思われる。

永井氏は『土に生れた者は、土に帰る。われわれの血の中には、死に対処するそのような考え方が一筋強く通っている。神仏を尊んで恃まずという言葉が宮本武蔵にあるが、この一家はさらに謙譲で、神仏に後生を托さず、生れたなりの姿でどこかへ帰って行った。そういう境地が書ければと思い、できるだけさりげなく、静かな調子で仕上げるように心がけた。』と、言っており、小説はそのとおり、心中前夜の一家の様子を、いかにも静かにさりげなく描出している。

しかし鋭利な刃物で切り取ったような、この人生の断面には、老人一家の哀れが水のように匂っていて、私はこの小説を読んだときの、人生の深淵をかいま見たような思いを、いまも忘れることができずにいる。

なお永井氏はもと文芸春秋の編集長で、追放のため同社を退社、以後文筆生活に入り、昭和四十年には短篇集『一個その他』で、野間文芸賞と芸術院賞を受賞している。

宗教教育を議題に

北九州地区婦人会

北九州カトリック婦人会は地区の全婦人を包含して活動しているが、去る4月26日の委員会では子どもの宗教教育について小教区毎の状況報告をおこなった。また5月27日は午前10時半から午後2時半まで、バスティ神父の「子どもの宗教教育に対する婦人としての役割」についての講演を中心に話し合う。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四角　TEL　521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 深堀敏
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部

聖書への関心を高めよう

その正しい認識こそ信仰の力

福岡司教 平田三郎

(一) 最近カトリック信者のあいだでも聖書にたいする関心が高まってきたことは、よろこばしいことです。それは一つにミサの典礼のなかで毎日曜日、聖書を日本語で耳にし目で読む機会が与えられていることや、また教会一致の運動＝エキュメニズムによって、聖書を何よりも大切にするプロテスタントの人たちから、いい影響をうけたためでもありましょう。

たしかにここ数年前から、小教区や使徒職団体の集会や黙想会、学生の研究会で、聖書を手にして神のみことばに接し、それを黙想し、心に感じたことを互いに分かち合うといった信心がよく見つけられます。一方キリストへの信仰をまだ持たない人たちのあいだにも、聖書を読み、聖書から人生の指標を得ようとする人がますます多くなり、日本における聖書の普及は世界中のどの国よりも、数の上では進んでいると言われます。プロテスタントだけでも昨年一カ年で、七百万部以上の聖書（分冊をふくみ）を全国に広めたそうです。

(二) しかしながらこういう一種の「聖書ブーム」の中で、私たちカトリック信者が聖書を正しく認識し、これを信仰の力の栄養源としてよく受けとめているかというと、残念ながらそのレベルの低さを認めざるを得ません。

「聖書は買って、家庭に備えてあります」という人で、じっさい毎日か、せめて週に一回でも手に取ってページを開き、静かな心で読み黙想している人は、どのくらいいるでしょうか。大きな美しい聖書がただ本棚のどこかに飾ってあるだけではないでしょうか。研究会に出席する時間をつくる工夫をしているでしょうか。どうせ聖書はむつかしいもの、信者が自分で解釈してはいけないものという間違った尊敬（敬遠）を昔ながらに持ちつづけてはいませんか。聖書を貸い、よく読み、神に近づく人がふえてこそ、聖書は普及したといえるのです。

(三) カトリック教会は聖書なかでも福音書を読み黙想することを信者に強く勧めています。古くから聖書は聖体と並んで教会の中で尊重されました。公会議の時も毎朝、聖書が行列をもってそうごんに祭壇に運ばれました。聖書は神のみことばを宿すもの、私たちはこの聖書を通して神のお心を知り、神と語るのです。詩篇に「みことばはわたしの足のともしびわたしの道の光」という一句があります（百十九の百五）。正しい聖書の研究と黙想は信仰の歩みを照らし、強い信仰感覚を養い、神の子として生きる力を与えます。

(四) このように聖書をいっそう大切にし信仰の養いとしてこれにもっと親しむようにと、日本の司教団は「聖書週間」を設定しました。プロテスタントではずっと以前からこの種の運動は始まっています。

この運動では皆が聖書をもっとよく研究し、聖書を黙想できるよう、すぐれた聖書のほん訳や研究書（入門書や解説書、辞典）を紹介したり、聖書研究の方法を知らせたり、また教会学校のため聖書教材を提供します。

この運動はことしから十一月の第三日曜日を中心に展開されます教区のみなさんがいっそう深く聖書を愛し、聖書に生きることを期待しています。運動のモットーは「聖書を知ることはキリストを知ることである」となっています

記念式典プログラム決定

教区創立実行委員会

教区創立五十周年の記念行事を話し合う第五回実行委員会（委員長伊東誠一神父）は、6月5日司教館でひらかれ、必要計費の分担金にたいする小教区の状態が地区毎に報告され、なお記念式当日（11月6日）のプログラムの大筋を決定した。分担金の拠出についてはいくつかの小教区で難色が見られるが、全体的には協力の姿勢が盛り上っていることが報告された。当日のプログラムは11時30分に開始（中食は式前にすませる）共同ミサ（主任司祭 祈願は四地区で受持つ）、その場ですぐに祝典に入り、教皇大使につづいて司教団、外国宣教会、女子修道会、プロテスタント教会のそれぞれの代表の祝辞、信徒代表の決意表明と大会宣言をする。当日の進行係は伊東神父、典礼係は青木神父、会場設置は山田神父と坂田三郎氏、案内接待は鬼木保之と山田耕三郎の両氏。

平田司教ら聖地巡礼へ

平田司教を団長とする聖地巡礼団の一行三十七人は、7月23日福岡出発、聖地に五日滞在、ローマ、ルルド、リジューなどを廻る。8月3日教皇謁見にあずかり贈物と霊的花束を献げ、6日帰福予定。

使徒職研修会

福岡地区信徒使徒職協議会では6月19日午前10時半から、小教区代表者むけ研修会をひらいた。福岡大神のラベル神父が「信徒使徒職とは何か」について講演、青木保神父の霊的講話のあと討議をおこない、4時すぎミサで散会した。

佐賀に御聖体の宣教クララ修道会

このほど佐賀地区に「御聖体の宣教クララ修道会」が半年の試験期間をもって入ることになり、4月17日、二人の日本人修道女が派遣された。当分は佐賀市内の民家を本拠とする。同会はメキシコで創立、東京に日本本部があり、佐賀では県内教会の子どもや求道者の要理勉強の手伝いをするが、教材を使っての新しい布教方法に期待がよせられている。

熊本で聖体行列

熊本市内合同の聖体行列は、6月12日梅雨晴れの好天に恵まれ島崎教会から五百メートル離れた琵琶崎修道院まで、教区創立五十周年を記念して挙行された。約二百人の信者が聖体の前につらなり、待労院と養老院前の仮祭壇をへて修道院聖堂に進み、一時間後の三時終了した。

司祭認可式

福岡教区大神学生一年の松井忠之さん（小倉教会出身）は、6月1日叡衣と司祭候補者としての認可をうけた。この式は旧典礼のトンスラ（剃髪式）にあたる。

浄水通教会銀祝

福岡市の浄水通教会（主任山田成章神父）の創立二十五周年のお祝いが、5月29日聖霊降臨の大祝日にあった。11時平田司教と前任の平田惣五郎、伊東誠一神父らの共同熱行ミサと堅信式のあと祝賀会がにぎやかに催された。同教会は戦前短期間ながら小教区となったが中断、戦後平田神父を初代主任として再興、現在の聖堂が建設された。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

社長 カシミロ・塩田五郎

福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）

TEL 代表 092 (521)—8266—7

福岡教区創立50周年

記念ミサ 11月6日（日）

福岡市泰星高校体育館で

午前 11時 集合

コール神父と熊本の宣教

三修道女会が社会・教育事業に献身

明治二十年代の熊本地方の最初のカトリック宣教師はJ・M・コール神父である。コール神父は一八五〇年の生まれ、明治9年12月長崎に上陸、日本語を学び、13年長上の命で天草と筑後今村の旧信者部落を訪れ信仰を鼓舞した。長崎では幼きイエズス修道会の指導、そして神学生教育にあたった。神父がクーザン司教から熊本の福音宣教に派遣され、この町に第一歩を印したのは明治22年3月15日である。佐々木真末神父が一緒だった。熊本の町はその二週間後の4月1日に市制をしいた。人口四万二千七百人。この町でとくに神父の注目を引いたのは加藤清正公を祀る本妙寺の周りに集るライ病者の群れであった。一日も早くかれらに救済の手をのべたいと焦ったが、一般住民への布教を優先せざるを得ず、とりあえず西岸寺町（現在の下通二丁目）に家を借りた。ここを本拠に近くの村々にも講演に出かけては、土地の有力者と近づきになり、キリスト教に対する根深い偏見を取りのぞくことに努めた。こうして神父の働きは熊本から八代、人吉へと広がっていった。その宣教の協力として三つの修道会が呼ばれた。

一、幼きイエズス修道会

病人と臨終者の救済のため、先ず長崎からショーファイユの幼きイエズス修道会が熊本に招かれてきた。明治22年11月、マチルド他四人の修道女は山崎町の借家に住み、25年草葉町に移り塾を開いて六十人に教理を教え、十四、五人の孤児の世話に着手するかたわら（これが現熊本天使園の誕生）、貧困家庭の訪問、病人見舞をつづけ、また和洋裁教習所を開いた。また八百屋町（南新坪井町）に玫瑰館を建て寄宿生や孤児を住まわせた。貧困病人に施療のため上林町に診療所を開き（明治42年に聖心医院となる）、またコール神父の指示で本妙寺附近の病人の宿所を見舞い看護に当った。神父はこの年琵琶崎に土地を求めて小屋に病人を収容し、自分も一緒に起居した。この施設は31年10月新しく来日したマリアの宣教者フランシスコ修道会に移譲された。

神父は教育事業にも目をつけ、32年まず仏英和女学院を開設、翌年文部省認可の熊本玫瑰女学校に発展し、メール・ボルジアが校長に就任した。これが現在の熊本信愛女学院の前身である。

二、マリアの宣教者フランシスコ修道会

コール神父のライ者救済は一時的な情熱ではなく着々と長期の計画を具体化していった。奇しくも神父が熊本に到着した明治22年はハワイのモロカイ島でかの有名なダミアノ神父がライ患者のため愛の殉教死をとげた年であった。神父はすでに始めていたライ者の世話を別の修道会に一任したいと考え、創立間もないマリアの宣教者フランシスコ修道会に打診した。最初の宣教女が熊本に着いたのは31年10月19日、この日が現在の待労院創立の日とされる。

熊本の使徒コール神父（明治44年帰天）

二カ月たったころ、本妙寺境内に行路病者が幼児をだいたまま息絶えようとしている所を発見したシスターは、その親子を引きとり、幸い命は助かった子どもを養育することになった。これが現在の養護施設聖母愛児園の始まりである。創立二年後、島崎町八二〇番地に約一万五千坪の土地を購入、その一年あとライ患者の病棟が完成した。大正四年、家人から捨てられた老婆を救ったことから他の数人を建物の一隅に収容するようになり、養老院が誕生した。

熊本の仕事が軌道に乗り始めた明治39年1月、シスター二人はコール神父の命で球磨川の上流人吉市に向った。最初の仕事は診療所で、開設一年間の取扱い患者延数は五千人を超え、特製の膏薬は評判がよく遠く宮崎からも来院する人があったという。これはのち復生院と呼ばれたが十年前に廃止された。現在は幼稚園（大正四年創立）と聖心老人ホーム（昭和27年）を経営している。

三、シャルトルの聖パウロ修道会

すでに二つの修道会を熊本県の社会・教育事業のために招いたコール神父は、新しく三番目を八代に呼んだ。フランスに生まれ、明治11年に来日したシャルトルの聖パウロ修道会である。

明治22年4月コール神父はこの時も佐々木神父を伴ってまず八代郡宮原と鏡を訪れ、ついで八代に入り宣教活動を開始した。八代はシモン竹田五兵衛ら多くの殉教者を出した由緒ある町である。この町に再び福音の灯をともす役目を聖パウロ会に果たしてもらおうと、神父はたまたま来日中のマリー・セリナ副総長に相談した。

明治33年5月13日、東京で社会事業の経験をつんだウラリ院長は二人のシスター（アンゼールと小磯エイ）を伴って八代に到着、二之町の空屋を借り、ただちに貧困者の施療と孤児の養育に献身した。その年の12月には長町八十四番地（現在の通町）に本館を建て、ついで病院やその他の建物が出来上った。孤児三人で始まった施設は養護施設ナザレ園となり、翌年には二階建の病院を新築、博愛医院と称して広く病者への奉仕に本腰を入れることになった。

社会事業が一段落つくと42年6月、八代技芸学校を設立、生徒数わずかに四十二人であった。大正15年成美高等女学校となり、昭和16年以降、白百合高等女学校と改称された。

四、手取教会

三つの修道会の文字通り無私の奉仕、天草を始め人吉、八代での新宣教師の地味な伝道を指導してきたコール神父は、熊本市の教会用地として明治34年現在の手取教会の場所（手取本町）を購入した。39年その社会事業への貢献を認められて藍綬章を授与された。この前後から胃痛に悩み、香港で治療をうけたがはかばかしくなく、明治44年2月9日手取教会の質素な部屋で死去した。享年六十六歳。手取教会はそのあとフェリエ神父（大正6年10月着任）、ルマリエ神父（7年8月）がつぎ、大正8年7月ボア神父が主任になってすぐ、日本家屋の聖堂を拡張したが、昭和3年5月、日本の聖母に奉献された現聖堂を完成した。ボア神父は八十八歳でいま新田原病院で老後を養っている。

ドルヱ神父の記録

北九州市八幡東区八王寺教会に隠居中のドルヱ神父（八十九歳）が、自分の生涯を口述したのを記録した「地の糧」が出版された。希望者に無料（但し郵料百円）で配布する。北九州市八幡東区八王寺町一の十一、金森敦夫あて申込むとよい。

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092（291）3231番

片山無線
Francisco Katayama
TEL 781 — 2729

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

50年間の司祭生活を賛えて

オジョニ、ルッチ両神父の金祝を祝賀

金祝祝賀会のオジョニ神父（中央平田司教の左）とルッチ神父(右)

6月12日佐賀教会でオジョニ、ルッチ両神父の叙階五十周年記念祝賀会が盛大に催された。当日は梅雨晴れのよい天気に恵まれ、県内各教会から信徒多数が出席し、また県出身の司祭、修道女も全国各地から約三十人がかけつけ、時ならぬ賑わいで聖堂は約七百人でぎっしり、平田司教を中心に金祝両司祭、ミラノ外国宣教会日本管区長ジャンニーニ神父、地元司祭ら全員で感謝のミサが壮厳に献げられた。

説教の中で司教は、両神父の五十年にわたる中国、日本での司祭活動を賛えると共に、あとにつづく聖職者が数多く輩出するよう召命について強調した。午後の祝賀会では、パウロ六世教皇からの祝福のことば、全信徒から贈られた祭服、幼稚園や各種団体からの記念品贈呈があり、つづいて県出身司祭、修道女の自己紹介、スライドによる両神父の生い立ちと宣教活動の紹介、子ども達の作文や作曲の披露があった。最後に各教会からアイデアをこらしたアトラクションが出され、両神父にとって生涯最良の日となった。

CBS研修会

カトリック・ボーイスカウトの全国リーダー研修会が6月3日から5日まで、福岡市高宮教会でひらかれ、山口会長ら三十人が参加した。

保育・養護の三施設新築

去る3月から5月にかけて、三つの社会事業施設の建物が新築完成した。

汚れなき聖母の騎士聖フランシスコ会の佐賀県呼子町の殿の浦愛児園（保育）は3月25日祝別、保育室五部屋、二階が修道院、聖堂は一階、延面積八百四十平方米、児童数百十人、職員は西村園長以下十二人。

熊本市の琵琶崎聖母愛児園（養護）は4月23日落成祝別、木造二階建四五二平方米、畳敷き居間二部屋、子どもは二十三人。これまでの建物は大正元年のものであった。職員九人

八代市通町シャルトルの聖パウロ会経営の八代ナザレ園（養護）は、5月12日落成祝別、幼児から十八歳まで七十人収容、乳児園は去る3月末日で廃止、鉄筋コンクリート建三階一棟と同平家一棟、千六百八十平方米。園長はシスター西領和子。

会合と催し

7月と8月

◎平田司教
7月3日 福岡小神学生父兄の会
23日 聖地巡礼に出発
8月6日 巡礼から帰福
23日―25日 福岡教区保育連盟研修会、山口県長門市で
◎黙想の家
7月4日 福大生集会
12日―15日 福大生英会話ゼミナー
19日 聖公会教会婦人黙想会
27日―28日 教会行政・法制司教委員会会議
29日―30日 福岡雙葉学園中学生黙想会
8月2日―3日 西南学院大学生の集い
6日―7日 日基周船寺教会信徒祈りの会
8日―12日 聖書ワークショップ（英語）
17日―20日 カルメル第三会黙想会
23日―28日 一般公開キリスト共同体錬成会
31日―9月3日 海星女子学院中学生黙想会
◎信徒使徒職研修会
7月17日 北九州八王寺教会
◎熊本少年少女錬成会
8月11日―13日 熊本金峰山少年自然の家、竹森神父指導

地の塩

モンテソーリに打ち込む

戸畑教会の 藤原元一（もとかず）さん

戦前、戸畑明治専門学校の名で知られた九州工業大学の心理学教授、モンテソーリ協会の九州支部長。大正13年生まれの五十三歳。

中学二年のとき大阪田辺教会で受洗。心理学を選んだきっかけ。「もうそのころから教会学校の子どもと交わるのが好きで、子どもをもっと理解したいという気持が昂じて」、大阪大学から東京大学へ。終戦後は修道会の経営する社会施設に出入りしたり、カトリック学生運動のもっとも盛んだったころ「今は大学教授になった沢田さんや武者小路さんらと活躍しました。暴れん坊の悪名とどろき大阪学連委員長に、それでも田口司教様の所に集まってまじめに黙想会もしました」。

31年阪大医学部研究生のとき九州工大講師へ。労働社会心理学を講義。「でも子どもの教育に引かれ、九州にも幼児問題研究会を作りました」。社会におけるあらゆる人間関係の原型は家庭の親と子の関係である。子どもの成長と行動は親の養育態度による。「私は親子関係を親の側からでなく、子どもの側から見始めたのです」。世界的に有名な教育学者モンテソーリ研究に着手。わが国のモンテソーリ研究は日が浅く大正初期の一時的なブームはさておき、本格的な取組みはここ十年になるかならずや。

「教師としての態度の根本的転換が要求されます。一方的に子どもに教えてやる式のいき方を捨てなくてはならないのです。子どもが生まれながらに持っている力を伸ばしてやるだけ」。大人は子どもの自然の力の成長を妨げず、よりよい条件を作ってやること。

モンテソーリを語る藤原さんの語調が内に高まっていく。学生も非常な関心を持ち、リポート提出もふえるばかり。それに幼稚園の先生や父兄への講演依頼で出歩くことが多く、研究時間が減るのが苦痛。「でも西日本はモンテソーリ教育が進んでいるのでうれしい」。戸畑区仙水町、大学二年と中学二年の娘さんが二人。

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52―3306
52―8622

保険に加入して車の運転を致しましょう。
大石保険事務所
大石真澄
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）
AIU㈱福岡支店内
〒810 TEL771―4761

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目 外国産石材輸入加工販売
大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21☎52-2417
工場熊本市花園町41 TEL56―0170
（夜間）64―6781

『晩年の父』

谷口鉄雄

昭和十一年、私がまだ大学の研究室の助手をしていたころ、小堀杏奴著『晩年の父』という本が、岩波書店から出た。小堀杏奴は森鴎外の次女であり、鴎外の文学と人に興味をもっていた私は、その本が出ると、すぐに買って読んだ。強い感銘を受けたので、私の先生の矢崎美盛教授にその本の話をしたが、先生はただ、うん、うん、と答えられるだけだった。

間もなく岩波書店の雑誌『思想』に安倍能成氏が『晩年の父』についての感想を書き、いたく推賞した。すると矢崎先生から、あの本を貸してくれといわれ、お貸しすると、それから長い間、私のもとに返って来なかった。おそらく矢崎先生が又貸しをされ、次々と先生たちの間を転々としたのであろう。ようやく私の手に返って来たときには、外箱は壊れ、本の表紙は、はがれんばかりにいたんでいた。私は、うすい絹の布で表紙をつくろった。

私が『晩年の父』に強い感銘を受けたのは、鴎外の子どもたちに対する（この場合、杏奴に対する）愛情が絶対的であったことである。絶対的というのは、適当にその場その場の感情と打算から子を叱ったり、すかしてみたり、ほめたりするのでなく、子どもを包みこんで全く一心同体であるかのような、その心情の高さであり、静かさである。

ある時、杏奴が森邸の門の扉に白墨で楽書をした。父の鴎外は、近所の子がいたずらをしたものと思って立腹したが、その夜、杏奴が心苦しくなって、自分が楽書したことを白状すると、「そうか、杏奴ならいいんだよ、よしよし」といって杏奴の脊中を撫でてくれたという。鴎外の愛情のエゴイズムとも取れるかも知れないが、単なるエゴイズムですまされないものがある。鴎外の愛情は静かで、衝動的な起伏がなく、いつも穏かで暖かい。

夜、子どもが寝るときには、枕もとにすわるか、横の寝床にふせるかして話をしてやり、子どもはその父の手を両手に持って寝る。そして子どもの眠るのを待って、また書斎に引返して行った。それが、毎晩のことだったというのである。

鴎外は（帝室博物館長であり宮内庁図書寮の長官であった晩年の鴎外が）、毎日、出勤する途中、子どもを学校まで送りとどけていた。ある時、受持の先生が、もう学校まで送って来てもらいたくないということを家に言いに来たとき、鴎外はひどく腹を立てたという。鴎外にとって子どもを学校まで送ることは、しごく自然な行為であって、そこになんの作為もなかったのである。

杏奴が女学校の入学試験の準備に忙しくなり、きらいな数学に対する嫌悪感から神経質になったとき、鴎外は、杏奴に学校を休ませて、毎日のように役所に連れて行き、一緒に勉強をした。そして歴史や地理の本は、杏奴のために鴎外自身が抜き書きしてやったという。なんのてらいもなく、子どもと一緒に歩くこと、そこに鴎外の生き方があったのである。

もちろん鴎外といえども、家庭内の事情に悩みがなかったわけではない。殊にその母と妻とのいわゆる姑嫁の問題は、最大の悩みであったろうと思う。しかし『晩年の父』から見る限り、鴎外の子に対する愛情は、自然で、静かで、細かく、それでいて暖く、豊かであった。単なる叱ったり、ほめたりを越えて、つねに子と一緒に歩いていたという感じである。杏奴は言っている、「父は単なる父でなく、母であり又それ以上私達にとって絶対なものであった」と。

私が鴎外のことを長々と書いたのは、晩年の鴎外を紹介することが目的だったのではない。実は、昨年、遠藤周作の『沈黙』を読んだとき、ふと、どうしたことか、『晩年の父』を想い起したのである。

『沈黙』が投げかけている問いは、あの壮烈悲惨な殉教と背教の人間ドラマに対して、「父」なる神はなぜ沈黙を守っていたかということであろう。――「父」なる神は、ほめもせず、叱りもしなかった。しかし、たえず、いつも（今、ここに）、人間と一緒に歩いていたのではなかったか。

「父」なる鴎外と「父」なる神とをアナロジーとして論ずることが余りにも馬鹿げていることは、承知している。にもかかわらず『沈黙』を読んだときに『晩年の父』をふと想起したという不思議な心理を、私流に理由づけしてみたかったのが、この一文である。

（九州大学名誉教授）

『紫烟荘雑記』

七夕・書

俣野　衛

私の子供のころは、七夕（たなばた）まつりは旧暦の七月七日ときまっていた。いまはほとんど新暦で行なわれているが、歳時記には

『旧七月七日の夜、一年に一度逢うという牽牛・織女二星を祭る行事。笹竹の枝に詩や歌をかいた短冊形の色紙（いろがみ）を結びつけ、軒下や窓辺に立てて文学・裁縫の上達を祈る。江戸時代の五節句の一で、もと中国から伝わった習俗。たなばたは織女星すなわち棚機津女（たなばたつめ）の略で、たなばた祭という語はそれから起った。』

と、書いている。

私の子供のころは、七夕の朝になると、まだ薄暗いうちに起されたものであった。そして裸足で庭に下りて、庭木や草の露を、小さな容器に集めてまわる、その露で墨を磨って、短冊の文字を書くのである。

午後、学校から帰ると、机が縁側に移されている。机の上には、硯と筆に並べて短冊の束を置き、いつからでも、書きはじめることができるようにしてある。

机の前に坐って、『たなばた』とか『ひこぼし』などと短冊に書いていると、近所の友だちが覗きに来て、なかには筆を借りて何か書く者もいる。そうこうしているうちには、中学生や女学生が割り込んでくる。どうかすると、父を訪ねてきた大人が『あたしも書いてやろう』と言って、筆をとることもある。

いま思うと、ただなつかしいばかりであるが、あのころは、誰もが楽しんで筆を持ったような気がする。

『墨色の薄き好みや星まつり（山本皿秋）』という句があるが、この句にはそんな七夕まつりのおもむきが、うまく表現されていると思う。

最近は筆を実用に使う人がいなくなった。ボールペンやサインペンができたせいもあるが、いまはスピード本位で、筆で書いたのでは間に合わない時代なのである。

東洋の書の歴史は、四千年に及ぶといわれるが、わが国の書がいつごろからはじまったものか、浅学の私はこれを知らない。しかし現存する最古の肉筆に、聖徳太子の『法華義疏（ほっけぎしょ）』があり、また正倉院の御物には、光明皇后の手になる『楽毅論（がっきろん）』一冊がある。聖徳太子が亡くなったのは六二二年で、このころには既にわが国に書法が伝えられ、相当に洗練されていたと推定することができる。

『楽毅論』は、当時舶載されていた王羲之（おうぎし）の書を、光明皇后が臨書されたもので、気品の高さとその真摯な迫力は、書道史上でも屈指の名筆として知られている。

土屋文明氏の

背に恋ふる雪の朝の皇后（きさき）よ強くも見ゆ豊かにも見ゆ藤三娘（とうさんじょう）の自署

という歌は、この『楽毅論』を詠んだもので、『藤三娘の自署』とは、光明皇后の署名をさしているのである。

ながい間、日本人の生活の中で親しまれてきた書が、私たちの日常から失なわれていくのは、何とも寂しいことである。昔の人は日常生活の中で書に親しみ、大切にした。字がうまいというだけで人を尊敬したものである。大切にするから書にこころが生じるのであって、事務的に扱われる書には、芸はあっても、こころはないのである。

修女連年次総会

教区修道女連盟年次総会は、6月19日10時から福岡聾学園でひらかれ、約百五十人が出席した。新役員として会長オーシャンナッシー（戸畑コングレガンオン・ドノートル・ダム会院長）副会長松本（大濠聖母訪問会院長）書記橋本（八吉フランシスコ会院長）会計西村（呼子聖母の騎士会院長）の各シスターが就任。記念講演ではイエズス会日本管区長デイター神父が社会および修道院の共同体の生活について語った。ミサを司式した平田司教に、霊名ペトロの祝日の祝辞がのべられた。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四角　TEL　521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方 法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者・匿名五千円

高松教区新司教
帯山教会深堀敏師に

前高松教区長、田中英吉司教は、昨年来、長期療養を必要とする臥床の身となっていたが、八月一日、パウロ六世教皇は、帯山教会主任深堀敏師を、新教区長に任命した。司教祝聖式は、九月二十三日午後一時から、高松司教座聖堂で行なわれる。

深堀敏被選司教略歴

一九二四年十月八日、長崎に生まれる。福岡予科神学校で哲学、カナダ、サン・スルピス大神学校で神学を履修、五十一年十二月二十二日、同地で司祭叙階。

五十四年から七十年まで福岡司教秘書を務めた。その後教侮師、福岡大神学校講師、教区報編集長泰星高校副校長などを経て、熊本市帯山カトリック教会主任となり現在に至っている。

聖地巡礼の先頭に立って

平田三郎司教

教区設立五〇周年に当り、信仰のふるさとを訪問したらという声がどこからともなく起り、集った三十八名の司祭・信徒と共に、七月二十三日から八月六日までの十五日間、パレスチナ、フランス、イタリアの聖地を廻った。

キリスト様が生れ、宣教し、死んで復活された聖地には四日間滞在した。ガリラヤ、サマリヤ、ユダヤのあの地にも案内したい、この地にも詣でたいとの望みにかられ、無理な旅路をたどった。しかしおかげで、福音書の主な地を巡り、予定の教会で感激のミサを捧げることができた。

主が辿られた道を歩いての現地でのキリストとの出合い、とくに、十字架の道、お墓の聖堂での出合いは、巡礼団に深い印象を与えたようだった。フランスには四日間留まった。不思議なメダイの聖堂でのミサには老ボア神父様のお姉様のシスターが与かられ、教区に尽した弟に思いをはせておられた。多くの宣教師を養成して、福岡教区に送り、教区の基礎を築いてくれたパリー外国宣教会の神学校のチャペルを訪問して、先駆者を偲ぶことも忘れなかった。宣教国の保護者幼きイエスの聖テレジアの修道院でのミサ、院長様との面会も印象深かった。夏休み中のルルドには、世界各国から大巡礼団が集っていた。夜の果てることのないローソク行列、谷間にこだますアヴェ・アヴェの聖母賛歌、洞窟前の祭壇でのミサなど忘れることはできない。

中央アメリカのホンジュラス巡礼団のあの哀愁に満ちた力強い典礼聖歌、多くの病人を車椅子にのせ抗夫の正装をしてこれを取り巻く、ベルギー巡礼団の敬虔なミサなど心に残っている。

深堀新司教の任命を正式に知ったのはこの日だった。ミサ中に心を合わせ、将来のご活躍を聖母に祈った。

巡礼のクライマックスは八月三日の教皇様の特別謁見であろう。この日の栄誉・感激は、駐日ヴァチカン大使のご配慮によるところが多い。私たちの巡礼の計画を知った大使は、教皇庁に手紙を送り特別謁見の願いを出してくださった。この日、カステルガンドルフォには、五万の信徒がつめかけていたが、私たちにだけ特別謁見を賜わった。一同には別項のはげましのお言葉をかけてくださり、写真にも入り、ひとりびとりと暖かい握手を交してくださった。教区修女連が托した霊前花束も喜んで納めてくださった。

十五日間聖地を巡りながら捧げたミサ中、五〇周年を機に、前に向って飛び立とうとする教区の信徒一同のために祈ったことは勿論である。

第二次福岡教区巡礼団に対する教皇パウロ六世のおことば

日本から最愛の子等、娘等をここに歓迎することはうれしいことです。福岡の皆さんにお目にかかるのを、本当によろこばしく思います。皆さんは、教区の創立五十周年を記念して、ローマに来られました。この巡礼が、皆さんにとって、キリスト教的生活の新しい活力と誠意の機会となるように希望します。「よりよくキリストを知り、よりよくキリストを知らせる」皆さんの記念の年の目標を、皆さんが実現につとめて下さることを信じて、私たちはこの事を期待いたします。皆さんの中で福音を知らせ、皆さんの教会のいしずえを据えた宣教師方に賞賛をささげます。そして私たちは、「成長を与え給う神」(コリント前三、七)に感謝しなければなりません。今日私たちは、皆さんのキリスト教的模範と、誠意ある奉仕の中で、皆さんが耐えつづけることをお祈りいたします。このようにして、皆様の同胞は、皆様のよい業を見て、天に在すわれらの父を賛美するようになるでしょう。(マテオ五、一六)

キリストの平和と喜びを呼び求めつつ、皆さん全部の方々に、使徒的祝福を与えます。

昭和五十二年八月三日
カステルガンドルフォにて

(微光)

ナザレの北東七マイルの谷間に、カナという町がある。ご周知のとおりイエズスが、水をブドウ酒に変えた、最初の奇跡の町である。バスをおりて、なだらかな坂道を五分ほど進むと、教会に着く。

教会前に、みすぼらしい土産品店があって、もの好きな観光客を待っている。陳列品のなかに、「カナの酒」を発見した。読者に、左党と判断されても、致し方あるまい。二合入り(?)ブドウ酒が、一ドルだと話しかけてくる。余り高くないので、だまされたつもりで買ってみた。結構いける味であった。同行の一人がカナの酒は、水が原料だから廉価なのだと半畳を入れて一同を笑わせた。

貧者に福音、これは救主のしるしである。(ルカ4の18)キリストの母の使命に生きるマリアは、貧者の友であり、喜びとなった。「彼等に酒なし」。貧しく生まれ貧しく育ち、貧しく死んだマリアには、貧者の心が、痛いほど理解できたであろう。貧しく、奉仕する教会は、キリストの再現、マリアの心である。

今日のカナの町には、未だに、キリスト時代の貧しさが、泌みこんでいる気がしてならない。

豊かさの中に生きているわたしたちは、天に向って「彼等に酒なし」と叫ぶだけでなく、行動をおこすべきではなかろうか。カナの町のイメージの中に、ベトナム難民が、二重写しに見えてくる。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

社長 カシミロ・塩田五郎

福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)

TEL 代表 092 (521)—8266—7

福岡教区創立50周年

記念ミサ 11月6日(日)

福岡市泰星高校体育館で
午前 11時 集合

福岡小神学校45年の歩み

種子は、蒔かれて、すぐ生え出たけれど、

動物園行きのバスに乗ると、終点動物園の一つ手前に、教会前バス停に下車できる。その北西前方指呼の間に、十字架の尖塔の浄水通カトリック教会が見える。これに隣接して、緑の楠の大樹に寄りそっている新旧二棟の建物、これが福岡小神学校である。中でも、鉄筋四階建188坪の白亜の学舎は、十年の風雪にたえて、威風堂々と、周囲の人家をへいげいしているかのようである。

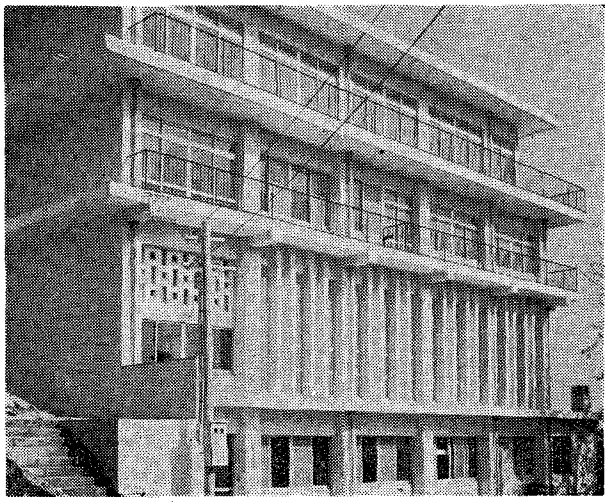
かえりみると、昭和の激動期、とりわけ、大東亜戦争をはさんだ時局の激流は、神学校を壊滅一歩手前に押し流したほどであった。

神のお恵みのもと、九死に一生を得た神学校は、ことし45年の歴史を綴ることになる。

昭和二年七月十六日、ローマ聖庁は、その数ケ月前、九州一円の司牧に当っていた長崎教区から分割して、鹿児島教区を新設したが、再び福岡教区を分離独立させることに決定した。十二月十一日、初代司教に祝聖されたチリ師は、邦人司祭が働いていない福岡教区の最大、緊急の事業として、邦人司祭養成の神学校設立を計画したのである。まず敷地として、福岡市薬院十ケ浦686番地（現、御所ケ谷一番地）を購入した。その傍ら神学生を熱心に募集して、長崎及び東京の神学校に委託したが、志半ばにして、久留米において病没。昭和五年五月十日の出来事であった。

翌六年九月二十九日、新生教区のこの悲しみをのりこえて、二代目福岡司教に叙階されたブルトン師は、荒戸町司教館に居住して、先任司教の遺志の実現のために奔走したのである。当時の記録によると、教区信徒数七九一二名、神学生二十九名とあり、今昔の感を深くする。ただここで注目すべきことは、信徒数に比して、神学生がきわめて多いことである。これは、歴代の司教、司祭が、神学生養成に如何に熱心であったかを物語るものであろう。

「教区の手で、教区の神学校で、司祭を！」強烈な祈りは、天に聞きとどけられた。昭和七年四月十一日、教区は、大名町天主公教会の伝道館に、福岡公教神学校を開設、画期的司祭養成事業に邁進したのである。この神学校は、通称「ゲブリアン小神学校」と名付けられていたという。それは、昭和七年四月、来福したパリー外国宣教会総長ゲブリアン司教を記念したものと聞いている。わずかながら充実しはじめていた。ボア師を校長に、ブルトン司教、ドルエ師、ボンカズ師、ベノア師ほか一般教師四名の名前が録され、在校生十八名を数えている。



福岡小神学校新校舎

かくして、宿願の自前の神学校はできたが、仮住居の域を脱せず、教育環境など考慮するとき、満足できる状態ではなかった。完全さは、人間のはてしない野心であろうか。収容人員においても、パンク寸前の神学校は、先きに入手していた御所ケ谷一番地に、思い切って新校舎を竣工させ、移転することになった。六ケ月そこそこの神学校は、文字どおり心気一転、新天地に装いを新たにして再出発し、その名も「カトリック学院」と改めた。十月十五日のことである。翌日祝別式、華々しくオープンした。ところが、神の計らいははかり難いものがある。せっかく苦心惨胆して完成入居した校舎は、昭和八年三月二十三日、敷地もふくめて、サン・モール会新設の福岡女子商業学校（福岡雙葉学園の前身）に売却、そのために、四月より、神学生は、大名町の古巣に戻り、ひとときの神学校生活をつづける破目になった。しかしこのさすらいの生活は、希望にみちたものだった。教区は、別の豊かな土地に、新校舎を建設中だったからである。六月六日、平尾杉谷八二一番地(今の山荘通り)に校舎完成、三十六名の神学生は、ボア校長、ブルトン司教、ボンカズ師ほか五名の一般教師の温かいくんとうに与かることになった。十月には、二名のスルピス会員即ちレゼー師（後モントレアル大司教枢機卿）とプレボ師がカナダより来朝、福岡司教館に逗留して、上級神学校の創立準備に入る。昭和九年一月、浄水通三十九番地に、司教館が新築落成し、荒戸町より移転した。四月十二日、四年程度の各種学校の認可をうけた神学校は、「平尾学院」と改称、質量ともに発展の一途をたどる。ボア校長を中心に、ボンカズ師、ベノア師、来日半年足らずのプレボ師、ベニエ師に一般教師六名が、七十七名（福岡教区五十名その他）の生徒の指導にあたった。十一月十五日には、学則改正により五年制の学校に昇格した。昭和十年五月二十日、神学校の霊的生活のセンターである聖堂が完成、ついで、十二月二十一日、講堂兼雨天体操場が落成して面目を一新したのである。この年、記憶すべきビッグニュースは、久しく待望された教区邦人司祭の第一号平田惣五郎師が、九月六日ローマより帰朝し、教師陣の仲間入りをしたことであろう。ボア校長、ベノア師、プレボ師、ボンカズ師は常連であった。昭和十一年一月二十八日付の中学校認可に伴い、三月四日、「泰星中学」と名儀変更して発足した。二年前、平尾学院と改称した頃より、生徒数は躍進して八十名前後となり、その$\frac{1}{3}$を教区外の神学生が占めることになった。

（つづく）

広報献金

大名町	37,112	馬渡島	9,000	直方	4,600
浄水通	7,936	唐津	5,000	飯塚	6,290
東田島	15,000	呼子		田川	5,920
箱崎	7,000	佐賀		行橋	10,620
西新	15,000	伊万里		手取	19,000
吉塚	13,935	武雄		荒尾	5,000
大楠	13,200	鳥栖		人吉	15,500
茶山	8,500	鹿島		健軍	10,000
光ケ丘	13,786	多久		本渡	6,500
美野島	10,000	門司	23,000	帯山	15,000
高宮		門司港	7,100	水俣	7,500
老司	15,000	小倉	45,095	大江	22,066
古賀	10,572	湯川	28,772	島崎	22,000
二日市	11,000	新田原	53,620	玉名	14,500
久留米	22,240	戸畑	28,570	菊池	
吉野	1,876	若松	10,000	崎津	23,500
今村	99,000	天神町	33,000	八代	10,750
小郡	5,835	八王寺	4,900		
本郷	17,000	黒崎	15,000	合計	800,690
大牟田	7,895	水巻	7,000		

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092（291）3231番

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL 531—3831
夜間 521—0820

熊本少年少女錬成会

金峰山の大自然の中で

八月十一日から十三日にかけて熊本少年少女錬成会が、金峰山市立少年自然の家で行なわれた。県内より参加した一四〇名の男女生徒（小学四年生より中学三年生）は、指導神父竹森師をはじめ九名のフランシスケン、シスター及び四名の大神学生の協力を得て「大自然の中で一つになろう神の家族」をスローガンに有意義な三日間を過した。これは熊本地区の年中行事の一つで、熊本県信徒使徒職協議会の肝入りで開かれたものである。宗教への関心がうすれつつある現代社会、家庭において、少年たちの心に、信仰を芽生えさせることは容易なことではない。一つの信仰共同体の輪の中でよく遊び、よく食べ、よく祈ることが、少年たちにとって如何に大切か考えてみる必要がある。

平田司教は、錬成会の中日に訪づれ、関係者をねぎらい、学童たちを激励した。この錬成会の成果が、明日の生活に生かされ、すくすくと成長することを祈るものである。この種の催しは、多くの信徒に渇望されているが、実践面でたびたび障害に出あう。修道女会の手厚い援助、協力はその解決策の一つとみることができよう。

熊本地区は、一つの共同体としての活動において、見るべきものが少なからずあり、これはその一例にすぎない。福音宣教活動において、傍観者ではないのである。

錬成会参加の子供たち

聖ペトロの献金

大名町	39,370	大牟田		崎巻方	15,000
浄水通	4,622	馬渡島	10,500	塚川	10,000
東田	15,000	唐津	5,000	橋取	
箱崎	7,000	呼子		尾吉軍	9,000
西新塚	8,100	佐賀里	10,000	渡山	4,400
吉大楠山	22,000	伊万里		侯江	13,927
大茶丘	5,070	武雄	2,000	崎名	25,747
光ケ丘	7,600	鳥栖	9,250	池津	6,000
美野島	10,845	鹿島	1,000	代計	7,100
高宮	10,000	多久	2,781	黒水	10,000
老司	30,000	門司港	21,100	直飯	9,000
古賀	12,000	門司		田行	10,000
二日市		小倉	67,003	手荒	9,600
久留米	25,000	湯田	20,000	人健	13,000
吉野ケ里	16,000	新原	42,820	本帯	21,500
今村	1,135	戸畑	28,610	水大	10,500
小郡	61,000	若松	10,000	島玉	32,000
本郷	4,036	天神町	12,400	菊崎	8,540
	15,000	八王寺	6,685	八合	10,000
					768,241

福岡教区 保育研修会

カトリック福岡司教区幼児教育連盟は傘下五八の幼稚園、保育園の教師研修会を、八月二三日から二泊三日の日程で、山口県豊北町滝部の西長門リゾートホテルでおこなった。

二年前のテーマをふまえて「喜びに生きる」（カトリック施設に於ける教師像）をテーマとして、講師に松平修身先生をむかえ、平田司教をふくむ二百九十名の熱気をふくんだ教師研修会となった。新装なったホテルのたたずまいのためかおりからの台風くずれの悪天候もテーマに打込む会員の気にならなかった程である。

よき講師を得て、教区カトリック教育施設の体質の見直しと将来への善戦を胸中に収めて二五日午後各自任地に散って行った。

羊飼の牧場

自信を持とう

青木保神父

テルアビブ空港で、イスラエルの年配の夫婦に出会った。二人はパリー経由、ニューヨークへ旅行する計画である。

話によれば、主人は37年間イスラエルのキブツで働き、いま、休暇でアメリカに旅立っているという。彼は、私たちが聖地へ巡礼していることを聞いて、キブツを見に行ったか、何故見に行かないか、是非見て帰れとしきりに口にした。話すかれの顔は、多年無報酬で、イスラエル国家の建設に献身したことを自からの誇りとしているように伺がえたし、喜びと誇りとが顔面に漂って、語る言葉がはずんでいた。

彼らにとっては、イスラエル国家の建設という大願望が、縁もゆかりもない東洋の我々にさえもひびき、またひしひしと迫る言葉となって現われた。

栄光の国家建設の中核とも云うべき「キブツを見たか！なぜ見ないか！是非見て帰れ！」の言葉を聞きながら、神の国の建設に献身するといっているわたしたちキリスト信者が、いかにもひよわで、自信も熱意もないことを感じ、恥じざるを得なかった。

（大名町教会主任）

「移住の日」献金について

例年の全国的特別献金の一つである「移住の日」献金は、九月千一日になっている。国の内外を問わず、移住者の実態に温かい目を注ぎ、祈り、犠牲などとともに、心のこもった「寡婦の献金」をしよう。

会合と催し

◎平田司教
9月3日 泰星寮落成式
15日 ドルエ神父90才記念集会
18日 玉名教会堅信式
23日 深堀新司教祝聖式（高松司教座聖堂）
25日 古賀教会堅信式

◎黙想の家
9月1日―3日 海星女子学園高校生黙想会
6日―7日 韓国婦人黙想会
17日―18日 ルーテル教会祈りの会

◎その他
9月4日 教区創立50周年記念行事実行委員会於司教館13時
10月10日―15日 福岡教区邦人司祭黙想会

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52―3306
52―8622

保険に加入して車の運転を致しましょう。
大石保険事務所
大石真澄
福岡市中央区天神2丁目13番7号（長銀ビル5階）
AIU㈱福岡支店内
〒810 TEL771―4761

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目 外国産石材輸入加工販売／大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21℡52-2417
工場熊本市花園町41 TEL56―0170
（夜間）64―6781

「聖地巡礼に参加して」

佐藤平治郎

平田司教様を団長とする三十八名の福岡教区聖地巡礼団は、神様の御恵みと皆様のお祈りのおかげをもちまして、七月二十三日から二週間の全日程を完全に済ませ、八月六日全員無事帰福いたしました。私にとりましては、始めての海外旅行であり、何事も珍らしく、特に二千年前イエズス様が歩かれた道を歩くのですから、毎日々々が感激の連続でしたが、順を追って特に感じました事を簡単にのべてみたいと思います。聖地第一日目は、テルアビブからバスで夕方近くナザレに着きました。受胎告知の場所が、そのまま地下二階のうす暗い中に保存されており、神秘的な雰囲気が漂っていました。救世の玄義のはじまりを思い初めての感動をおぼえました。すぐ上の聖家族の教会でミサが捧げられ、自分の家族職場や教会家族のためにと皆熱心に祈りました。次の日ガリラヤ湖を船でカペナウムに渡り、イエズス様が説教をされたシナゴク(会堂)跡やペトロの家の跡などを見学し、近くの真福八端教会で二日目のミサが捧げられ、一同声を合せて「幸なるかな…」の聖歌をうたいました。近くの漁どりの教会では二千年前の魚や鳥のモザイクの床が残っています。美しいガリラヤ湖の青い水、周囲のなだらかな緑の丘を眺めていると、弟子を連れて教えを説かれるイエズス様が目に浮び、聖書の事柄はほんとうに時と場所を持った歴史的事実だなあと今更ら感慨にひたりました。次の日は、御変容のタボール山を西に見てサマリヤの丘々を越え、ヤコボの井戸で渇をいやし、やがてオリーブ山の一角からエルサレムを望んだ時の感激も忘れることが出来ません。曇り空の下に静かに横たわるエルサレム、いよいよエルサレムに来たという感じと、今からイエズス様の御受難の都に入るのだという感じで胸が一杯でした。丘を下りゲッセマネの教会に着きミサ後千年の齢を保つオリーブの古木に往時をしのびました。聖地での最大の感動は翌日の十字架の道行きでした。

死刑の宣告を受けられた教会でフランシスコ会の神父様から木の十字架が渡されると、私達は交代で前と後に二人で担いでヴィアドロローザ(十字架の道)をたどり始めました。妙な匂いのするアラブ人の下町で道幅は二間位しかないでしょう。周囲はアラブ人の冷い目が見つめているようでしたが、イエズス様の心と一致したいと必死に祈りをこめ聖歌をうたって進んでいきます。第四留「イエズス聖母にあい給う」ではマリヤ様のご心痛いかばかりかと涙が溢れました。第十留以後は大きな聖墳墓教会の中にあります。ゴルゴタの丘の十字架の穴の跡、塗油がなされた大岩、聖墳墓のでのミサにあずかり、午後九時からのローソク行列に参加いたしました。丁度雨も上り黒い人白い人何万と思われる人々がアベマリヤの大合唱をとなえながら光の列になっていき、広い教会前広場を一巡いたします。すれちがう人々の信頼のまなざし、誰にでも話しかけたいような気持で一杯です。この感動は皆一生涯忘れることが出来ないでしょう。

その後ベトレヘムの御降誕の教会、洗者聖ヨハネの教会、ベタニヤ、エリコ、死海と回り聖地をあとにしました。フランスでは不思議のメダイ教会、ノートルダム寺院、ルーブル博物館、リジューの聖テレジヤ教会と生家、ステンドグラスの綺麗なシャトルの大聖堂と回りましたが、フランスではルルドでの感激を忘れることが出来ません。夕方到着と同時に大聖堂でのミサにあずかり、午後九時からのローソク行列に参加いたしました。丁度雨も上り黒い人白い人何万と思われる人々がアベマリヤの大合唱をとなえながら光の列になっていき、広い教会前広場を一巡いたします。すれちがう人々の信頼のまなざし、誰にでも話しかけたいような気持で一杯です。この感動は皆一生涯忘れることが出来ないでしょう。

パパ様と巡礼団

その後ベトレヘムの御降誕の教会、洗者聖ヨハネの教会、ベタニヤ、エリコ、死海と回り聖地をあとにしました。フランスでは不思議のメダイ教会、ノートルダム寺院、ルーブル博物館、リジューの聖テレジヤ教会と生家、ステンドグラスの綺麗なシャトルの大聖堂と回りましたが、フランスではルーマへと空路、夕陽に映えたアルプスを眼下に見て夕刻ローマに着き、翌日はカタコンベ、聖ヨハネス教会、サンタマリヤ、マジョレ教会、パンテオン、サンピエトロ大聖堂と回りました。大聖堂はさすがに大きく荘厳で、力づよく歴史と信仰の偉大さに圧倒される思いがいたしました。すぐ横のバチカン博物館のラファエルやミケランゼロの人間技とも思えぬ大作に聖霊の御働きの偉大さを見ました。翌日は教皇様にお会いするためにローマの南二十粁にあるカステル、ガンドルフに参りました。何万人という人々の間を縫って、私達だけが、司教様の御配慮のお蔭で、宮殿の特別謁見室に上って行きました。教皇様は威厳のある中にもニコニコと大変慈愛に満ちた目を向けて下さり、メッセイジを賜わった後、写真に一緒に入って下さるなど、ほんとうに有難さ勿体なさで一同大いに感謝と感激にひたりました。アシジまで往復四百粁の道をドライブしましたが、聖フランシスコ教会でごミサ、聖クララ教会を訪問し、被造物を通じて神の偉大さを讃えた聖人の遺徳をしのびジョットの壁画に感嘆したりいたしました。その翌日は聖パウロ大聖堂でパウロの墓前にごミサにあずかり、これを最後にローマの空港に向い北極回りの帰路につきました。

いたらない私共がこのような感動に満ちた有意義な巡礼をすることが出来ましたのは、司教様の詳しい説明や並々ならぬ御配慮、皆様のお祈りと、旅行社の好意に満ちた協力によるものと深く感謝いたしております。また最後に、イエズス様は「見ずして信ずるものは幸なり」といわれましたが、皆様も機会がありましたら聖地の巡礼に行かれることを心よりおすすめいたしたいと思います。

(福岡雙葉学園高校教諭)

神学講座のお知らせ

福岡教区主催の神学講座(第二学期)は、九月二十日から、福岡市中央区御所谷一福岡雙葉学園附属小学校において、毎週火曜日午後六時より八時二十分まで開かれる。今回から、講座の場所、時間に変動があるので、注意を乞う。

編集室より

長期間、教区報「カトリック」の編集業務を担当し、紙面の充実と教区の発展向上に寄与された深堀敏師は、教皇パウロ六世によって、高松教区の司教に任命され、近々赴任することになりました。ここにお祝いと御活躍を祈るとともに、多年に及ぶご指導とご協力を感謝いたします。後任として、不肖山田成章が、浅学非才の身をかえりみず、神への信頼と司教への従順をもって、引き継ぐことになりました。教区報が、司教とみなさまの友情のかけ橋であることを念願しつつ、報告かたがたご指導、ご鞭撻を伏してお願いする次第です。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長 菅 種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四角 TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

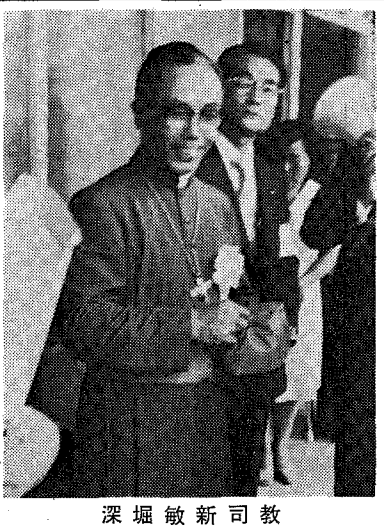
共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方 法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者・匿名五千円

四国路に輝やく盛典

深堀新司教祝聖式

南国の空に照りつける太陽は、秋とはほど遠い暑さであった。9月23日午後1時から高松市桜町司教座聖堂でヨゼフ深堀敏師の司教祝聖式が行なわれた。定刻少しおくれて、約100m離れた高松会館から60余名の二列縦隊の司祭団の入堂が始まる。さほど広くもない聖堂は立錐の余地がない程人また人に埋められていた。「よろこびに」詩編122の入祭の歌に整然とミサは進む。やがて主司式者田口枢機卿の朗々たる集会祈願の声がひびき渡る。「主よ、あなたは御自分の羊の群れを牧するよう、ご自分のしもべヨゼフ深堀敏を、その導き手とされました。このしもべに賢明と剛毅…」。みことばの朗読の後田中京都司教は、説教において一年前の自分の立場を回顧しながら司教職の重さ、高松教区の沿革を縷々紹介してから新司教の紋章のモットーにふれた。「真理のことば」これは我々の信仰の要約である。これを旗じるしに教区民が新司教と一体となって教区の発展に精出して欲しいと訴えた。いよいよ祝聖式の本番である。「みたまよきたりて」の賛歌があって、司教任命書朗読、決意の確認と続く。諸聖人の連願が終った後主司式司教と司教たちは被選司教に按手を与えた。その後主司式司教は福音書を開いて被選司教の頭にのせ祝聖の祈りを司教一同と交互にささげる。被選司教の頭に塗油、指環、牧杖が手渡されて新司教が誕生した。感謝の祭儀が新司教を中心にとどこおりなく終り、最後に新司教の祝福「神よ、…司牧の位に高められたわたしが、務めを完全に果すことが出来ますように…、そして全能の神父と子と聖霊が…」。2時間に及ぶ盛儀であった。



深堀敏新司教

8月30日、正午から福岡司教館において約60名の教区司祭出席の下に深堀被選司教のお別れ会が開かれた。冒頭平田司教は大要次のような感謝の挨拶をした。「現在の私どもの心境は喜びと悲しみが混淆している。小教区を統制できる司教が福岡教区より誕生したことは喜ばしいことだが、教区の一本柱が奪われた悲しみと不安は大きい。でも教皇パウロ六世が選んだ新司教を喜んでお送りする。また心より感謝をささげたいと思う。長年司教秘書として、又教区報の編集やクルシリオの指導司祭、泰星高校の理事（副校長）、大神学院の講師など多方面の活躍協力によって教区に大貢献をした。司教団としても有力なメンバーを得ることは力強い大きな喜びである」と。更に語をついで、ルルドの洞窟のミサ前にその任命を知って深堀被選司教のためにミサをささげたことや教皇謁見の際の秘話を披露し、また霊的援助（祈り）を送ると約束して話を結んだ。ついで深堀被選司教が立ち「身に余るおことばをいただいて恐縮している。九州を離れることは悲しいことだが、神の聖旨におまかせし、皆様や新任地の人々の温かい心に期待して頑張りたい。今後とも叱咤激励をお願いしたい。教区50周年が躍進の時であるように新任地より祈る」とお礼のことばを述べ、会食の後万才三唱をもって散会した。

格段の理解と協力を

第7回実行委員会

教区創立50周年記念行事第7回実行委員会は、9月4日午後1時から司教館において、平田司教をはじめ伊東、青木、山田の諸師及び信徒委員14名出席のもとに開かれて、つぎのことを審議決定した。❶各地区の分担金に赤字が出ないように、更に各小教区の理解と協力を要請する。❷各地区委員は、各地区の分担金を9月末までに取りまとめて夫々別記預金口座に振り込むよう手配する。但し福岡地区は各小教区よりの直接振込みとする。振り込みが間に合わない場合は、その見込額を会計に連絡していただく。❸実行委員会の全体会議は今回をもって打ち切り、典礼、案内、会場等各係りの具体的企画の詰めの作業に移行する。

別記（口座番号）
福岡銀行本店
普通預金一〇九一三四一、
福岡教区創立50周年記念行事実行委員会 会計 山田成章

「布教の日」献金

来る10月23日は、全世界の教会が一致して福音宣教のために特別に祈りと犠牲、献金をささげる「布教の日」に当っている。

お別れパーティ

福岡教区主催

（微光）

ローマの南東25kmにあるカステルガンドルフォは、アルバノ湖を見下す景勝地である。また丘の中腹に、パパさまの夏の別荘が建っている。きょうは特別謁見を許された日で、六根清浄、わくわくした気持で出かけた。広場の数千の群衆をかき分けて、通されたのは2階の控への間であった。待つこと一時間余、謁見の間に案内されてパパさまのお出ましをうけたのである。歓迎とはげましの短かいスピーチの後で、握手をいただいた。パパさまの手！幼な児の柔肌を感じさせる手から温かいものが伝わってくる。まさに天国代表の手である。「あなたはペトロである。私はこの岩の上に私の教会をたてよう。あなたが地上でとくものはみな、天でもとかれるだろう」（マテオ16の19。聖ペトロの二六三代目の手をしっかり握りながら、よろしくお願いしますと胸裡にささやいた。この世で臆な天国であっても、今パパさまの手のぬくもりが、わたしの心に天国を写し出してくれたような気がする。天国の実在の信仰とパパさまへの信頼は同根ではなかろうか。物質文明、科学万能主義が蟻地獄のように「永遠への道」を破壊していても、逆説の論理に立つ人間社会は、競って永遠を信ずるための印しを求めているに違いない。あなたの手のぬくもりを隣人に感じさせなければならない。クールなキリスト教徒は過去のものにして、笑顔のあなたが語りかける時であると思う。そこにはキリストがいる。

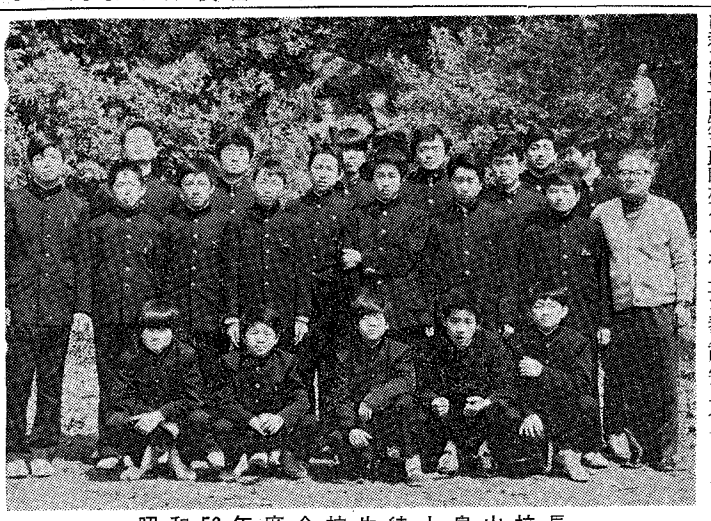
事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

男子青年のための祈りによる
個人指導黙想会
とき、11月3日夕—6日昼
ところ、福岡黙想の家
福岡市西区片江148
指導、御受難会士
費用、3泊9食 6,500円
お申し込み、黙想の家
（092）871—7108
福大前下車、徒歩10分

福岡小神学校45年の歩み(2)

種子はまかれて、すぐ生え出たけれど

7月21日、カナダから帰国していた助祭深堀仙右衛門師、平田好師が晴れの司祭叙階式をうけて、教区は邦人司祭の第2陣の誕生で喜びに沸きかえったのであった。12月、5カ年在職したボア校長は辞任して、大名町カトリック教会の司牧に専念した。風雪急を告げていた昭和12年3月24日、ボンカズ師、プレボ師、平田惣五郎師と一般教師10名は、泰星中学の新校長にベノア師を迎えて協力することになった。4月、司祭館に待機していたレゼー師は、その後来日したスルピス会員ツルデル師と連れ立って、大牟田市曙町に哲学科神学校を創設、5名の神学生の教育指導に従事した。牧山藤房師、糸永武男師は当時の仲間である。7月、小神学校は日支事変の火蓋が切られてから、精神的にまた経済的に重苦しさを感じはじめていた。9月、平田勇師が司祭に叙階されて、ベノア校長やプレボ師それに8名の一般教師に加わって84名の生徒の面倒をみることになった。特に、かれの経済的活動は目をみはるものがあって、時局軍大の折、神が恵まれた偉大なタレントの一つとして記憶すべきであろう。13年、大牟田市から福岡司教館附属司祭館に移転した哲学科神学校は、布教聖者の認可をうけて前途に大きな光明を見出していた。この聖なる共同体には、レゼー師やオーブリ師とツルデル師また学生16名が祈りかつ学んでいたが、年内に大濠町49番地に引越したようであった。この頃から、泰星中学の生徒にやや国際色がみえはじめて、ハワイ、台湾、朝鮮、南洋諸区の出身者で賑やかになった。11月、ベノア校長はフランスに帰国することになり、レウトル師が校長代理として着任した。14年、戦局はますます緊迫不自由の度合を深めて校内にもその影を落としていた。103名の生徒に対して、指導者としてレウトル校長、プレボ師、平田勇師、大濠の哲学科神学校から通勤のツルデル師の姿がみえていた。一般教師は9名だった。4月10日、哲学科神学校では、レゼー校長がカナダのスルピス会の特命をうけて離日、その後任にロビヤル校長を迎えた。またオーブリ師やツルデル師、長崎教区の岳野師が協力者として、17名の学生をかかえていた。9月8日、レウトル師は欧洲動乱に応召したので、深堀仙右衛門師が校長代理をつとめたが、12月14日、正式に校長の椅子についた。15年12月、カナダ帰りの伊東師は、泰星中学に旅装を解き、生徒指導の一翼を担うこととなった。16年3月16日、日米関係は悪化の一途をたどり、全国津々浦々に外人排斥の声が日毎に大きくなる中で、深堀(仙)師は校長兼務の福岡教区主務管理者に任命されたのである。ところが7月、伊東師は宗教宣撫工作隊員としてフイリッピンへ出征したが、翌月、平田勇師も馬渡島教会に赴任、手薄となった教師陣に新たに平田惣五郎師が加えられに突入、プレボ師をはじめ外人教師の受難、抑留がはじまった。17年半ば、深堀校長が宗教宣撫活動のためグアム島に徴用されたので、平田惣五郎師が、教区長代行、校長代理として教区の一般行政や学務を兼ね、木村師の加勢をうけたようであった。18年1月、フイリッピンから帰還した伊東師は再び泰星中学に戻り、7月には今村教会へ転任している。8月、グアム島での任務を無事に果たした深堀(仙)師は、校長に返り咲き、平田惣五郎師や9月から着任した糸永一師と心を一つにして、難局の学校運営に当った。他方、12名の哲学科神学校は相次ぐ徴用や応召のためにじり貧状態となり、12月、一時閉鎖の止むなきに至ったのであった。その上、外人教師を奪われ孤軍奮斗だった平田三郎師も、泰星中学のお手伝いをする身となってしまった。19年、泰星中学は軍命令により、校舎を拓殖大学に転用されたために、浄水通38番地現在の小神学校旧校舎に移転した。5月28日、簡素のうちにも厳粛な深堀(仙)師の福岡司教祝聖式の盛典を見、苦しむ兄たちも喜びと希望を分け合うことができたのである。8月、平田惣五郎師が熊本市手取教会の主任に就き、神学生の指導は平田三郎師、糸永一師に托されることになった。数年来、戦況に関して高らかに報道してきた大本営の声は、ここにきて弱まるばかりで敗戦濃厚であることがうかがえた。昭和20年、神学校の受難はつづく。小神学校の旧校舎は軍施設に没収されたので、司教館附属司祭館に移転した。当時の小神学校は、勤労奉仕の明け暮れで、疲労と空腹、時間不足で勉強どころではなかったらしい。ねぐらにすぎなかったといえば、それは誇張だろうか。4月、牧山藤房師が司祭の聖位にあげられて、小神学校の糸永一師の補佐となった。かれの空襲下の叙階式は、式中恐怖と混乱のうちにたびたび避難を重ね、忘れ得ぬものであったと耳にしている。8月15日、日本の敗戦は国を挙げての飢餓状態をつくり、国民の心と体を蝕ばんだ。虚脱と飢えと混乱の中で、新生日本の手さぐりが開始された。21年、泰星中学は小神学校と袂を分かち、一般に解放される学校に転身、2月23日、「泰星中学校」設置認可をとりつけて生徒募集にふみきった。9月25日、マリア会の堤清三修士が校長となり、福岡教区の手を離れてマリア会の責任に移ることになった。福岡小神学校は、旧泰星中学校舎の一部を借用して出直す。22年、小神学校は、泰星中学校の生徒増加とともに住み馴れた校舎を明け渡し、その近くにカウンセット、ハウスを建てて移り住んだ。9月、戦時中から戦後にかけて長年生徒と苦楽を共にしてきた糸永一師が今村教会主任となって去り、平田勇師の時代が訪れることになった。かれは旧泰星中学聖堂の2階に陣取り、新時代の小神学生育成に八面六臂の活躍を見せることとなった。



昭和52年度全校生徒と畠山校長

「神との語らい」の集い

北九州市戸畑区のコンクレガシオン・ド・ノートルダムは、左記の要領でヤング信者女性の集いを計画している。

記

テーマ、「キリストと出会う」
指導司祭、伊藤隆神父、
日時、11月13日(日)
午前9時受付―4時まで、
場所、〒804北九州市戸畑区仙水町5―2、ノートルダム修道院
電〇九三―八八一―二八六一
会費、五〇〇円、11月3日までに電話または葉書で可。

信託併営
大和銀行
福岡支店
福岡市博多区店屋町6番18号
電話 代表 092 (291) 3231番

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771 ― 3657

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL 531―3831
夜 間 521―0820

ロザリオに対する聖座の関心と評価
（マリアリス・クルトウスより抜萃）(1)

尊敬すべき兄弟達よ、これからしばらく、会福音の要約とよばれる祈り、聖母のロザリオの刷新について話しましょう。

私の先任者である歴代教皇達は、ロザリオの祈りを推奨するに当って大きな関心を示し、並々ならぬ努力を払いました。くりかえしてキリスト信者にロザリオを頻繁に唱えるよう勧め、それを広めるように勧告し、その特性を説き明かし、懇願する者の祈りであるだけでなく賛美する者のものであるこの祈りが観想的祈りを養うにも適していることを教え、キリスト教的生活を高め、人々を救うために重大な祈りとして称揚しました。私自身も最初の一般謁見の時、どれほどロザリオを評価しているかを公に言いましたし、その後も機会ある毎に、何回となくその重要性を説明しました。特に、悲しむべくも重大な危機がせまっていた時、「クリスティ、マートリ」という回勅を出して、平和と言う大きな恵みを神からいただくために、ロザリオの聖母に謙った祈りをささげるよう訴えました。その後「レクレンス、メンシス、オクトベル」という勧告によって、ピオ5世教皇がロザリオの祈りを説明しその形式を定めて今日にまで伝えた教皇書簡「コンスエヴェルント、ロマニ、ポンティフィチェス」の四百周年を記念しました。

このように私にとって非常に大切なものであるロザリオを尚盛んにしようと思っていますので、私は、近年行なわれた多くの会合において、現代におけるロザリオの司牧的価値について討議され提案された事柄に特に注目したいのです。実例をあげるならば、これらの研究の結果として、まずロザリオの福音的性格が明らかにされた事であります。ロザリオの玄義と祈禱文の主な部分は、福音からとったものです。又天使の喜ばしいあいさつとマリアのうやうやしい同意を思い起させて信者にロザリオの敬謙な唱え方の模範としています。更に天使祝詞のくりかえしは、天使がマリアへの告知を行なったあの重大な瞬間を熟考させて、み言葉の受肉という、福音の最大の秘義の一つを強調してくれるのです。ですから、ロザリオは「福音的な祈り」です。現代の司牧者や専門家たちはロザリオを、過去には余り用いられなかったこの名称で呼ぶようになりました。

このように、福音に基礎をおき、受肉の秘義と人類のあがないを中心にしているロザリオは、全くキリスト論的志向をもった祈りと言うべきです。その特徴である天使祝詞の連禱のような反覆はキリストへの絶え間ない賛美になります。天使の告げも、洗者ヨハネの母の「あなたのご胎の子も祝されたお方」というあいさつも、最後の到達点としてキリストに向うのですから。それだけでなく、アヴェ、マリアという対をなす言葉は、玄義の黙想の流れを支える一役を果します。（つづく）

会合と催し

◎ 平田司教
10月2日 青年ソフトボール大会
3日 カリタス会創立40周年記念
5日 共同訳実行委員会
10日―15日 邦人司祭黙想会
16日 訪問会永久誓願式
23日 吉塚教会堅信式今村教会聖体行列
25日 神学講座
30日 納骨堂ミサ
31日 アジア神学校会議
◎ 福岡黙想の家
10月10日―15日 教区邦人司祭黙想会
16日―25日 訪問会研修会
25日―28日 アウグスチノ会研修会

祈禱の使徒会の意向

一般、布教精神の促進。
布教、教皇庁立の布教援助事業団への協力

10月はロザリオの月であるが、また布教について黙想し実践する月でもある。神の民は宣教者であることを忘れてならない。

羊飼いの牧場
一つの現実の彼方に

川口康頼神父

先日、いまはりっぱな青年司祭に成長したF師と懐古談を交わしたとき、かれの心に生々しく刻みこまれた一つの体験を聞いた。

それは戦後のきびしい食糧難のときであった。彼が属する修道会神学校も例外ではなく来日後日もまだ浅い外国人院長にとって、十数名の少年神学生の毎日の食糧を確保することは耐えがたいほどの重荷であった。ある日、ついに食糧倉庫が空になってしまったのである。司祭の卵、神学生の巣立ちを最大の喜びに感じて、この危機をのりこえるべくあらゆる手段をつくしたにもかかわらず、あすのための食糧補給のめどがたたなくなった院長は、自室でしずかに泣いていたのである。

また調理室でも、泣いているシスターの姿が少年神学生の目にとまったのである。

F師にとってこの少年時代の経験のひとこまは過去の一つの暗い出来事としてではなく、今日まで司祭の召命道を直進するための大きな力づけともなっているのだということを、たんたんと語る彼の目がおしえていた現代の物質文明の洪水の中に生きている少年神学生にこんなことでも話そうものなら、それは誇張された偉人伝でもきくときのように、まさかそんなことがありえようかといういぶかりのまなざしを向けるにちがいない。

当世、たとえそんな事実にであったとしてもどこまでそれをうけとめがんばってゆけるだろうかなどと、今様神学生論に花が咲き話をむすんだ。

わたしの司祭職への第一歩をふみだす先導役をした、今は亡きかってのフランス人主任司祭は来日以来一度も故国に帰ることもなく、福音の土着化を終生の業として五十年の牧者の使命を遂行し続けた。クリスマスの夜半のミサ中たおれ八十二歳の生涯をとじるまで、僻地の小教区の羊を守りとおしたのである。

その牧者にはぐくまれた羊の一頭がわたしであることをおもうとき、司祭職を凡庸に生きようとする誘いが心のすきまからはいろうとするとき、亡き師の面影は叱咤する現実の声のごとく心の奥底にこだまする。

事実の経験というものはその大小をとわず、どんなに人と深いかかわりをもつものだろうか。そして過去におけるすばらしい事実のかかわりあいは、たんなる一過性的なものとして軽率にとりあつかうことなく、大切にしなければならないとおもう。

神は可能性という抽象観念ではない。現実に存在し生きている方である。したがって神との

かかわりである信仰も、観念のあそびであってはならないはずである。むしろ生命の動きにも似た躍動があるべきだろう。

公会議前の信仰、公会議後の信仰などとあやしげなことをきくことがあるけれども、信仰が時の流れにコントロールされるものだろうか。難解な哲学、神学書から抽出されたクールな神ではなく、群がるこの人々の中に今日も生きつづける神とともにみ国の奉仕のためにはたらけるとは、最大の喜びだと思う。

（司教館教区会計）

聖体行列（予告）

10月23日午後1時30分から今村教会において、筑後地方の七教会と鳥栖教会の共同主催による聖体行列をおこなうことになった。その目的は、福岡教区創立50周年の目標である「キリストを知り、キリストを知らせよう」の高揚促進にある。各地の信徒の多数参加を希望している。

納骨堂ミサ

10月30日午後1時30分から、大橋カトリック納骨堂で平田司教司式の共同ミサがおこなわれる。

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52―3306
52―8622

保険に加入して車の運転を致しましょう。
大石保険事務所
大石真澄
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）
AIU㈱福岡支店内
〒810 TEL771―4761

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目 {外国産石材輸入加工販売 / 大理石・御影石・各種石材}
〒860熊本市段山本町2-21℡52-2417
工場熊本市花園町41 TEL56―0170
（夜間）64―6781

みことばと私

田町節子

幼い頃父が私のために選んでくれた学校が、カナダ系プロテスタントのミッションスクールだったことからいつとはなしに聖書に親しんでいたようです。

「聖書」と書いた金文字、ずしりとした重量感、中を開くと小さな字でいかめしく「汝、…なり」自分が急に偉くなったような気がして胸をふるわせたことが甘い感傷として思い出されます。

何才の頃だったかはっきり記憶しませんが、これが聖書と私の出会いでした。

小さい時から聖書に馴じんだのは良かったと思いますが、ちょっと困ることもできます。ミサのリフレット「聖書と典礼」の聖福音をちらっと見て、ああ、あそこか、と思ってしまうのです。そのいい例が放蕩息子のたとえ話で、しょっちゅう出てくるようだけれど一年に一回だろうか、説教はこの前と同じかなこの前はどんなお話だったかな、神父様方も大変だな、などと余計なことが頭に浮んできます。その日のお説教は、私たちは神様の姿を想像しようとしてもどう思い浮べたら良いのか分らないけれど、ここで神様はご自分をどんな方か教えて下さっていると言うテーマでいつものことながら考えさせられることの多いお説教でした。

この放蕩息子のたとえ話でいつも思い出すことがあります。まだ小さい頃、教えられたのか自分で思ったのか「このお父さまのように共にいられるお兄さんの幸せがどんなものか子供だった頃には考えも及びもしないことでした。

このように子供の頃の印象が強く残っていて、あまたかとすぐかたづけてしまいそうになりますので気を付けなければならないと思います。みことばは常にそれぞれの「時」に応じて導いてくださるのですから。

私の愛読の書の一つにカルロ・カレットの書いた本がありますがその中にパンと水と聖書だけを持って砂漠に行くところがあります。イエズスさまも時々ひとりで祈られたことを思いあわせ、カレットのように砂漠に行きましょうとても優しい大きな心で何でも許す人間にならなければいけないのですよ。愛はこういうものです」そして私は心の中で「立派なお父さまだなあー。それにひきかえ私の親は何ということでしょう。何かと言うとすぐ叱る。聖書を読んでみたら良いのに。悲しくなってしまう。イエス様、ごめんなさい、聖書を読んだことがないからでしょう」と辛らい親のために祈ったものです。

少し大きくなって反抗期になるとクラスメイト達と放蕩息子のお兄さんの方に同情し、「怒るのも無理ないわね、散々好きなことをしてそれでもこんなに可愛がってもらえるなら弟の方がとくよね」と話しあったりしました。放蕩息子の完全な痛悔といつも神さまと共にいられるお兄さんの幸せがどんなものか子供だった頃には考えも及びもしないことでした。

このように子供の頃の印象が強く残っていて、あまたかとすぐかたづけてしまいそうになりますので気を付けなければならないと思います。みことばは常にそれぞれの「時」に応じて導いてくださるのですから。

私の愛読の書の一つにカルロ・カレットの書いた本がありますがその中にパンと水と聖書だけを持って砂漠に行くところがあります。イエズスさまも時々ひとりで祈られたことを思いあわせ、カレットのように砂漠に行きましょうと力ッコいいことを言うつもりはないのですが、せめて日に三十分ぐらいは日常生活の中に砂漠をつくりみことばに耳を傾けようと試みたことがあります。しかし実際にはなかなか困難で続きませんでした。家庭の主婦の方にはお分りいただけると思いますが、お天気が良ければ洗濯を早くしたくなるし、午後になれば今夜の食事は何にしようか……など次々に何かでてきます。でもじっと30分坐っていなくても独りになる時間は以外と多いことに気が付きました。手仕事をしながら道を歩きながら、みことばに耳を傾けることが出来るのではないかと思います。

みことばは、つらい時悲しい時に慰め励してくださるだけではなくいつも絶えず語りかけ働きかけておられるのです。

（東田島教会主婦）

巡礼と聖ヨゼフ

床島藤吾

Yさま、残暑なおきびしきおりからお変りもご座いませんか、私、お蔭様で元気でおります。

私去る7月23日から8月6日までの福岡教区第2回聖地巡礼の旅に加えて頂き、イスラエル、フランス、イタリーと回って参りました。

その昔、イエズスさまが辿られたガリレヤ、サマリア、ユデアの聖跡を感激しながら黙想しながら巡礼した四日間、それからフランスではモンマルトルの丘、聖心の大聖堂に集った永久礼拝者の熱心な姿に引きつけられました。リジューの聖テレジアの聖堂でのミサでは、聖女の徳を偲び私にも小さな徳の道を学ばしめ給えと祈り、シャトルの大聖堂の信仰の古い年輪に圧倒されました。またルルドでは世界中から集った（夜七時からのローソク行列のときには各国語での祈りから数えて十数カ国の巡礼団でした）魂の群の聖母マリアを通してキリストに叫ぶ信仰の大合唱に酔い、永遠の都ローマに行きましては四大聖堂の壮大なことに茫然自失、歴史の重みに自分の信仰のなんとちっぽけなことかを身にしみて感じました。

何にもまして私の一生忘れ得ぬ思い出は、パパ様に特別謁見がゆられるのか探しましたらこれは不思議、オリーブ山のパーテルノストルフォで何千の群衆の中から39名の福岡教区の巡礼団と聖母の騎士会の十数名の巡礼団だけ特別謁見の間に通されました。パパ様は有難いお言葉を賜わり、わざわざ玉座から巡礼団のところまで下りて来て下さり、やさしく一人一人握手を賜わり祝福して下さいました。このたびの巡礼中いや生まれてはじめての最高の日で御座いました。一生の思い出になることと思います。

この巡礼で感じたことの一つは聖ヨゼフのかくれた姿でした。聖地イスラエルに着いて先づナザレトに行きました。お告げの大聖堂の横の入口のところに聖家族の小さな御像があり、聖家族教会祭壇の天井に聖家族の絵を見ただけでした。エルザレム、ベトレヘム、それにフランス、イタリーでも地下深くかくれ、どこにその姿が見えるされたことです。カステルガンテルのカルメル会修道院、フランスのリジューの修道院、アシジーの聖クララ修道院の奥深く、黙々とささげられている祈りと犠牲の生活の中に聖ヨゼフの姿がありその精神が力強く生かされているではありませんか。この魂たちこそゆれにゆれている旅する教会をささえている唯一の力ではないでしょうか。

小さく貧しい老いた私の魂も、こうした共同体に守られているからこそ無事に旅して行けるのだとあらためて感謝の祈りをささげた次第です。

パパ様のやさしい中にもただよったうれいのお顔も、こうしたかくれた祈りと犠牲がバックボーンになっていると思います。

聖ヨゼフの霊名を頂いておる貴方と私、心を一つにして互に鞭打ち励まし合いながら聖ヨゼフの謙遜の道について行きたいもので御座います。

（編集室から）

室内の扇風機が所在なさそうに羽を休めている。今夏一番の稼ぎ頭も無視され勝ちな昨今である。

秋はかけ足で近づいている。難産の末読者にお目見えした「カトリック」9月号であったが、どうひいき目にみても寄型児であったことは否めない。これから一層精進して、ご期待にお答えしなければと責任を痛感している次第である。編集子となってみて、新聞を読む立場と作る立場とにかなりの距離があることも一つの貴重な経験であった。読者のサイドではこんなチッポケな紙面をとやや卑下した気持で接していたのに、いざ作る段になると大変なエネルギーを消耗することを学んだことであった。

作る人よりも食べる人の方が楽であることは真実である。何の因果か知らないが作る苦しみは当分続きそうである。オ！ゴッド、ヘルプミ。

ところで教区報にもっと司祭の顔を！教会という一つの共同体は司祭がいや司祭職が中心である。秘跡的に直接的に司祭職を執行する司祭はもっとクローズアップされなければならない。司祭は聖櫃にかくれるキリストの見える印しである。

泰星高校寮落成

昨年11月から施工していた泰星高校寮はこのほど完成し、9月3日、平田司教の聖体賛美式をもって祝別式をおこなった。

この寮は、本校から徒歩で3分の高台にあって博多湾を眼下に眺めることができ、申し分のない教育環境といえる。鉄筋コンクリート4階建、総面積一三五八ヘーベで80名を収容できる。管建築設計事務所が設計を担当し、松尾建設株式会社の施工となっているが、住宅金融公庫の融資をうけている。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長菅　種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部

教区設立五十周年祝典を前にして

福岡司教 平田三郎

待ちに待った教区設立五十周年祝典の日が近づきました。

「この日は「教区」という神の大家族が一堂に集まり、半世紀に渡っていただいた神のかずかずのお恵みを、声を合せて、感謝する日です。この祝典の日には、自分の属する小教区の信者ばかりでなく、数十にのぼる教区の信仰の兄弟の姿に接し、カトリック教会の（デイメイシヨン）をはだで感じ取り、神秘体である教会の一肢体である喜びと誇りを味わせてくれる日になると思います。

この日はまた、血と汗を流して教区を建設して下さった人々に、思いを馳せる日でもあります。教区の出発当時と現状を比べてみるとき、歴代の司教様、神父様、修道者、信徒の方々のなみなみならぬ信仰と、宣教の苦労が偲ばれます。先祖から受け継いだ信仰の遺産を大切にし、この家宝を後代に残すためにどんな犠牲を払われたか、この宝を知らない人々に分ち与えるために、どんなに宣教の熱意を燃されたかを思い巡らす日でもあります。五十年前に教区の設立を決定されたピオ十一世教皇様、決定を受けて立ったパリー外国宣教会の司教様や神父様方の尊い姿が浮んできます。神学校を設立し、司祭の養成に献身し多くのよい司祭を教区に送って下さった方々、戦前、戦中、戦後を通して、溢れんばかりの情熱を燃して宣教に当って下さった邦人司祭、修道会・宣教会の神父様やシスター方、信徒の方々に思いを走らせましょう。

教区の金祝を迎えるこの日は、将来に向って飛び出す日でもあります。現代は「物」の価値が幅をきかせ「霊的」な価値にはあまり気を留めない時代であり、信仰を保ち、育て、信仰の規範に従って生きるのは困難な時代です。神のみことばを通してますます「キリストを知り」その「よき おとづれ」の真意を悟り、喜んで福音のみ教えに生き、世に証しを立てる決心を立てましょう。この証しの生活が「キリストを知らせる」ことになるのです。思想混乱の中にありながらも、人々はようやく魂の渇きに気づき、変らぬもの、真なるもの、生きる力となるものを求め始めてきました。今こそ声を大にして、キリストを告げる時が来たのです。カトリックの出番、使徒職の再出発の時であります。再出発のためには、共同体のよいリーダとなる司祭、修道者の数が殖える必要があります。教区設立五十周年の祝典の日に、ひとりの新司祭の叙階式が行われることはこの祝典に大きな意味を与えるようにに思われてなりません。家族、小教区、教区共同体の中から神と教会のために一身を献げ、共同体を養い育てる召し出しが殖え、更に大きな神の家族となるよう祈り、努力したいものであります。五十周年の式典があらゆる面で有意義なものとなるよう祈ってやみません。

黙想会に参加した教区の司教司祭たち

教区の司祭黙想会

恒例の教区の司祭黙想会は、十月十日午後五時三十分から、福岡黙想の家で、五泊六日行なわれた。指導司祭は、東京教区の下山師であった。現代の司祭像、召命の問題などを、豊富な実例を紹介して淡々と、時にはユーモアを加えて話した。ヨハネ23世教皇の「路傍の石が一番大事な石」は強く心に残った。

微光

王冠をおもわせる塔の、ナザレのお告げの聖母教会に着いたのは、夕方、四時頃であった。▼日曜日の小教区の行事のためにそこでのミサは許されず、仕方なく、すぐ隣りの聖家族の教会でささげた。ここは、聖家族の住居跡と云われている。▼ミサ後、お告げの教会を訪問した。地下の洞窟前にたたずむ。天使は、「聖霊があなたにくだり、いと高きものの力のかげがあなたをおおうのです。ですから、生まれるみ子は聖なるお方で、神の子といわれます」と、告げたのであった。（ルカの35）。キリストは、聖霊とマリヤの合作によって、人類社会の一員になってくださった。神の母マリヤが、うす暗い洞窟の奥から現われる感じである。神秘的ムードが支配する。▼六時のアンゼラスの鐘がひびき渡った。あちこちで、お告げの祈りがはじまる。主のみ使いの告げありければ…、心の奥奮は高まる。マリアと一心同体になって、祈りを続けた。▼アンゼラスの鐘、お告げの祈りは、私たちの生活からかけ離れたものになっていないだろうか。この祈りは、三位一体の賛美、マリアの感謝を如実に示している。このアンゼラスの鐘は、神への感謝を呼びかけているに違いない。▼最近の世相は、教会の鐘を沈黙させてしまった。そのことは、神への感謝を忘却した人間を培養してはなるまい。き憂であることを祈るのみ。信仰は、感謝の心にすくすくと育つ。「神に感謝」私のモノログである。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

社長 カシミロ・塩田五郎

福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）

TEL 代表 092（521）—8266—7

Custom Tailor

糸永洋服店

福岡市中央区浄水通8—8

TEL 531—3831

夜間 521—0820

福岡小神学校45年の歩み (3)

種子はまかれて、すぐ生え出たけれど

昭和23年7月28日、抑留解除されたスルピス会員や平田三郎師が中心になって進めてきた、哲学科神学校の大神学校昇格は、認められて、「福岡サン・スルピス大神学院」が発足した。仮校舎は、軍より返還された小神学校旧校舎と司教館附属司祭館が代用された。物資欠乏時代の大神学校ではあったが、復員したたくましい学生たちの軍隊体験談に明るさと笑いが渦巻いていたように思う。中でも、占領米軍の経済援助が大きな支えであったことは、否めない事実であろう。

25年12月23日、福岡サン・スルピス大神学院を卒業した福岡教区司祭の第一陣が誕生した。糸永武男師と青木保師である。

青木師は、司教館から小神学校に通って平田勇校長を助け、37名の生徒の世話をすることになった。

26年3月、かねてから建築中であった新校舎が、福岡市西区片江神松寺一九〇〇番地に竣工落成し、福岡サン・スルピス大神学院の受け皿は実現したのである。

福岡小神学校は、大神学院の引っ越しによって、空家となった浄水通38番地の小神学校旧校舎に再び生活をはじめることになった。

27年1月、浄水通教会が新築落成し、深堀司教の祝別式によって小教区のスタートを切った。小神学校長兼任の平田惣五郎氏が初代主任となったが、小神学校の実務は、副校長格の青木師の手で処理されていた。

29年3月21日、司祭になったばかりの牧山重光師も、この共同体に入ったが、31年3月19日、新司祭川口師と交代して、新しい聖務についた。10月には畑原師と川口師のコンビが、小神学校の新しい顔として登場した。

33年4月から42年3月までは、川口師と岩永師（現、長崎教区司祭）であった。この年の2月、福岡小神学校の新校舎の定礎式、11月3日には、駐日バチカン大使ウステンベルグ大司教を迎えて、盛大な祝別式を挙行している。

福岡小神学校聖堂内部

長い間、小神学校の運営維持に、また、生徒の霊生面に貢献した川口師は、新館落成をおみやげに司教館に移り、教区会計の要務に没頭することになった。

43年4月、岩永師・中浜師・日置師の三人に引き継がれた小神学校は、8月になると、岩永師の長崎教区への転籍のために、中浜師、日置師の責任下におかれた。

45年9月、日置師は聖書共同訳事業に専念するために、地行教会の司祭館に移り、平田寛師と交代した。ところが、46年小神学校の責任は、とうとう、中浜師一人だけに託せざるを得ない事情となってしまった。現在の畠山師は、47年以来の忠勤ぶりで、神学校好みの司祭と聞き及んでいる。

試みに、過去9年間の、小神学校在校生の変動を一べつしてみよう。

44年在校生39名（内福岡28名）
45年在校生37名（内福岡34名）
46年在校生35名（内福岡33名）
47年在校生35名（内福岡33名）
48年在校生32名（内福岡31名）
49年在校生18名（内福岡18名）
50年在校生20名（内福岡19名）
51年在校生18名（内福岡16名）
52年在校生21名（内福岡18名）。

特に、昭和49年あたりから、生徒数が極端に減少している事実を見逃してはなるまい。教区一丸となって、強力な召命運動を展開する必要に迫まられている。私たちの歩いている道に、転がっている石ころを注意深く、拾って磨いてみよう。立派な置物になることもある。石ころに無関心であること、ここに、召命激減の落し穴が用意されていないだろうか。

半世紀の戦いを生きてきた福岡小神学校は、3人の司教（昭和13年卒業の、那覇教区の石神司教、19年卒業の、京都教区田中司教、17年卒業の、高松教区の深堀司教）に加えて、62名の教区や修道会司祭をキリストの祭壇に送り出している。列挙すれば、福岡24名、長崎10名、大阪7名、高松3名、横浜3名、京都3名、大分2名、鹿児島2名、名古屋2名、新潟1名、フランシスコ修道会3名、神言会1名、台湾1名となっている。

（おわり）

祈禱の使徒会の意向

一般、カトリック者としての教会認識、

布教、A・A諸国における特殊文化のキリスト教的完成、

教会は、キリストの神秘的共同体である。デモクラシーの目で見る前に、信仰の目で眺めることが大切であろう。神的起源を黙想！

ロトリ大司教（駐日バチカン大使）

十月五日朝、ローマ市の病院で脳いっ血のため急死した。六十三歳。昭和四十九年七月から現職にあった。日本での葬儀は、十月十二日東京カテドラル聖マリア大聖堂で、全国の司教、各国の外交官参列の下に盛大にとり行なわれた。

聖書週間

十一月十三日から二十日まで、全国的に聖書週間がはじまる。特に、福岡教区は、小教区の主任司祭に一任しているが、なるべく十三日（日）に聖書の日の典礼や催しを行なうように勧めている。「実に聖書を知らないことはキリストを知らないことに等しい」（ヒエロニムス）

福岡地区青年司教杯争奪スポーツ大会

十月二日（日）、午前九時三十分から、秦星学園高校のグランドにおいて、福岡地区の青年会や司祭たちを交えて、親善ソフトボール大会があった。平田司教の始球式で熱戦の火ぶたが切られたが、あった。日本での葬儀は、十月十二光ケ丘教会の優勝で幕を閉じた。参加九チームであった。

移住献金

大名町	57,865	馬渡島	10,170	直方	1,700
浄水通	13,878	唐津	5,000	飯塚	5,300
東田島	11,300	呼子	5,500	川橋	3,110
箱崎	7,500	佐賀	15,00	行手	13,100
西新	9,100	伊万里	3,500	荒尾	25,000
吉塚	12,000	武雄	6,000	吉軍	6,000
大楠	12,320	鳥栖	5,000	人渡	6,600
茶山	8,200	鹿島	2,000	健本	10,000
光ケ丘	14,754	多久	1,460	帯山	3,550
美野島	10,000	門司	16,500	水俣	19,100
高宮	10,000	門司港	8,000	大江	4,200
老司	16,000	小倉	48,897	島崎	11,600
古賀	13,604	川湯	19,554	玉名	27,000
二日市	10,000	戸畑	35,925	菊池	10,500
久留米	26,780	新田原	35,850	津代	17,930
吉野	1,660	若松	10,000	八代	11,500
今村	74,000	天神町	18,000	シト一会	7,250
小郡	5,005	八王寺	7,500	能古島	5,000
本郷	11,953	黒崎	10,000	合計	2,210
大牟田	12,000	水巻	8,000		790,425

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目80　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (751)1349
診療時間　午前10時～午後5時　昼休み　午後1時30分～2時15分
土曜日　午前10時～午後3時　昼休みなし

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

ロザリオに対する聖座の関心と評価
（マリアリス・クルトウスより抜萃）(2)

一つ一つの天使祝詞に名の出てくるキリストは順々に黙想される玄義が示すと同じキリストですから。ロザリオの玄義のキリストは、ベトレヘムの洞窟で生まれたマリアの子、母から神殿においてささげられ、御父のことにたずさわる少年、園の中で苦悶し鞭うたれ、茨の冠をかぶらされ、十字架の重荷を負い、カルワリオの丘で死ぬ人類のあがない主、死者の中からよみがえり、御父の栄光のもとにのぼり、聖霊を賜う御方です。

最後に現代の専門家たちの研究の結果、典礼とロザリオとの関係もますますよく解ってきました。

一方で明らかになったのは、ロザリオの祈りが古い典礼の幹から生えたひこばえのようなものであるということで、ロザリオは聖母の詩編書であると云われましたが、それは唱え方が簡単であるために信者が賛美の歌と全教会の取り次ぎの祈りとに心を合せることを可能にしたからでした。

他方指摘されることは、中世末に起ったことで、典礼の純粋な精神が衰退すると共にキリスト信者が典礼からやや遠ざかり、キリストの人性や聖母マリアに対する或る敬謙な感情の方に傾むいたことです。

或る人々がロザリオの祈りを典礼儀式の一つとして認めてほしいと願い、他方別の人々が過去の時代の誤りの司牧的予防を志すあまりこの祈りを不当になおざりにしたのは、それほど昔のことではありませんでしたが、今日この問題は容易に解決することが出来ます。第二バチカン公会議が典礼憲章によって示した教えに照らすならば、典礼的祭儀とロザリオの祈りは、対立させるべきものでも同列置くべきものでもないことがわかります。どんな形の祈りも、本来の意味と個有の特性とをしっかり守るほど実り豊かなものになります。ですから、典礼祭儀の他にすぐれた重要性が確立された以上ロザリオのうちに典礼と調和し得る信心を認めるのは、さほど困難な仕事ではないでしょう。なぜなら、ロザリオも共同体的性格を有し、聖書によって養われ、キリストの秘義にひたすら専念する点、典礼と異なりませんから。たとえこの2種類の祈りがおのずと違った範囲に属するとしても、典礼における「記念」もロザリオにおける観想的な回想も、同じキリストのなしとげた同じ救いの出来事をテーマとしています。

典礼はしるしの覆いのもとにあがない主の最大の秘義を現存させ、隠れた仕方で効力を発揮させます。ロザリオは、敬謙な考察によって、この秘義を祈る人の心によびさまし、そこから人生の規範を受取るようにその人の意志を刺戟します。ロザリオを唱えつつ行うキリストの秘義の観想は、キリスト信者の思いと心に、それらを省察する習慣をつけるので、典礼祭儀においてそれらの秘義そのものを祝い、終つたあとではその記憶を一日を通じて保つための、非常に良い心の準備となり得るのです。けれども、典礼祭儀が行なわれている最中にロザリオを唱えることは、残念ながら所によってはいまだに行なわれている誤りです。

今、私は先任諸教皇の意向を引き継いで、家庭でのロザリオ唱和を強く勧めたいのです。公会議は、社会の基本的な生きた細胞である家庭、相互の思いやりと神に向って共に捧げる祈りとによって、いわば教会の雛型となる、と云っています。ですから、キリスト教的家庭は、一種の小さな教会であって、それは、若し皆が各自の身分と務めに応じて正しいことを追求し、慈善を実行し、兄弟たちに奉仕し、使徒的活動に参加して自分の土地の教会を助け、その典礼に積極的に加わり、そして心を合わせて神に祈るならば、正しくその通りなのです。然し、もしこの共同の祈りが行なわれなければ、その家庭はもうキリスト教的とは云えなくなるでしょう。

ですから、家族が一種の教会である、という事が神学的に正しい以上、家庭内で一緒に祈る習慣を再興するためにあらゆる努力を払うことの妥当性は明らかでしょう。

会合と催し

◎平田司教

11月6日 福岡教区創設五十周年祭、司祭叙階式、
11日 久留米信愛短大10周年
13日 島崎教会堅信式
15－18日 全国司教総会
20日 大楠教会堅信式
23日 茶山教会祝別式
27日 飯塚教会堅信式

◎福岡黙想の家

11月3－5日 召命の黙想会
9日 東田島教会婦人会
12－13日 北九州レジオ
19－20 ビンセンシオ会
27日 大楠教会婦人会

永久誓願式

十月十六日、九時から、大名町教会で、聖母訪問会大濠修道院の西田靖子（シスター、ステラ）修道女の永久誓願式があった。京都教区の宮津教会出身で現在大濠幼稚園の教諭である。

〈羊飼いの牧場〉

「祈りましょう」

伊東誠二神父

"かみの一こひつじ"、平仮名のひびきを通して身についていた祈りの文句が、怪しい理解の中で自分のうちに祈りとして定着していた事も想い出して、おかしくなることがある。

イエズスは神の子ではあるが、何故、羊の同格名詞を付けねばならぬのか？よき羊飼の関係かな？ まあ、小羊といえば大きくはない信者なのだから自分のことで、当然"われら"をあわれみ給えと続く。では不思議なのは"世の罪を除き給う"のくだりである暗記された祈りは、この様な矛盾らしいものをすらすら通り抜けて、子供の信仰の中でそれなりの重大な役割をはたして来ている。

口頭の祈り、早くから人類の中で育っていた教育の智恵なのかも知れない。それでイエズスも、"常に祈って、もし飽きを感ずるような時は注意しろ"との警告が必要だったのかも知れない。（ルカ十八章）

口が先か？ 心が先か？ すくなくとも心の形成がお粗末な幼児の祈りは、まさに人間の条件にかなったすばらしいものと思う。

「祈りは神との語らい」と言われるが、語らいの出来ない三歳児を語らいの生活に乗せてくれるのが口頭の祈りである。だから口頭の祈りの習慣が信者の家庭から消えていくことを恐ろしく思う。

訳も解らぬ文句を子供に強制することの非を唱える発想が祈ることを教えない口実になってしまっては大変である。

"祈りを教えて下さい"とイエズスに願った弟子達のごくあたり前の気持が出発点でなければならぬのではないだろうか。何等かの方法で神のなまの体験へ進む努力が青少年から老年まで、家庭教育の方針の中から姿を消したら、宗教心は死滅してしまうだろう。

だから、「祈りましょう」。自分で自分の祈りを構成できない状態であれば、信仰の先達が残してくれた祈禱文を使わしてもらって、出来るだけ早く、祈り（この神との語らい）を体験することが信仰の条件である。よく出来た自然な祈りを祈禱文は体裁よく提供してくれる。

神と人間の永遠に新しくなければ嘘になる関係を自覚するなら、この自覚を深めるためにも、公式の祈り、口頭の祈りを私たちの生活の中に守って行き度いものである。（茶山教会主任）

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52－3306
52－8622

"保険に加入して車の運転を致しましよう"
大石保険事務所
大石真澄
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）
AIU㈱福岡支店内
〒810 TEL771－4761

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目 {外国産石材輸入加工販売 大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2－21℡52－2417
工場熊本市花園町41 TEL56－0170
（夜間）64－6781

死について

山内清海

「万一」という表現がある。文字通り、「万分の一」の可能性、「ほとんどないが、まれにありうる」、ほんのわずかな可能性を示唆する表現である。

しかし賢明な人間は、この万一の災害に用意周到な備えをなす。たとえば火災保険、健康保険、失業保険など、必要でないことを願いながらも、程度の差こそあれ、やはり万一の可能性を予想してこれに備えた人間の知恵であり計画である。

今夏上京した際に訪問した友人宅の火災、地震に対する備えは徹底していた。家族の一人ひとりが必要品をつめこんだ急救袋を用意しているし、ときどきは火災や地震を予想して、全員が敏速かつ安全に避難できるように家族訓練さえしているとのことだった。

はじめわたしは、やはり驚きを禁じえなかったし、「なにもそんなにまでしなくたって」とも思った。しかしよく考えてみると、これは決して驚くべきことでも不思議がることでもなく、むしろ当然なことであり、驚いているわたしこそ不賢明なのだと深く反省せざるをえなかった。

「後悔先に立たず」の格言通り、事が終ったあとでいかに悔いても取り返しはつかない。それよりも、たとえ万分の一の可能性しかないにしても、いろいろの災害に備えることは今日ではむしろ常識である。

ところで、万一の事故や災害を仮定して用意周到な備えをするわたしたちが、絶対に確実な死についてはなぜかあまり考えない。

「死はまだまだ先のことだ」、「死について考えても実感がない」、「まだ早いまだ早い」と豪語する若人もいるし、「死なんて考えるひまはない」、「縁起でもない」とこれを一笑に付す働きかりの人もけっして少なくないだろうし、死が近づいていることを実感しているだけに、できるだけ死についての考えから逃避しようと努める老人も多い。

しかしわたしたちがどのような受けとめ方をしようと、死は確実に一歩一歩わたしたちに近づき迫っている。さらに恐ろしいことは、永遠の生命、永遠の苦しみを決定するこの死がいつやってくるのか、わたしたちは皆目予想だにできないということである。

だからこそわたしたちは、この死をもっと現実的に受けとめ、あとで歯ぎしりして後悔したり、嘆き悲しんだりすることのないように、神のみ前で正しく、そして賢明に生きるべきである。

聖書の中に誇まれる金持ちとラザロの物語りは、わたしたちに反省の材料を提供する。

金持ちもラザロも死んだ。金持ちは死の国で苦しみながらアブラハムに、「父アブラハム、わたしをあわれんで下さい。ラザロが指先を水に浸してわたしの舌をひやすように、ラザロをよこして下さい。わたしはこの炎の中で苦しんでいます」と嘆願する。

アブラハムは答える。「子よ、思い出してみなさい。おまえは生きている間、よいものを受け、ラザロは悪いものを受けた。しかし今、ここでかれは慰められ、おまえは苦しみにもだえている。それだけではなく、わたしたちとおまえたちとの間には、大きな淵がある。ここからそこに渡ろうとしても渡れないし、そこからここへ越えて来ることもできない」と。

アブラハムが金持ちに向けた右の言葉は、「もうおそい。もうすべて決定しているのだ。今さらどうにもならない。なぜ生きている間に正しく生きなかったのか」という意味に要約されよう。

教会は長い伝統にしたがって、この十一月を「死者の月」と定めている。それはただ単に、死せる兄弟、姉妹たちのためにわたしたちに祈るようにすすめるだけではなく、さらにもう一歩すすんで、わたしたちがもっと真剣に自分の死について考え、常に死の準備をするようにうながすためでもあるにちがいない。

聖アウグスチヌスはかつて、親しい友の死を経験したとき、「いまや自分自身が自分にとって大きな謎となった」と苦悩しているが、わたしたちもこの月に、不可避的な死の現象を正面からみつめて自分のあるべき姿を探し求め、勇気ある生き方ができるように努めるべきであろう。よき死に方を望む人は、よく生きることを学ぶべきだからである。

（サン・スルピス大神学院長）

お恵みははてしなく

渡辺豊子

五時半にセットした目ざまし時計の音に起きる。八月から始めた、早朝マラソンとまではいかないが、家の周りを一廻り走るためである。私の一日の始めなのだ。まだ信者になりたての私には、定まった朝のお祈りも覚えていない。又五十才を半ばも過ぎれば、注意力も乏しい。だから私の朝のお祈りは、いつも神様にお話をさせていただくのである。

神様おはようございます。今日よい朝を迎える事が出来ましてありがとうございます。どうぞ今日一日あなたの愛のうちに生きていく事が出来ますように。アーメン

さてトレパンやシャツを着て、主人を起こす。六十才を越した、お腹の出て来た、運動不足の主人を走らせる事が目的である。お医者様のお許しも出ている。

秋気に冷えた空気の中を屈伸運動しばし、ヨーイドン、主人のあとから私が続く。残月がねむそうに空にかかっている。街灯が夜明けを照らす。ズックは落葉をふんでいく。

夫の説によれば、走る時は息を吸って吸って、吐いて吐いて、調子をとるのだそうだ。平尾小学校の横にかかると、学校の鶏がコケッコーと挨拶をしてくれる。新聞屋さんのバイクに逢う。時にはお早うと、愛想よく声をかけてくれる人もいる。フーフー鼻を鳴らしませながら、この朝も神様のおめぐみを考える。

神様みんなあなたのおかげなんです。私の前を走っている夫は中年のほとんどは病気でした。その病気をさせて下さったおかげで、今の健康の幸福が身に痛い程しみわたるのです。健康だけではありません、夢中で生きて来たので、夫婦げんかも忘れて、三十年も過ぎてしまいました。又その間明るく生きる工夫も覚えました。子供にはそれぞれが思いやる心がけを神様あなたは下さいました。

その他考えれば考えるだけあなたのおめぐみでないものはありません。

子供達が雙葉の幼稚園に入り、カトリックの教えを受けました。私もまたシスターから教えを受けました。神様はずっと前から私の事をお愛し下さって、髪の毛の数までも、心の中の中までも、存知だったのです。そして私を助けて下さっていろいろな困難を乗りこえる力を下さいました。だのに、あわれな私はノホホンとして、おめぐみが見えませんでした。そして困った時は、すがる想いでマリア様に何度も何度もめでたしをとなえるばかりだったのです。

でも昨年の御復活に洗礼をやっと授かりました。

神父様やシスターからいろいろと御話を伺っているうちに薄紙を一枚一枚はぐように神様の愛の果しない深さがわかって来ました。ごめんなさい神様このみじめな私をお許し下さい。そしてこんなに愛して下さっている方に感謝を捧げます。

ランニングは最初の登り坂になり足が重くなかなか動きにくい。力をこめて走る。神様ありがとうございます。まだこんなに元気に走れる足を下さいました。

やっと一廻りして深呼吸。主人は一風呂浴びて汗を流し出勤まで一寝いりする。

どうぞ今日一日神様の愛におこたえして、少しでも御こころに叶うためよい生き方が出来ますように私を助けて下さい。

だんだん朝は広がって光に満ちて明るくなって来る。

（浄水通教会主婦）

〔編集室から〕

樹木の衣替への季節、緑一色からカラフルな姿に変身する。枯葉のイメージは、もの悲しさではなく、精一杯生き抜いたものの美しさを与えてくれる。最後の一葉に至るまで、人間の心をなごませ、サービスしてくれる。それでいて、何ものも要求しないで、静かに次の出番を待つ。いじらしい。

死者の月を迎える当り、物故者のご冥福を祈りたい。特に、福岡教区の五十年の歴史において、陰に陽に協力してくれた、今は亡き人々に、限りない感謝を示し、「永遠の安息」を祈る義務があると思う。枯れた人生が、天国で美しく輝いていることであろう。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長 菅　種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部

新しき半世紀を目指して
整然と進む感謝の盛儀
燦たり！偉大なる足跡
福岡教区創立五十周年記念式典

絶好の日和に恵まれて、待ちに待った福岡教区創立五十周年記念式典が十一月六日、春星学園高校体育館で壮厳におこなわれた。会場では、福岡、佐賀、熊本三県の信者が合流してその数ざっと三〇〇〇名、静かに開式を待っている。十一時三十分、式典ミサはコーラスの美しい歌声の流れの中、十字架を先頭に司教司祭団の入場からはじまった。

八十名余の教区司祭の後に司祭受階者渡辺隆義師、来賓高位聖職者としてバチカン駐日大使代理、深堀名儀司教、深堀高松司教、糸永鹿児島司教の顔が見え、最後に平田福岡司教が続いた。開祭の儀、みことばの祭儀のあと平田司教は説教台に進み「多くの来賓の司教司祭修道会代表、教区信者一同が集まり、教区の五十年の歩みの上に与えられたお恵みを感謝し、福岡教区の飛躍の決意を神さまに披歴できることは有難いことである。ピオ十一世教皇は九州宣教のために、当時の長崎教区を三つに分け、その一つである福岡教区をパリー外国宣教会に委ねられたのである。当時の教区内には十二の教会、十九名の宣教師、七〇〇〇名の信者があったが、邦人司祭は皆無であった。初代のチリ司教をはじめ歴代の司教方は、邦人司祭養成に努力されたが、今日まで四十三名の司祭しか恵まれていなかった。五十周年記念祭に当り、一人の新司祭が誕生したことは大きな喜びである。福岡教区からもっと沢山の司祭が与えられるように祈り努力したい。又代々の司教管教師の功蹟を賛え、戦後教区の発展に寄与している宣教会修道会に感謝を捧げたい。『万国に往って福音を宣べなさい』のキリストの言葉に我等の宣教の使命を自覚し、『キリストを知りキリストを知らせる』ことに留意して反省すべきである」と熱っぽく語りかけた。

一連の司祭叙階の儀を経て新司祭が誕生し、共同司式の感謝の祭儀を無事に終った。このあと式典に移り、駐日バチカン大使代理、教皇庁布教聖省長官メッセージ、来賓司教や各宣教会修道会代表の祝詞、教区邦人司祭代表挨拶、教区信徒決意表明で閉幕、午後二時十五分であった。祝宴は午後三時から、小倉の聖パウロ修道会体育館であった。

――お礼――

このたび、本教区創立五十周年記念式典ならびに司祭叙階式に当りましては、ご多用中にもかかわらず、遠路お出でくだされ、また丁重なご祝電、ご祝詞、ご芳志をいただき、厚くお礼申し上げます。お陰をもちまして盛会裡に終ることが出来ました。これは、ひとえに皆様がたの絶大なるご支援の賜と深く感謝申し上げます。これを契機に、私どもは新しい五十年に向って躍進すべく、尚一層の精進努力を続ける決意であります。今後とも何卒相変らぬご支援、ご厚誼をたまわりますようお願い申し上げます。まずは紙面を借りてお礼申し上げます

昭和五十二年十一月十四日

福岡教区司教 平田三郎
福岡教区創立五十周年記念行事実行委員会

教区創立50周年記念ミサ

(教)(区)(人)事

(　)前任地

八月一日付熊本市手取教会助任(神奈川県藤沢教会助任)ヴィンセント・ヤングキャンプ師▽十月三十日付熊本市帯山教会臨時主任(神奈川県藤沢教会主任)パトリック・ブランチフィルド師▽十一月三日付福岡市箱崎教会主任(新宿学生の家)トマ・リシャル師▽十一月二十六日付福岡県新田原教会助任(新司祭)渡辺隆義師

微光

エルサレムの南に車を駆って二十五分、ダヴィドの町ベツレヘムに到着する。とりあえず、キリスト生誕の教会に足を運ぶ。奇妙なことだが、ここには、ローマの聖ペトロ大聖堂の華麗さは微塵もなく、うす汚れて、貧相なビザンチン風の建物を見るだけである。人間の背丈程の小さな入口を、貧しい人も富める人も通らねばならない。こわごわと、洞穴に入る心地であった。▼イスラエルで、キリストゆかりの場所のいくつかは、非カトリック教の所有下に置かれている。このキリスト生誕の洞穴の上に建てられた教会も、ギリシャ正教会のもので、カトリック儀式は許されていない。その傍に、遠慮ぎみに建っている聖カタリナ・カトリック教会は、建物の外観とは裏腹に、寂しそうに見えた。▼「おそれることはない。すべての人々のための大きなよろこびの知らせを、私はあなたたちに告げよう。今日、ダヴィドの町で、あなたたちのために、救い主がお生まれになった。すなわち、主キリストである。あなたたちは、布につつまれてまぐさおけにねかせてあるみどり子を見るだろうが、それが、しるしである」。(ルカ2の10—12)▼救いの太陽は、ここから上った。貧者にも金持ちにも、すべての人々のための大きなよろこびとして輝くのである。人類の共有物である平和の聖地を奪い合う愚をくりかえしてはならない。私の聖地、あなたの聖地ではなく、私たちの聖地の下に、全員集合しよう。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL 531—3831
夜間 521—0820

永遠の司祭の誕生
喜びの渡辺隆義師

フイリッポ、ネリ渡辺隆義師は去る十一月六日の教区創立五十周年記念式典ミサ中に司祭の聖位にあげられた。「この人は司祭にふさわしい人ですか」。「信者のかたに尋ね、またこのことについて責任あるかたがたのご意見を伺った上で、この人が司祭にふさわしいと判断されたものであることを証言いたします」。「それでは神である救い主イエズス、キリストの御助けによって、この兄弟を司祭団に加えることにいたします」司教は司祭の任務を長々と説明し、最終的に司祭職受諾の表明と従順の約束を求めた。

諸聖人の連願のあと、司式司教につづいて臨席する司教司祭が受階者の頭の上に手をおく。聖霊のお恵みを願い司祭団の一員に迎えるゼスチャーである。聖別の祈りに続き祭服の着衣と新司祭の両手に聖香油が注がれて、文字通り永遠の司祭が誕生したのである。なお渡辺師は翌七日午前十一時から、熊本市手取カトリック教会で平田司教をはじめ熊本県内全司祭と共同司式の初ミサをささげた。

渡辺師は昭和二十三年五月二十六日熊本市に生まれ、昭和二十五年七月島崎教会で受洗。昭和三十六年四月福岡小神学校に入学、途中病気休学の試練があったが、見事克服してサン、スルピス大神学院に進み昭和五十二年三月めでたく卒業した。その後司牧活動に従事しながら司祭受階の準備に入っていたが、ここに晴れて司祭の栄冠をいただいたものである。

サン・スルピス大神学院祭

昨夜までの雨がうそのように、よく晴れた十一月二十一日午前十時三十分から、福岡サン・スルピス大神学院で大神学院祭が催された。定刻主司式者深堀高松司教をはじめ平田福岡、糸永鹿児島、平山大分、深堀名儀の五司教、本年銀祝組の司祭、その他八十名にのぼる司祭たちの参加を得て、ミサがはじめられた。銀祝組の一人である糸永 司教は慈父の如く惇々と、司祭への道を説教した。久しぶりに聞くグレゴリオ聖歌のメロディは、懐かしき大神学院の在りし青春の日々を思い出させてくれる。大神学院ならでは味わえない壮厳なミサの雰囲気であった。ミサ後大神学院食堂で祝宴が開かれ楽しい団らんが持たれた。思い出のあの顔この顔には、年輪の深さにもかかわらず、在りし日の心の若さがみえた。里帰りした子女のように大神学院ではしゃぐ司祭たちの姿は、美しくもあり、ほほえましいものであった。確かに、大神学院は司祭のホットなホームであり、又そうでなければならないと思う。冷たい象牙の塔はご免蒙りたい。

堅信のよろこび

十月二十三日　吉塚教会四十一名
十一月十三日　島崎教会二十五名
十一月二十日　大楠教会十九名

納骨堂ミサ

一、福岡—十月三十日午後一時三十分から、大橋カトリック納骨堂で、平田司教と八名の司祭が共同司式ミサを捧げ、数百の信徒とともに死者の「永遠の安息」を祈った。司教は「旧約のイスラエル民族の捕われからの脱出が過越の喜びとなったように、洗礼によって罪から脱出した信者は過越の喜びに向って邁進すべきである」と説教した。

二、熊本—十一月十三日午前十一時から、立田山カトリック納骨堂で、グリフィン師司式の死者のミサがあった。

司教司祭団の按手をうける新司祭

フレデリック・ボア師
（パリー外国宣教会員）

二年前から、福岡県行橋市大字東徳永にある聖母訪問会経営の新田原病院で静養中であったが、老衰のため十一月三日午前五時帰天した。享年九十歳。葬儀ミサ並びに告別式は、翌四日午後一時から、北九州市小倉南区の湯川カトリック教会において、平田福岡、深堀高松、深堀（仙）の三司教をはじめ四十名の司祭の司式共同ミサをもって、盛大に執行された。平田司教はミサの説教において、ボア師の六十五年間の宣教活動を回顧して、その偉大な業蹟を賛え、宣教者の模範である師を偲びつつ、今日の司祭の奮起を促した。

フレデリック、ボア師は一八八七年九月、フランスのサボア県シャンベリ教区デュランに生まれ、一九〇六年七月、パリー外国宣教会に入会、一九一二年三月、司祭に叙階された。一九一二年十二月、宣教師として来日したが、一九一四年八月から十月まで、戦乱のため一時帰国した。一九一九年十月熊本市手取カトリック教会主任、一九三二年一月、福岡小神学校長兼教区会計、司教総代理、一九三七年三月、教区の役職のまま大名町カトリック教会主任。一九四八年、北九州市八幡区天神町（門田町）主任となったが、一九六二年三月、高令のため北九州市八幡西区の援助修道会黒崎修道院に引退した。一九五七年二月、ご令兄ヨゼフ、ボア師もこの修道院から永遠の国に旅立っている。

祈禱の使徒会の意向

一般　キリスト教的家庭生活
布教　布教国における邦人司祭

家庭は小さな神学校である。召命の芽は豊かなキリスト教的土壌から育つ。とくに、祈る家庭から。

布教の日献金

大名町	44,915	佐賀	15,000	人吉	7,100
浄水通	8,815	伊万里	5,000	健軍	12,000
東田島	10,800	武雄	6,397	本渡	6,290
箱崎	7,255	鳥栖	3,550	帯山	13,156
西新	19,000	鹿島	1,500	水俣	4,150
吉塚	6,200	多久	1,832	大江	12,000
大楠	10,760	門司	30,200	島崎	30,000
茶山	9,775	門司港	7,400	玉名	10,500
光ケ丘	28,030	小倉	67,508	菊池	8,700
美野島	10,000	湯川	30,000	崎津	8,500
高宮	30,000	新田原	59,732	八代	5,760
老司	15,000	戸畑	33,639	合計	913,566
古賀	7,432	若松	10,000		
二日市	11,000	天神町	30,000		
久留米	18,170	八王寺	13,980		
吉野	2,085	黒崎	12,000		
今村	103,840	水巻	8,000		
小郡	3,870	直方	3,000		
本郷	12,063	飯塚	4,265		
大牟田	11,460	田川	5,765		
馬渡島	11,000	行橋	10,772		
唐津	7,000	手取	33,450		
呼子	5,000	荒尾	9,000		

移住の献金追加
菊池　17,930

広報献金追加
鳥栖　10,000

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正　金　診　療　所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目80　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (751)1349
診療時間　午前10時〜午後5時　昼休み　午後1時30分〜2時15分
土曜日　午前10時〜午後3時　昼休みなし

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771 — 3657

会合と催し

◎平田司教
12月4日 新田原教会堅信式
6日 司祭月例集会
11日 熊本フランシスケン修道院創立百周年祭
18日 手取教会堅信式
24日 大名町教会クリスマスイブのミサ

◎福岡黙想の家
12月3―4日 フランシスコ第三会黙想会 福岡地区壮年黙想会
10―11日 西南大学生の集い
21―24日 福大英会話ゼミ
26―27日 久留米信愛高校生黙想会

恒例の天草殉教祭

本渡市観光協会主催の天草殉教祭が、ことしも十一月十三日、地元カトリック教会を中心に盛大に行なわれた。十一時三十分殉教公園内の千人塚広場に参集した二百五十名は、六名の司祭の共同司式ミサにあづかり、殉教者の遺徳を賛えた。夜は約六百名の信者一般市民がキャンドルを手に、繁華街を通って千人塚前まで行進して平和を祈願した。

〈羊飼いの牧場〉

私のコンフェッション

堤 要吉神父

神の摂理は測り難し、このことは、(その体験をお持ちの方は多いと思いますが)私の脳裡に強烈に印象づけられていて、生活の合い間に必ず思い出す一つの出来事があります。

今から二十三年前の三月一九日四名の神学生が、現在の浄水通教会で司祭に叙階されました。そして、もう一名は二十一日、馬渡島教会で司祭のお恵みをいただきました。いまそろって第一線で活躍していますが、この五名の猛者連が、大胆不敵にも、司祭叙階の前日、当時福岡教区長の深堀司教さまを、お礼の挨拶をかねて訪問した時、各自の赴任先を尋ねました。司教さまはジーッと私たちを眺めながら、どこに行きたいかと聞かれましたので、各自心にもない勝手なことをいったようです。司教さまはしげしげと私たちを見て、「み摂理とは不思議なものですネ、まさか、貴方がたが司祭になるとは思いませんでしたよ」と、話されました。私はそのおことばを忘れることができません。

小神学生の時から、私たちをよくご存知の、司教さまのため息にも似た、驚きのお言葉だったかもしれません。

小神学校入学当初は神妙にしていたが、馴れてくると、とたんに要領よくふるまい、しかも勉強はしない、けんかはする、沈黙は破る、いたずらはするなどの不良神学生でした。退学処分を受けそうになったのが二回、そのたびに罰と謹慎を命ぜられてきたのです。

私の再教育のためでしょうか、み摂理の奇しき業は五年間の小神学校生活に、ペノア神父さま、レウトル神父さま、深堀司教さま、平田惣五郎神父さまの四名の校長先生を、つぎつぎに準備してくださいました。そのご指導の結果、これまでの悪霊がだんだん消されて、今日の司祭生活をいただいたわけです。とりわけ、レウトル神父さま、深堀司教さま、舎監のプレボ神父さまには、ご心配とご迷惑のかけ通しでいまだにすまないと思っています。

小神学校四年生のとき、大東亜戦争が始まりましたが、卒業と同時に、大濠の哲学科神学校に進みました。それから、兵役のためにビルマ方面軍龍兵団の部隊に編入され、銃砲火の中国雲南省の山奥で一年半、悪戦苦闘しながら過しました。

終戦のため、二十二歳の若い生命を散らすに復員することができ、やがて、サン・スルピス大神学院に在籍する身となりました。

後日、プレボ神父さまに「お前は悪かったナ」と、ひやかされながら司祭の末席を汚しているのも、み摂理のなせる業と思い、感謝の日日を送っています。そのかげには、親、兄弟、恩人をはじめ、多くの信者みなさんのお祈りと犠牲があったことはいうまでもありません。

(大楠教会主任)

久留米信愛女学院短大開学してはや十年

去る十一月十一日、久留米信愛女学院短大は平田司教の司式のもとに開学十周年記念式典を挙行した。福岡教区唯一のカトリック高等教育機関であるこの短大は、地域社会の強い要請によって昭和四十三年に開学。この開学に際しては、久留米市長をはじめ、地元の政、財、学界の有力者が誠心誠意この設立に尽力したが、その設立当時だけでなく、今日もなおこのメンバーの協力は続いている。カトリック短大が地域の精神的知的向上のために期待され、殆んどカトリック信者でない市民たちの強力な支援によって守られていることは現代教会の姿の大切な一側面と言えよう。信愛系統の学校は、幼きイエズス修道会を経営母体とし、福岡教区の熊本信愛をはじめ他教区にも幼稚園から短大まで多くの姉妹校をもっている。一方に、カトリシズム、或は姉妹校の支えをもち、他方に、地元有力者の支持や地域社会の期待に支えられて、小規模ではあるが、けじめのある女子教育を行なっている。

再会

賀来明子

私は大分県中津教会で五十数年前幼児洗礼を受けましたが、母に連れられてただ漫然と教会に通う名ばかりの信者でありました。神様の存在は信じながらも、聖トマのようにお傷に手を触れたくて、以前から聖地巡礼を夢見ておりましたが、今年三月、「心のともしび」聖地巡礼団(団長ハヤット神父様)に私たち姉妹三人揃って参加させていただき、念願の旅立ちをすることが叶えられました。

旅行日程に従って各地を三週間にわたり巡礼を致しましたが、神様は信仰薄い私たちにさえ、異郷の地でいくつかの素晴らしい再会の機会をお恵み下さいました。

その一は、バチカンで教皇様謁見の日でした。私たちは式場の最前列でお出ましを待ち受けていましたが、ふと後方で聞き覚えのあるお声がするので、振りかへって見るとヴォビオ神父様でした。神父様は私の姉の所属する中津教会の主任司祭であり、又妹の舅に洗礼を授けられた方です。半年の休暇で、ローマ滞在中との事でした。

大勢の中でよくお目にかかれましたね、と申しあげましたら「今月はヨゼフ様の月ですから、ヨゼフ様が連れて来られたのですよ」と申されましたが、信仰深さを伺い得て恥入りました。

その二は、コルッシー神父様と四十年振りにお会い出来た事です。私が未だ女学生の頃、十七歳の神父様は司祭を目ざして日本に来られ、中津教会に着任されました。当時三姉妹とも大変お世話になったものです。神父様は現在、ローマのサレジオ大学で神学生の指導をされているとの事でした。御住所は分らないが、ここまで来た以上何とかして神父様にお会いしたい私たちは、ホテルのフロントに事情を話しましたら、教会関係に二三度電話をしているうちに幸運にも通じ、姉が「もしもし」といったので吃驚なさったそうです。すぐ、ホテルに来て下さり、感激の再会が出来ました。日本を去られてから十五年にもなるそうですが、日本語は尚達者で一行の通訳もして下さいました。「お互い白いものが多くなりましたね」と懐しい想い出話に花が咲きました。

その三は、巡礼団の中のSさんが、足を痛めて旅行を中断し、帰国する事になりましたが、引率のハヤット神父様が心配されて、出発までの数日間の面倒を見ていただく為に、バチカンで唯一人の日本人シスターにお世話を依頼されました。お会いして見ると、そのシスターは何と、中津教会出身の竹内さんで妹のクラスメートでもありました。三十年振りの思いもよらぬ再会で、本当に夢かとばかりお互いに手を取りあって喜び、神様のお計らいの偉大さに感激致しました。私達のこのような数々の再会シーンを見て、「全くドラマチックですね」と一行の方々も、感銘深く聖地巡礼の想出にされたようです。ハヤット神父様が「世界は狭いね、神様に感謝しましょう」と申されました。

ローマ、ルルド、又イスラエルで神の存在が確認出来ました。幼児洗礼で信者とは名ばかりですが、今は亡き母が残してくれた真の信仰の宝を、何よりの遺産として最後の日まで守り、伝えなければなりません。

このような体験を与えて頂いた神様と母に心から感謝しています。

(大楠教会主婦)

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52―3306
52―8622

保険に加入して車の運転を致しましょう。
大石保険事務所
大石真澄
福岡市中央区天神2丁目13番7号
(長銀ビル5階)
AIU㈱福岡支店内
〒810 TEL771―4761

石のパイオニア
高木石材株式会社
営業種目 {外国産石材輸入加工販売 大理石・御影石・各種石材
〒860熊本市段山本町2-21☎52-2417
工場熊本市花園町41 TEL56―0170
(夜間) 64―6781

クリスマスにちなんで

高木善行

今年もクリスマスがやって来る。クリスマスには誰の心にも喜びと感激が一杯である。私たちキリスト者にとって、この喜びはうわべだけの一時的なものではなく、神の愛に根ざした長続きのするものでなくてはならない。なぜなら神は最愛の独り子を与えるほど私たちを愛され、神と生活を共にできるという神の子としての資格を与えられたからである。

ところで、クリスマスとは神の子が人として誕生されたことであるが、それは神の独り子が事実私たちに与えられたことを意味する。ここに神の最大の愛が示される。「神はおん独り子をお与えになるほど、この世を愛された」(ヨハネ三ノ十六)。この愛は私たちにとってどんな意味があるだろうか。

神が人類に最愛の独り子を与えられたということは、まず私たちひとりびとりに対して驚くほどの好意をもっておられるということである。それも神の好意であるから私たちの想像をはるかに越える最大の好意であり、私たちひとりびとりは実に神の測りしれない愛の対象なのである。誰しも好意なくして、それも大きな好意なくして自分が大事にしているものを与えることはできない。それが自分にとって一番大切なものであればなおさらのことである。神は自分にとって一番大切な最愛の独り子を与えられたのである。

また神が最愛の独り子を救い主として与える約束をされたのは、人祖アダムとエワが神の恩寵に浴していてこの恵みの源、生命の源である神に罪をもって背信行為をしたとき、つまり恩に対して仇を返したときである。普通であればこのような場合、怒りが示され罰が与えられるものである。しかし神は独り子を与えるという最大の愛を示された。神は自分にさからった者に以前より大きい愛を与えられた。神のこの愛に対して不合理のようなものさえ覚えるのではないだろうか。悪を行った者に前より悪い運命を課するのが当然である。さからった者をあまり愛さなくなってこそ理にかなうことである。しかし神は前よりもっと貴重な愛を与えられた。すなわち最愛の独り子を与えることによって三位一体の神を啓示し、天国で得る真の幸せである三位一体の内的いとなみに私たちを与からせる。これこそ神との和解、神との共なる生活、三つのペルソナである父と子と聖霊が私たちに住まわれることであり、名実共に神と父子関係をもつ神の子としての資格を得ることである。このように恩を仇で返した者に大きい愛を与えることは、それが神自身の愛ゆえでないとすれば、この神の態度には正当性がない。あえていえば、父である神の愛の愚かさゆえに私たちをかくも愛されたのである。ここに至っては測りしれない神の愛の神秘に行き当るのである。「善をもって悪に勝つ」(ローマ十二ノ二十一)神の愛のいかに大きいことか。神のこの大きな愛が私たちひとりびとりに与えられている。

ところで、神のかくも大きな愛は私たちひとりびとりに対する神の呼びかけである。この愛の呼びかけはつねにしかるべき応答を要求している。私たちの方からの絶えざる協力が必要とされる。この応答なしには神の愛がいかに大きくても、それは実現されず、いわば絵にかいたモチにすぎないものとなる。私たちはこれを受け入れ、消化させ、血となし、肉としなければならない。この姿勢が神の愛の呼びかけに対する応答である。

私たちのこの応答は決して大それたことを要求するものではない。誰しもが今の身分において果たさなければならないごく普通の日々のつとめを、神の愛の呼びかけに対する答えとして誠実に果たすことで十分である。これをパウロは、「食べるにつけ、飲むにつけ、何をするにもすべてを神のためにおこなえ」(コリ前一ノ三十一)と教えている。

キリストはこのためにとくに祈りが必要であることを強調する。かれの生き方の中で祈りはきわめて重要な意味をもっている。かれはしばしば祈るために自分だけで山に登ったり、人々から離れて祈ったりしており、とくに十字架上のいけにえを前にしてのゲッセマニの園での祈りはきわだっている。また弟子たちがかれを探していたときさえ祈っている。かれのこのような祈りは父なる神との静かな親密な交わりというだけでなく、かれに課せられた使命遂行と不可分のものである。かれの祈りとその使命の間には切っても切れない、強い結びつきがある。またパウロも祈りを自分の使命達成に関連させている。かれは祈りに言及するとき、「つねに」とか「どんなときにも」とか「昼も夜も」などの副詞句を付け、「私のために神に祈って私とともに戦うように」(ローマ十五ノ三十)と兄弟たちに願っている。つまりパウロは祈りを一種の闘争とみなしていて、この闘争はかれの使徒的使命における苦しみとの戦いと分離できないものである。かれにとって祈りは、使命遂行にあたって出会う試練に打ち勝つためになくてはならないものなのである。

このように特別の恩寵をもらったパウロさえ、さらには人間であっても真の神の子であったキリストでさえ自分に与えられた使命を果たすために祈りを重視している。したがって私たちもなおさらのこと自分のつとめを果たすために日々の祈りを大切にし、祈りに支えられ、祈りに強められることが必要である。そしてこのような生き方を通して神の愛の呼びかけに答え、神と父子関係をもつすばらしい神の子としての身分を実生活において実現していかなければならないのである。これがクリスマスをふさわしく迎えることであり、クリスマスの喜びを、長続きのするものとしてより多くの人々と共に味わうことではないだろうか。

(サン・スルピス大神学院教授)

聖体行列

筑後地方教会 主催

秋晴れの十月二十三日午後一時三十分から、太刀洗町今村カトリック教会で、筑後地方の七教会と鳥栖カトリック教会の共同主催による聖体行列が行なわれた。平田司教と九名の司祭による共同司式ミサで始まる。ミサ後高らかに歌唱する聖体賛歌の調べに、実るほど頭を垂れる稲穂の田園を縫うように、聖なる行進が続いた。特に、今回は聖体を通して豊かな収穫を感謝するとともに、教区創立五十周年記念式典の目標である「キリストを知り、キリストを知らせよう」の意識と実践を具顕したものであった。二二〇〇名余の参加者の中には、遠く福岡から与かった貸切バス組もあった。

聖体を捧持して進む平田司教

クリスマスのミサ時間

		24日	25日
教会	会来	19.30	9.00
教会	久留		8.00
大名町	手取	19.40	10.15
大名町	(司教ミサ)		7.00
浄水通	縞山	20.00	9.00
浄水通	新宮		18.00
大茶西	小倉	19.00	10.00
大茶西	高野	23.00	
福岡市内	老司	22.00	9.30
福岡市内	美島		19.00
東	東田	19.30	9.30
		20.00	9.00
		20.00	10.00

12月20日から大名町教会のクリスマスの照会は(041)—3687にどうぞ。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長 菅 種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四角 TEL 521—0568